

学生要覧 (学習案内)

工学部第二部

2012



平成24年度
東京電機大学

T D U プライバシーポリシー

学校法人東京電機大学の個人情報保護に関する取組み

学校法人東京電機大学は、個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十七号）に基づき、個人情報保護の重要性に鑑み、保有する個人情報の取扱いについて、適正な収集、利用、管理及び保存を図り、もって個人の権利利益及びプライバシーを保護するため、次の事項を遵守します。

1. 個人情報の収集

個人情報の収集は、必要な範囲内において利用目的を明確に定めて、適正かつ公正な方法によって行います。

2. 個人情報の利用

個人情報の利用は、目的達成に必要な範囲内で利用します。

3. 個人情報の提供

個人情報は、法令に基づくとき、本人の同意があるとき等を除き、第三者に提供いたしません。

4. 個人情報の管理

個人情報は、個人情報保護責任者を定めて、正確かつ安全に、管理及び保存を行います。

5. 個人情報に関する請求への対応

個人情報の開示、不開示、訂正、利用停止等の請求に速やかに対応いたします。

6. 個人情報保護の推進等

個人情報保護推進等のため、必要な組織（委員会）を設置します。

東京電機大学工学部・未来科学部事務部及び学生支援センター セキュリティポリシー

東京電機大学工学部・未来科学部事務部及び学生支援センターでは、業務を滞りなく遂行する上で、収集及び知り得る「個人情報」(氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができる情報) について、情報基盤の整備、管理、活用することの責務を認識し、厳重な管理体制のもとで情報資産の管理、保管を行い、情報の機密性、安全性を維持することにより、「個人情報」保護の促進に努めます。

また、本来の目的以外で「個人情報」を第三者等に漏洩することのないよう、「東京電機大学工学部・未来科学部事務部及び学生支援センター個人情報保護に関するガイドライン」を遵守し、合理的な範囲内でセキュリティの強化に務めます。

以上

目 次

次世代科学技術を担う皆さんへ（学長 古田勝久）	1
工学部で学ぶ皆さんへ（工学部第二部長 藤田 聡）	2
工学部第二部の教育	5
履修案内	55
履修案内（社会人コース）	83
履修上の注意（開講科目対応表）	89
資格・免許	93

電気電子工学科の開設に伴う、電気工学科並びに電子工学科の取り扱いについて

平成20年4月1日から、工学部第二部に電気電子工学科が新たに開設されました。この学科は、現在開設されている工学部第二部の電気工学科並びに電子工学科を再編し、新しい学科として設置されたものです。

この新しい学科の開設により、平成19年度以前から電気工学科並びに電子工学科に在籍している学生諸君の所属する学部学科名称等が変更になることはありません。

- (1)平成20年4月1日以降、電気電子工学科1年次に入学する学生は、新学科の所属となります。
- (2)平成19年度以前に電気工学科並びに電子工学科に入学した学生は、卒業するまで電気工学科並びに電子工学科の所属となります。（卒業後も同様です。留年しても新学科の所属にはなりません。従って、学位記、学生証、卒業証明書、成績証明書は入学したときの学部学科名称が記載されます。）

ただし、転学部・編入学・再入学・転学科者等は次のとおりです。

- ・転学部・編入学・再入学・転学科者等した先の正規学年次生と同じ学科の所属になります。

今後は、電気電子工学科の学生と電気工学科・電子工学科の学生は、同じ教室で授業を受講することになります。履修条件等については、電気工学科・電子工学科の所属の学生にはそれぞれ電気工学科・電子工学科の所属する学科の履修条件等が適用され、電気電子工学科の学生には電気電子工学科の履修条件等が適用されます。よって、学生要覧（学習案内）の記載内容や掲示（ホームページ）については、学科別に案内することとなりますので、自分の所属する学科に十分注意を払い確認してください。なお、共通事項となる案内については、掲示等を行なう際にその旨を記載し、共通して案内することがあります。

学生ポータルサイト(DENDAI-UNIPA、以下:UNIPA)の活用について

UNIPAとは、インターネットを通じて、大学生活を便利にする様々な機能を利用できるシステムのことです。

具体的には、掲示情報(休講・補講等の授業関係や学生厚生・キャリア支援からのお知らせも含む)・時間割・シラバス(講義要目)・成績照会の閲覧、履修登録、スケジュール管理等の機能があります。

大学は、これまでの高校等と異なりホームルームがありません。大学生活に必要な情報の取得、履修登録、スケジュール管理等は全て自身で行っていただくことになります。

UNIPAには、大学から情報が随時発信されていきます(特に、授業開始前から履修登録終了までの期間、また試験前にはより多くの情報が発信されます)。これから皆さんは、UNIPAに1日複数回は必ずアクセスすることを習慣とし、見落としや手続き漏れにより不備なく大学生活が送れるよう注意してください。

UNIPAは下記のURLよりアクセスできます。

<https://portal.sa.dendai.ac.jp/>

※ログインには本学のネットワークを利用するためのID(学籍番号)およびパスワードが必要です。(例:12ee999 ※学籍番号の英文字は小文字で入力してください。)

※新入生への初期パスワードは入学時にお知らせいたします。

※Internet Explorer7以上、Firefox3.6以上で動作確認を行っております。携帯電話には対応していません。

1. ログイン画面



2. 画面説明

UNIPA のトップ画面について簡単に説明します。

The screenshot shows the TDU student portal interface. At the top, there are navigation menus and a search bar. Below that, there are sections for '重要な連絡' (Important Messages), '授業に関するお知らせ' (Classroom Information), '休講・補講連絡' (Class Cancellation/Makeup), 'キャリア・就職関連情報' (Career/Job Information), and '学生厚生からのお知らせ' (Student Welfare Information). A calendar is visible on the left side, and a '授業情報' (Classroom Information) section is highlighted with a red box and an arrow pointing to the calendar area. The bottom right corner has a '掲示情報' (Notice Information) section.

- ①各種メニュー … 利用可能なメニューを表示します
- ②サイトマップ … 現在利用可能な機能一覧を表示します (次ページ参照)
- ③カレンダー … [スケジュール]ボタンをクリックすることでスケジュール機能を利用することができます
- ④授業情報 … 履修している授業の情報、カレンダーで登録したスケジュール、大学の行事予定を表示します
- ⑤掲示情報 … 大学から配信している掲示情報を表示します

3. 主な機能

サイトマップを選択すると、現在利用可能な機能及びその内容を一覧にて表示できます。



The screenshot shows a web browser window displaying the TDU Student Portal Site. The page title is "TDU 学生ポータルサイト" and the URL is "https://portal.su.dendai.ac.jp/...". The main content area is titled "サイトマップ" (Site Map) and contains a table of links and descriptions for various site functions.

機能名	説明
個人別情報	
学籍情報について	学籍情報についての説明です。
学籍情報照会	自分の個人情報について、大学に登録されている情報を参照することができます。
履修登録	
履修登録について	履修する科目の登録を行います。 Web履修登録期間は以下のとおりです。 登録: 〇月〇日(〇) 〇時〇分～〇月〇日(〇) 〇時〇分 確認及び修正: 〇月〇日(〇) 〇時〇分～〇月〇日(〇) 〇時〇分 登録期間中は、登録用のメニューが表示されますので、期間中に必ず履修登録を行ってください。 また、毎日深夜にシステムメンテナンスが行われます。メンテナンス中はシステムを利用できませんので注意してください。
時間割	
時間割について	時間割についての説明です。
学生時間割表	履修中の科目の時間割を一覧形式とカレンダー形式で表示します。
教員用時間割	教員の時間割を一覧形式とカレンダー形式で表示します。
授業時間割表	授業時間割を一覧形式とカレンダー形式で表示します。
授業	
授業関係について	授業支援関係の機能についての説明です。
課題提出	教員の作成した課題内容の確認・提出を行います。
授業評価閲覧	授業評価の結果を公開しているシステムへのリンクです。
シラバス参照	シラバスを表示します。
シラバス参照(1部)	工学部第一部のシラバスを公開しているシステムへのリンクです。
アンケート/Q&A	
アンケート回答	アンケートの回答を行います。

※機能が追加される場合は、UNIPA の「[掲示情報](#)」にて周知し、各種メニュー及びサイトマップにアップします。

学生に対する通知・連絡方法(掲示)について

UNIPA での通知・連絡を主として行うこととし、掲示板への掲示(2号館3階工学部・未来科学部事務部前、学科・実験室前等)は必要に応じておこないます。

緊急時の連絡手段としても UNIPA を活用しますので、必ず1日に複数回、UNIPA を確認してください。

なお、本文中の「掲示」の記載も、原則 UNIPA での通知・連絡を指します。



The screenshot shows the TDU student portal interface. The main content area is divided into several sections:

- 重要な連絡 (Important Notices):** Contains a list of notices with dates and icons. A red box highlights this section, and a red arrow points to a yellow callout box at the bottom right.
- 授業に関するお知らせ (Classroom Notices):** A section for classroom-related information.
- 休講・補講連絡 (Class Cancellation/Makeup Notices):** A section for class cancellation and makeup notices.
- キャリア・就職関連情報 (Career and Job Information):** A section for career and job-related information.
- 学生厚生からのお知らせ (Student Welfare Notices):** A section for student welfare notices.

A yellow callout box at the bottom right contains the text: **通知・連絡は「掲示情報」に表示します** (Notices and contact information are displayed in the "Notice Information" section).

2012(平成24)年度 前期 授業行事日程予定

※予定のため変更の可能性あります。変更の場合は事前に掲示にて案内いたします。

	日 月 火 水 木 金 土							予定		備考
	4月	1	2	3	4	5	6	7	4/2	
	8	9	10	11	12	13	14	4/3~4/9	新生・在学生オリエンテーション・履修ガイダンス	
	15	16	17	18	19	20	21	4/5~4/9	健康診断学年別	
	22	23	24	25	26	27	28	4/10	前期授業開始	
	29	30						4/10 ~4/17 4/11 ~4/17	用紙で行う履修登録 Webによる履修登録期間（人間科学科目等）	
5月			1	2	3	4	5	5/1~5/7	Webによる履修登録期間(英語科目・専門科目等)	※履修登録の締切時間は掲示等で確認すること
	6	7	8	9	10	11	12	5/9~5/11	Webによる履修確認および修正	
	13	14	15	16	17	18	19	5/13	合同体育祭	
	20	21	22	23	24	25	26			
	27	28	29	30	31					
前 6月						1	2			
	3	4	5	6	7	8	9			
	10	11	12	13	14	15	16			
	17	18	19	20	21	22	23			
	24	25	26	27	28	29	30			
期 7月	1	2	3	4	5	6	7	7/16	月曜日の授業実施日	前期授業終了(海の日祝日の振替休日は17日) 授業予備日 前期定期試験
	8	9	10	11	12	13	14			
	15	16	17	18	19	20	21	7/18.19		
	22	23	24	25	26	27	28	7/20~7/31		
	29	30	31							
8月				1	2	3	4	8/1~9/9	夏季休業期間	
	5	6	7	8	9	10	11			
	12	13	14	15	16	17	18			
	19	20	21	22	23	24	25			
	26	27	28	29	30	31				
9月							1			
	2	3	4	5	6	7	8			
	9									

7/18,19は授業予備日です(開講科目の授業時間割は別途掲示をします)。

2012(平成24)年度 後期 授業行事日程予定

※予定のため変更の可能性あります。変更の場合は事前に掲示にて案内いたします。

	日 月 火 水 木 金 土							予定		備考
	9月	10	11	12	13	14	15	9/10	後期授業開始	
	16	17	18	19	20	21	22	9/11	創立記念日	
	23	24	25	26	27	28	29	9/10~9/18	用紙で行う履修登録	
	30							9/12~9/18	Webによる履修登録期間(人間科学科目等)	
								9/19~9/24	学園祭による休講期間	
								9/21~9/23	学園祭	
10月		1	2	3	4	5	6	10/1~10/3	Webによる履修登録期間(英語科目・専門科目等)	※履修登録の締切時間は掲示等で確認すること
	7	8	9	10	11	12	13	10/5~10/9	Webによる履修確認および修正	
	14	15	16	17	18	19	20			
	21	22	23	24	25	26	27			
	28	29	30	31						
11月					1	2	3	11/3	文化の日	
	4	5	6	7	8	9	10	11/23	勤労感謝の日	
	11	12	13	14	15	16	17			
	18	19	20	21	22	23	24			
	25	26	27	28	29	30				
12月							1	12/20	授業終了	
	2	3	4	5	6	7	8	12/21	授業予備日	
	9	10	11	12	13	14	15	12/22~1/6	冬季休業	
	16	17	18	19	20	21	22			
	23	24	25	26	27	28	29			
	30	31								
2013 1月			1	2	3	4	5	1/7	授業再開	
	6	7	8	9	10	11	12	1/12	後期授業終了	
	13	14	15	16	17	18	19	1/15,16	授業予備日	
	20	21	22	23	24	25	26	1/18~1/20	大学入試センター試験および準備に伴う閉館(2号館)	
	27	28	29	30	31			1/17~1/30	後期定期試験	
2月						1	2			
	3	4	5	6	7	8	9			
	10	11	12	13	14	15	16			
	17	18	19	20	21	22	23			
	24	25	26	27	28					
3月						1	2	3/2	卒業発表	
	3	4	5	6	7	8	9	3/8	進級発表	
	10	11	12	13	14	15	16	3/17	卒業式(予定)	
	17	18	19	20	21	22	23			
	24	25	26	27	28	29	30			
	31									

12/21・1/15 /1/16は授業予備日です(開講科目の授業時間割は別途掲示をします)。
3/17卒業式は予定です。

東京電機大学の建学の精神

「実学尊重」

1907年（明治40年）の「電機学校設立趣意書」において、「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」に基づき、「実学尊重」を建学の精神として掲げた。

東京電機大学の教育・研究理念

「技術は人なり」

1949年（昭和24年）の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽 保次郎（にわ やすじろう）先生は、「よい機械を作るにはよい技術者でなければならない」すなわち、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考え方に基づいた「技術は人なり」を教育・研究理念として掲げた。

(財)大学基準協会による認証評価(大学評価)の受審について

認証評価制度は、2002（平成14）年の学校教育法の改正に伴い、各大学は、教育・研究水準の向上に資するため、当該大学の教育・研究、組織・運営、施設・設備等の総合的な状況について、一定期間（7年以内）ごとに文部科学大臣の認証を受けた者（認証評価機関）による評価（認証評価）を受審することとなり、2004（平成16）年に導入されました。

本学は、2009（平成21）年度に財団法人大学基準協会（認証評価機関）において、認証評価を受審した結果、大学基準に適合していることが認定（認証期間：2010（平成22）年4月1日～2017（平成29）年3月31日）されました。

今後も更なる教育・研究活動の充実・発展のため、改善・改革を実施し、学生の皆さんの期待に応えられるよう、教育・研究の質の向上に取り組みます。

次世代科学技術を担う皆さんへ

学 長
古 田 勝 久

東京電機大学は、1907年に廣田精一先生と扇本眞吉先生が「技術で社会に貢献する人材を養成し、国を発展させること」を目指し神田に創立した電機学校が母体で、社会が必要とした学問である「実学」を尊重することを建学の精神とされました。東京電機大学は、この学園の使命と建学の精神を受けつぎ、さらに初代丹羽保次郎先生の名言である「技術は人なり」を教育・研究の理念としています。そして現在、工学部、工学部第二部、未来科学部、理工学部、情報環境学部の5学部と、工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科の4研究科(大学院修士課程)および先端科学技術研究科(博士課程(後期))を擁しています。2007年には学園創立100周年を迎え、卒業生は約20万人以上にのぼり、社会から高い評価を得てきました。

さて、現代は、政治、経済、産業のすべての分野において、科学技術の知識なしには正しい決定の出来ない時代であり、知識自体が価値を持ち、価値を生み出す「知識基盤社会」と言われております。すなわち、科学技術そのものが、現代の「実学」であります。東京電機大学は、この社会を支える科学技術者の養成と、科学技術の知識を生み出す重要な役割を果たして来ました。

これから皆さんは、科学技術の基盤と専門を学び、科学技術の専門家として様々な問題発見と解決により、社会へ貢献して下さることを期待しております。将来、最新知識と技術を駆使するためには、まず数学のような基礎の勉強を重視してください。大学時代は人生で一番効率良く、新しい知識を吸収し、自分の能力に出来る時代です。科学技術者として社会で活躍するために、自分の専門に関する知識を学ぶと共に、それを応用する能力も身につけてください。専門以外の、いろいろ関連分野にも興味を持ってください。現在社会は、環境、資源、エネルギー等のように、広い分野の知識と技術を統合しなければ解決されない問題に直面しております。

ほとんどの企業が、研究、開発、生産、販売を一つの国の中で行うことがまれになり、国際的に活動する時代となり、科学技術者にも国際的なコミュニケーション能力が要求されるようになってきました。科学技術の教育も国際的になってきました。専門はもちろんですが、社会では外国語の知識が必要なおもしっかり認識してください。

東京電機大学でこれから学ぶ基礎と専門によって得られる問題発見と解決能力が、皆さんと日本さらには人類の未来を創ります。将来国際的な技術者として活躍できるように、大学生活を有意義なものにしてください。

工学部第二部で学ぶ皆さんへ

工学部第二部長
藤田 聡

脇 英世先生の後を引き継ぎ、工学部第二部長に就任いたしました。新入生の皆さんとは同じ「新人」なのですが、昨年度までは工学研究科委員長・先端科学技術研究会委員長として大学院の運営に当たってきましたので、在学生の皆さんはご存知かも知れません。まずはよろしくお願ひします。

私が大学生であったのは30年余も前の事ですが、この時期の「桜の花の色」と「春の幸せな空気の匂い」、そしてこれから始まる新生活に向けて社会全体が動き出す「わくわくとした雰囲気」だけは未だに昨日の事のように覚えています。思い返せば、あの時代は幸せな時代でした。二度のオイルショックも終わり、薔薇色の高度成長を社会が享受している頃で、「努力」が「とにかくやる事」と、「成果」が「やれば出てくる」と同義な意味として理解できる、とても素直な時代であったわけです。それに比べて皆さんは大変な時代に学生生活を送る訳です。

過去において我国の目標で、現在はライバルである欧米だけではなく、新興国においても技術開発の新たな形態が盛んに生まれており、我が国の工業は大きな構造的変革を迫られています。今後も日本の優位性を維持していくためには、良く言われるように製品設計のプラットフォーム化、製品のコモディティ化、研究開発の短期化等に積極的に取り組んでいかなければなりません。従って、皆さんは今までも増して「何か新たな価値を創成する能力」を鍛錬していかななくてはならず、社会もそれを求める時代だと思って間違いありません。

そんな中、昨年は東北地方を中心に未曾有の被害をもたらした東北地方太平洋沖地震が発生し、我国の産業施設／構造の脆弱さを目の当たりにしました。昨今の社会構造変化に伴う「学生の理工系離れ」、「年金問題」や「政治不信」などと言った社会不安に加えて、このような大災害に対応していかなければならず、真に痛ましい状況ではないかと思ひます。こういう先の見えない時代は、地に脚をつけて、素直な気持ちを大切に、自分の目標をしっかりと見つけていかないと暮らしていきにくい社会環境だと思ひます。

「日本は工業生産で食っている国です」。

こんな素直な考え方をするのがこの複雑怪奇な社会を生き抜くのに一番であると思ひますし、それを信じて私は生きています。狭い国土、零に等しい資源、自給できない農業生産…、皆さんは「工学部で学ぶ」というとても良い選択をしたのだと思ひます。胸を張って学生生活を送ってください。

「工学」は最終的には科学技術を駆使して「物」を創り出し、これが人びとの生活を安全で快適な物へと導くものであると信じます。身の回りを眺めてみてください。自分一人で、ゼロから創り出せる物が何かありますか？ボールペンでも鉛筆でも消しゴムでも、当たり前のように使っている物でさえ、何一つ自分一人でゼロから創り出せる物なんてないのです。私は20歳の時にこんな当たり前の事に気づき一人で感動していました。次に認識すべき点は、自動車や半導体や航空機はどこかの誰かが作っているのではなく、これは先輩達の努力の成果であり、これからは皆さん達がこれに続いていく事なのだと思います。既に一步は踏み出されたのです。

4月、新学年の始まるこの季節に気持ちも新たに、皆で頑張りましょう。

工学部第二部の教育

1	工学部第二部の教育目標	7
2	学科・系列の教育目標と理念	8
3	学科・系列の履修モデル	11
4	授業科目配当表	25

1 工学部第二部の教育目標

【教育目標】

工学部第二部は、2008年度（平成20年度）に学科構成を4学科から3学科へ改編し、科学技術分野における「知」の継承と現代社会に必要とされる「技術」を展開することにより、現代社会が直面する問題を解決し、さらに進んで社会の発展に寄与することのできる確かな能力を培うことを目的としている。

すなわち、現代社会において必要とされる科学技術とその進展に貢献するための実践的技術者を養成する。また、併せて、夜間学部として、社会人教育を推進する。

本学部は、本学の建学の精神「実学尊重」、教育・研究理念「技術は人なり」に基づき、夜間学部としての幅広い多様なニーズに応える教育課程及び方法を編成するために以下を目標とする。

【教育内容】

- ①実社会で真に必要とされる技術者を養成するために、実験や実習に重点をおいた教育課程を編成する。
- ②「理論的な技術力」「意思伝達能力」を持った人材を養成するための教育課程を編成する。
- ③産業界や社会のニーズに応える人材育成を目指したカリキュラム編成とする。
- ④夜間学部であり、昼間学部に比べて開講授業科目が限られているが、大学院への進学希望者にとって十分対応可能なカリキュラム体系とする。
- ⑤共通教育科目では、社会人としての基本的な素養、技術者としての視野を幅広く獲得できる教育課程とする。

【教育方法】

- ①基礎学力を確実に身に付けさせるため、少人数教育及び学習サポートセンターによる学習支援を充実・強化する。
- ②定職を持ち、昼間は働きながら夜間勉強を希望する社会人コース学生に対し、社会人コースアドバイザーによる履修相談、きめ細やかな指導体制を充実させる。
- ③授業評価アンケートを実施し、授業方法の改善に努める。
- ④GPA（総合的成績評価）を使用することによって、さらに学生の学習意欲を向上させる仕組みを充実・強化する。
- ⑤社会人学生の履修ニーズに応えるよう体系的な教育課程の中で自由度のある履修方法を充実・強化する。

2 学科・系列の教育目標と理念

電気電子工学科の教育目標と理念（平成20年度以降入学生用）

電気電子工学はすべての産業分野に関わる基幹分野として、近年、益々発展しており、省エネルギー・省資源・省力化を実現し、環境問題を解決し、人類の福祉と発展に貢献する要の分野としてその重要性を増している。このような状況を考慮し、本学科は、電力・エネルギー応用、電気機器・パワーエレクトロニクス、電子回路・装置、計測・制御システム、コンピュータ・情報システム、半導体デバイス・電子材料の6分野に亘る授業科目を配すことにより、社会や産業界の要請に適合する基礎学力、並びに、専門技術に関する知識を有するとともに、創造性豊かで、コミュニケーション能力を備えた人材を養成することを教育目標としている。

機械工学科の教育目標と理念

未来を切り開く先端技術のみならず、急速に進展する今日の技術に追従できるように基礎知識を徹底的に理解させるとともに、それを応用して新技術を生み出す能力を育成するための教育と研究に尽力している。実際の教育では、「材料と加工」、「エネルギー」、および「情報と機械システム」の3コースを設け、従来の機械工学およびこれに関連する学問の基礎的な知識を深め、それらを柔軟に使いこなす応用力と、新技術を作り出す創造力を身につけることに主眼をおき、広い視野を持った機械エンジニアを育成することを目標としている。教育の基本方針としては、基礎学力を徹底して修得させ、先端技術を理解できる創造性豊かで、視野が広く広範な工学分野をカバーし、新しい技術の習得にも対応でき、さらに、人間にやさしく人間に役立つ機械技術の開発・研究に携わる人材の育成を目指している。

情報通信工学科の教育目標と理念

高度情報社会において情報通信技術は中心的な役割を担っており、その発展が大きく期待されている。この状況を踏まえ、情報通信工学科はコンピュータ、通信、ネットワーク、メディアという4つの技術分野において21世紀の社会に貢献できる技術者、研究者を育成することを目標としている。

教育方針としては、①幅広い分野において基礎学力を身につけさせること、②実験や実習を通して応用力、実践力を鍛えること、③実社会で通用する確かで柔軟な思考力、想像力を養うこと、④国際的、学際的な知識や素養を身につけさせること、⑤日本語、外国語を問わずコミュニケーション能力を持たせること、⑥人間や社会に対して関心や責任をもつ専門家を育てること、を目指している。

電気工学科の教育目標と理念（平成19年度以前入学生用）

電力・エネルギー応用、電気機器・パワーエレクトロニクスなど電気工学固有の分野を始め、計測・制御システム、コンピュータ・情報システム、半導体デバイス・電子材料など広範囲な分野の発展に寄与できる技術者を育成し、もって電気工学を通じて社会に貢献できる基礎

知識を十分に備えた専門家の輩出を目指している。

基本的な教育方針としては、人類の幸福、福祉とは何かについて考える能力と素養の修得を基礎として、将来、電気工学の何れの分野に進んだ場合でも柔軟に対応できる専門の基礎学力を十分に習得したうえで、上述の広範な研究分野の発展に寄与できる広い視野を持ち、さらに、造詣の深い専門分野を有し、かつ外国語を含めたコミュニケーション能力、主体的かつ創造的なデザイン能力とプロジェクト遂行能力などを併せ持つ技術者・研究者の育成を目標としている。

電子工学科の教育目標と理念（平成19年度以前入学生用）

21世紀においては、情報通信技術や遺伝子工学、生命工学が我々の社会生活に劇的な変革をもたらすと考えられている。また、グローバルには環境問題、国内においては高齢化の進展に伴う介護問題などが今後解決すべき社会的なテーマである。このような状況下においても、デバイス技術、回路設計、制御技術、情報処理などのエレクトロニクス関連技術が社会に与えるインパクトは、依然として大きいと考えられる。その結果、高度な技術を持ったエレクトロニクス関連技術者への社会的な要請は今後とも益々高まると考えられる。このため本学科では、様々な産業分野に対応できるエレクトロニクス専門技術者の育成を基本的な教育目標としている。そのため、電子工学科では、学生に最先端技術に触れさせるとともに、基礎的な学問内容の習得によって社会にインパクトを与えるような斬新なアイディアをもつ創造性豊かな人材育成に力を注いでいる。

人間科学系列の教育目標と理念

社会人として活動するための基礎的な素養を習得させ、情報化、国際化の進展する現代日本社会で活動するための教養教育を展開する。その際、工学部における専門教育との関係性に十分配慮し、これからの技術者に求められる、柔軟で豊かな見識を育むための基礎を培うことを念頭におくことを理念とし、豊かな人間性と幅広い教養を育みつつ、将来の社会生活で必要な論述力、討議能力やプレゼンテーション能力、さらには異文化理解能力や健康管理能力、そして人間にとって最も基本的な論理的思考能力の育成を目標とする。

英語系列の教育目標と理念

情報通信ネットワークの普及により、諸外国との英語によるコミュニケーションが身近なものとなってきた。特に技術者にとっては、英語を通して最新情報の収集・発信を行うことは、今や日常的になっている。国際語としての英語によるコミュニケーション能力の養成、国際社会に対する知識・理解力を備えた技術者の涵養、および技術者として生涯にわたって積極的に英語力の研鑽を積むための基礎を養成することを英語教育の理念とする。英語はもはや数ある外国語の一つではなく、社会生活を送る上で欠くことのできないコミュニケーションの手段である。教育にあたってはまず、学生の現在の英語力を診断し、それに基づいた習熟度別の指導体制を採っている。それぞれに求められる知識の基礎を固め、さらには社会で使える運用能力に引き上げるため、英語の運用能力（読む・書く・話す・聴くの4技能すべて）を向上させる教育を行う。

数学系列・物理系列の教育目標と理念

幅広く、かつ柔軟な工科系の素養を身につけるには、工科系科目の基礎となる数学、物理学の知識を身につけることが不可欠である。しかるに、近年の高校カリキュラムの改定、入学経路の多様化により、新入生の間の学力には大きな開きが見られるとともに、専門科目を学ぶに足る基礎知識を習得しないまま、専門科目を学ぶに至る現状が見受けられる。

数学系列、物理系列はこのような学生間の基礎学力の開きを考慮して新入生の学力に応じたクラス編成を行い、基礎学力の向上させることに努めるとともに、専門科目を学ぶに足る基礎知識を習得させることを目標とする。

3 工学部第二部 履修モデル

人間科学科目履修モデル	P 13
英語科目履修モデル	P 14
電気電子工学科履修モデル (平成20年度以降入学生用)	P 15 ～ P 16
機械工学科履修モデル	P 17 ～ P 19
情報通信工学科履修モデル	P 20
電気工学科履修モデル (平成19年度以前入学生用)	P 21 ～ P 22
電子工学科履修モデル (平成19年度以前入学生用)	P 23 ～ P 24

工学部第二部 人間科学科目履修モデル

卒業所要単位における必要な単位数（人間科学科目 8 単位）

科目区分		人間科学科目		
教育・学習目標		社会人としての基本的な素養を習得するための科目、技術者としての視野を幅広く獲得するための科目、さらに社会における科学技術の意義や問題点を探求する人間科学科目を学習することによって、専門教育と相互に補完しつつ21世紀の技術者に要請されるさまざまな資質を総合的に陶冶することを目標とする。	単位数	
履修推奨科目	1年	前期	人間科学科目 (1科目、体育基礎も含む)	2
			人間科学科目 (1科目、体育基礎も含む)	0 か 2
		後期	人間科学科目 (1科目、体育基礎も含む)	2
			人間科学科目 (1科目、体育基礎も含む)	0 か 2
		小計		6
		累計		6
	2年	前期	人間科学科目 (1科目、体育基礎も含む)	2
			人間科学科目 (1科目、体育基礎も含む)	0 か 2
		後期	人間科学科目 (1科目、体育基礎も含む)	2
			人間科学科目 (1科目、体育基礎も含む)	0 か 2
		小計		6
		累計		12
	3年	前期	人間科学科目 (1科目、体育基礎も含む)	2
			人間科学科目 (1科目、体育基礎も含む)	0 か 2
後期		人間科学科目 (1科目、体育基礎も含む)	2	
		人間科学科目 (1科目、体育基礎も含む)	0 か 2	
小計			6	
累計			18	
4年	前期			
	後期			
小計				
総計		18		
合計科目数		18		

工学部第二部 英語科目履修モデル

卒業所要単位における必要な単位数（英語科目5単位）

■英語履修モデルの見方

この履修モデルは、レベル別の履修の例を示したものである。しかし、レベルについては固定的に考えるのではなく、英語力を伸ばし上のレベルに移行することを目指して学習に取り組むこと。基幹科目（英語Ⅰ～Ⅳ）においては授業もレベル別に行われるが、学年や学期の区切りで英語力の伸長状況によりクラスの移動もありうる。

対象	英語初級クラス		英語中・上級クラス		
教育・学習目標	英語入門レベルの学生に対して、英語の基本的な文法事項と語彙の定着を徹底させ、4技能を総合的に学習させる。英語基幹科目（英語Ⅰ～Ⅳ）を中心に履修を推奨する。	単位数	英語中・上級レベルの学生に対して、英語の文法事項と語彙を充実させながら、4技能の運用力を向上させる。英語の基幹科目（英語Ⅰ～Ⅳ）を中心に履修を推奨するが、興味、学力に応じて、発展的科目（検定英語、英語表現、英語演習、英会話）の履修を認める。	単位数	
履修推奨科目	1年 前期	英語Ⅰ	1	英語Ⅰ	1
		オーラル・コミュニケーションⅠ/メディア英語Ⅰ	1	オーラル・コミュニケーションⅠ/メディア英語Ⅰ	1
	1年 後期	英語Ⅱ	1	英語Ⅱ	1
		オーラル・コミュニケーションⅡ/メディア英語Ⅱ	1	オーラル・コミュニケーションⅡ/メディア英語Ⅱ	1
	小計		4		4
	累計		4		4
	2年 前期	英語Ⅲ	1	英語Ⅲ	1
				(検定英語Ⅰ, 英語表現Ⅰ)	(1)
				(海外英語短期研修)	(2)
	2年 後期	英語Ⅳ	1	英語Ⅳ	1
				(検定英語Ⅱ, 英語表現Ⅱ)	(1)
				(海外英語短期研修)	(2)
	小計		2		2～
	累計		6		6～
	3年 前期			英語演習Ⅰ, 英会話Ⅰ	(1)
				(海外英語短期研修)	(2)
	3年 後期			英語演習Ⅱ, 英会話Ⅱ	(1)
				(海外英語短期研修)	(2)
	小計		0		2～
	累計		6		8～
4年 前期			入門ビジネス英語Ⅰ	1	
			(海外英語短期研修)	(2)	
4年 後期			入門ビジネス英語Ⅱ	1	
小計		0		2～	
総計		6		10～	
合計科目数		6		10～	

注意：
海外英語短期研修は、2単位が上限。

第二部電気電子工学科分野別推奨履修モデル（その1）（平成20年度以降入学生用）

☆：必修科目 ◎：特に修得すべき科目 ○：修得すべき科目 ◦：できれば修得する科目

学習・教育目標	本学科では、電気電子工学固有の分野並びに広範な電気電子系関連分野の発展に貢献できる視野の広い専門技術者を育成するようカリキュラムを構成しています。卒業後何れの分野に進んだ場合でも柔軟に対応できる十分な基礎学力を低学年時において十分に修得しつつ自ら興味のある分野を選択し、その後、選択した分野に焦点を合わせて学習を積み重ねて、卒業時には少なくとも一つの得意とする専門分野を修得して下さい。どうか広い視野にたつて履修計画を立て学習されることを希望します。							
	配当期	科目名	単位数	分 野 名				
			電力・エネルギー応用	電気機器・パワーエレクトロニクス	電子回路・装置	計測・制御システム	コンピュータ・情報システム	半導体デバイス・電子材料
1年前期科目	物理学Ⅰ	2	☆	☆	☆	☆	☆	☆
	回路理論および演習Ⅰ	②	☆	☆	☆	☆	☆	☆
	微分積分学および演習Ⅰ	④	☆	☆	☆	☆	☆	☆
	コンピュータ基礎Ⅰ	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	線形代数学Ⅰ	2	○	○	○	○	○	○
化学Ⅰ	2	◦	◦	◦	◦	◦	◦	
1年後期科目	回路理論および演習Ⅱ	②	☆	☆	☆	☆	☆	☆
	物理学Ⅱ	2	○	○	○	○	○	◎
	コンピュータ基礎Ⅱ	2	○	○	○	○	◎	○
	微分積分学および演習Ⅱ	4	○	○	○	○	○	○
	線形代数学Ⅱ	2	○	○	○	○	○	○
化学Ⅱ	2	◦	◦	◦	◦	○	○	
2年前期科目	電気電子工学基礎実験Ⅰ	②	☆	☆	☆	☆	☆	☆
	電磁気学および演習Ⅰ	④	☆	☆	☆	☆	☆	☆
	回路理論および演習Ⅲ	2	◎	◎	◎	○	○	○
	電気電子計測Ⅰ	2	◎	○	◎	◎	◦	○
	デジタル回路Ⅰ	2	○	○	◎	○	◎	○
	プログラミングおよび演習	2	○	○	○	○	◎	○
	微分方程式Ⅰ	2	○	○	○	○	○	○
物理学Ⅲ	2	◦	○	◦	◦	◦	◎	
2年後期科目	電気電子工学基礎実験Ⅱ	②	☆	☆	☆	☆	☆	☆
	電磁気学および演習Ⅱ	4	○	◎	◎	◎	◦	◎
	回路理論および演習Ⅳ	2	◎	◎	◎	○	○	○
	電子デバイスⅠ	2	○	○	○	○	○	◎
	電気電子計測Ⅱ	2	○	○	○	◎	◦	○
	物性物理学	2	◦	○	◦	◦	◦	◎
	デジタル回路Ⅱ	2	○	○	◎	○	◎	○
微分方程式Ⅱ	2	○	○	○	○	○	○	

第二部電気電子工学科分野別推奨履修モデル（その2）（平成20年度以降入学生用）

☆：必修科目 ◎：特に修得すべき科目 ○：修得すべき科目 ◦：できれば修得する科目

配 当 期	科 目 名	単 位 数	分 野 名					
			電力・ エネル ギー 応用	電気 機器・ パワー エレク トロニ クス	電子回 路・装 置	計測・ 制御シ ステム	コンピ ュータ ・ 情報シ ステム	半導体 デバイ ス・ 電子 材料
3年 前期 科目	電気電子工学実験Ⅰ	②	☆	☆	☆	☆	☆	☆
	過渡現象	2	◎	◎	◎	◎	○	○
	電子回路Ⅰ	2	○	○	◎	◎	◎	○
	電気機器Ⅰ	2	◎	◎	○	◎	○	○
	高周波回路	2	○	○	◎	◎	○	○
	電気電子材料	2	◎	○	○	○	○	◎
	電子デバイスⅡ	2	○	○	○	○	○	◎
	信号処理	2	○	○	○	◎	◎	○
	確率・統計	2	○	○	○	○	○	○
3年 後期 科目	電気電子工学実験Ⅱ	②	☆	☆	☆	☆	☆	☆
	電子回路Ⅱ	2	○	○	◎	◎	◎	○
	制御工学Ⅰ	2	○	○	◎	◎	○	○
	電気機器Ⅱ	2	◎	◎	○	○	○	○
	パワーエレクトロニクス	2	○	◎	○	○	○	○
	電力系統工学Ⅰ	2	◎	○	○	○	○	○
	情報理論	2	○	○	○	○	◎	○
	計算機アーキテクチャ	2	○	○	○	○	◎	○
	通信方式	2	○	○	◎	○	○	○
	複素解析学	2	○	○	○	○	○	○
4年 前期 科目	電気電子工学演習	①	☆	☆	☆	☆	☆	☆
	卒業研究（通年）	3	○	○	○	○	○	○
	制御工学Ⅱ	2	○	○	○	◎	○	○
	センサ工学	2	○	○	○	○	○	◎
	発電工学	2	◎	○	○	○	○	○
	システム工学	2	○	○	○	○	◎	○
	電力系統工学Ⅱ	2	◎	○	○	○	○	○
	電気法規	2	○	○	○	○	○	○
	光・電磁波工学	2	○	○	◎	○	○	◎
	ユビキタス無線工学	2	○	○	◎	○	○	○
	品質管理	2	○	○	○	○	○	○
4年 後期 科目	高電圧工学	2	◎	○	○	○	○	◎
	ロボット工学	2	○	○	○	◎	○	○
	無線機器学	2	○	○	◎	○	○	○
	電機設計および電気製図	2	○	○	○	○	○	○
	通信法規	2	○	○	○	○	○	○
特許法	2	○	○	○	○	○	○	

機械工学科における履修の考え方

機械工学は、他の分野に比べ、対象となる分野の範囲が幅広く、学生にとって、全ての科目を完全に習得することは、大変なことであると思う。しかしながら、企業が機械工学科の学生を採用するときに求めるのは、機械工学全般を知るジェネラリストであり、医者がインターン時に全ての分野を学ばされるのと同様、できる限り多くの専門科目を幅広く履修することを強く勧める。

大学において履修計画を立てるときの良さは、自らの興味に応じて好きな科目を学べる取捨選択の範囲が、広いことにある。しかしながら、社会から見たときに、現在のカリキュラムにおける必修科目のみを知っていれば機械工学の学士として認められるわけではない。以下を参考に、慎重に履修計画を立てていただきたい。

- (1) 材料力学、工業熱力学、流体の力学、工業力学、振動学（別名機械力学）の5つは、通称「5力」とされて、機械工学の最も根幹を成す力学である。これらの科目の後半（例えば材料力学Ⅱ）については選択科目となっているが、必ず履修することが強く望まれる。中でも最も重要なのが材料力学である。
- (2) 機械のメカトロ化、コンピュータ制御が当たり前となった現在では、制御工学も、5力に並ぶほど重要である。
- (3) 就職して産業界に出た後の、機械設計や機械加工などの「ものづくり」関連科目の重要性は、とても大きい。
- (4) 数学や物理は、力学の基礎であり、なるべく多くの科目を習得しておくことが望まれる。
- (5) 2年次までに配当されている専門科目については、できる限り全て履修すること。
- (6) 3年次以降、「材料と加工」、「エネルギーと環境」、「情報と機械システム」という各分野のコースに応じた専門科目が出てくる。各自が学びたいコースの科目を中心に選択することになるが、学びたいコースの科目以外についても、可能な限り履修することが望まれる。
- (7) 工学部の中で、コンピュータを用いた計算を最も多用するのは実は機械工学である。コンピュータ関連科目、特にプログラミングに関連する科目は重要である。
- (8) 国際化を迎えた現在、機械系エンジニアにとっての英語の重要性は益々増大している。単位を取るだけでなく、道具として英語を使いこなせるように、自己研鑽することが望まれる。

以上.

機械工学科コース別履修モデル(専門選択科目の選択基準)その1

◎必ず履修すべき科目, ○履修を強く勧める科目, △余裕のある限り履修すべき科目

学年	期	単位	科目名	選択基準
1	前期	2	物理学Ⅰ	◎
1	前期	2	化学Ⅰ	○
1	前期	2	メカトロニクス概論	○
1	後期	2	線形代数学Ⅱ	◎
1	後期	2	物理学Ⅱ	◎
1	後期	2	化学Ⅱ	△
1	後期	4	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	○
1	後期	4	微分積分学および演習Ⅱ	◎
2	前期	2	材料工学	○
2	前期	2	微分方程式Ⅰ	○
2	後期	2	材料力学Ⅱ	◎
2	後期	2	機械加工学Ⅱ	○
2	後期	2	機械要素設計および演習	◎
2	後期	2	微分方程式Ⅱ	○
3	前期	2	確率・統計	○
3	後期	3	コンピュータプログラミングおよび演習	○
3	後期	2	電気工学	△
3	後期	2	電子工学	△
3	後期	2	複素解析学	○
4	前期	2	品質管理	△
4	前期	2	オペレーションズリサーチ	△
4	通年	3	卒業研究A	○
4	通年	6	卒業研究B	○

↑大学生生活の仕上げとして、状況が許せば卒業研究B、昼間職があるなどの事情でBが取れなくても卒業研究Aを履修することを強く勧める。

機械工学科コース別履修モデル(専門選択科目の選択基準)その2

◎必ず履修すべき科目, ○履修を強く勧める科目, △余裕のある限り履修すべき科目

学 年	期	単 位	科目名	コース別選択基準		
				材料と加工	エネルギーと環境	情報と機械システム
3	前期	2	流体の力学Ⅱ	◎	◎	◎
3	前期	2	制御工学Ⅰ	◎	◎	◎
3	前期	2	振動工学Ⅱ	◎	◎	◎
3	前期	2	弾塑性学	○	△	△
3	前期	2	伝熱工学	△	○	△
3	前期	2	熱機関	△	○	△
3	後期	2	材料強度学	○	△	△
3	後期	2	流体機械	△	○	△
3	後期	2	計測工学	△	△	○
3	後期	2	制御工学Ⅱ	○	○	◎
4	前期	2	計算機援用設計	△	△	○
4	後期	2	トライボロジー概論	○	△	△
4	後期	2	エネルギー変換工学	△	○	△
4	後期	2	システム工学	△	△	○
4	後期	2	ロボット工学	△	△	○

履修モデル
工学部第二部 情報通信工学科

学問分野	情報通信		情報ネットワーク		メディア		情報システム		
教育・学習目標	光ファイバ、携帯電話などのさまざまな情報通信システムの原理とその応用について学びます。		インターネットをはじめとする情報ネットワークの基本技術とその応用について学びます。		デジタルメディア情報の処理や創成に関する基本技術とその応用を学びます。		コンピュータの構成や高度利用および人間科学に関する基本技術とその応用について学びます。		
	単位数		単位数		単位数		単位数		
1年	前期	情報理利リテラシイ	2	情報理利リテラシイ	2	情報理利リテラシイ	2	情報理利リテラシイ	2
		コンピュータ基礎および演習	2	コンピュータ基礎および演習	2	コンピュータ基礎および演習	2	コンピュータ基礎および演習	2
		情報通信メディア基礎	2	情報通信メディア基礎	2	情報通信メディア基礎	2	情報通信メディア基礎	2
		電気回路の基礎および演習	2	電気回路の基礎および演習	2	電気回路の基礎および演習	2	電気回路の基礎および演習	2
		微積分学および演習Ⅰ	4	微積分学および演習Ⅰ	4	微積分学および演習Ⅰ	4	微積分学および演習Ⅰ	4
		線形代数学Ⅰ	2	線形代数学Ⅰ	2	線形代数学Ⅰ	2	線形代数学Ⅰ	2
	後期	物理学Ⅰ	2						
		コンピュータプログラミングおよび演習	2	コンピュータプログラミングおよび演習	2	コンピュータプログラミングおよび演習	2	コンピュータプログラミングおよび演習	2
		微積分学および演習Ⅱ	4	微積分学および演習Ⅱ	4	微積分学および演習Ⅱ	4	微積分学および演習Ⅱ	4
		線形代数学Ⅱ	2	線形代数学Ⅱ	2	線形代数学Ⅱ	2	線形代数学Ⅱ	2
		基礎情報数学A(離散数学)	2	基礎情報数学A(離散数学)	2	メディアの基礎および演習	2	メディアの基礎および演習	2
		回路網の基礎	2	回路網の基礎	2	基礎情報数学A(離散数学)	2	基礎情報数学A(離散数学)	2
小計	28		26		28		30		
2年	前期	情報通信基礎実験Ⅰ	2	情報通信基礎実験Ⅰ	2	情報通信基礎実験Ⅰ	2	情報通信基礎実験Ⅰ	2
		エレクトロニクスの基礎	2	エレクトロニクスの基礎	2	微分方程式Ⅰ	2	微分方程式Ⅰ	2
		コンピュータ構成と機械語Ⅰ	2	コンピュータ構成と機械語Ⅰ	2	コンピュータ構成と機械語Ⅰ	2	コンピュータ構成と機械語Ⅰ	2
		基礎情報数学B(確率と情報)	2	データ構造とアルゴリズムⅠ	2	データ構造とアルゴリズムⅠ	2	データ構造とアルゴリズムⅠ	2
		信号理論	2	基礎情報数学B(確率と情報)	2	基礎情報数学B(確率と情報)	2	基礎情報数学B(確率と情報)	2
		データ構造とアルゴリズムⅠ	2	信号理論	2	信号理論	2	信号理論	2
	後期	電磁気学の基礎および演習	3	電磁気学の基礎および演習	3				
		情報通信基礎実験Ⅱ	2	情報通信基礎実験Ⅱ	2	情報通信基礎実験Ⅱ	2	情報通信基礎実験Ⅱ	2
		基礎情報数学C(代数と符号)	2	インターネットプログラミング	2	インターネットプログラミング	2	インターネットプログラミング	2
		エレクトロニクスの応用	2	基礎情報数学C(代数と符号)	2	基礎情報数学C(代数と符号)	2	基礎情報数学C(代数と符号)	2
		信号システム解析	2	エレクトロニクスの応用	2	論理回路および論理設計	2	論理回路および論理設計	2
		通信工学の基礎	2	信号システム解析	2	コンピュータグラフィックスとアニメーション	2		
小計	27		27		22		20		
3年	前期	情報通信工学実験Ⅰ	2	情報通信工学実験Ⅰ	2	情報通信工学実験Ⅰ	2	情報通信工学実験Ⅰ	2
		デジタル信号処理	2	データ構造とアルゴリズムⅡ	2	データ構造とアルゴリズムⅡ	2	データ構造とアルゴリズムⅡ	2
		応用物理学	2	デジタル信号処理	2	データベース	2	データベース	2
		通信システム	2	通信システム	2	コンピュータグラフィックスとモデリング	2	コンピュータアーキテクチャ	2
		電波工学	2						
		情報通信工学実験Ⅱ	2	情報通信工学実験Ⅱ	2	情報通信工学実験Ⅱ	2	情報通信工学実験Ⅱ	2
	後期	通信ネットワーク	2	通信ネットワーク	2	情報ネットワークⅠ	2	情報ネットワークⅠ	2
		情報ネットワークⅠ	2	情報ネットワークⅠ	2	オブジェクト指向分析・設計	2	オブジェクト指向分析・設計	2
		計測と制御	2	計測と制御	2	ネットワークセキュリティ	2	ネットワークセキュリティ	2
				オブジェクト指向分析・設計	2				
				ネットワークセキュリティ	2				
		小計	18		20		16		16
4年	前期	情報通信プロジェクト(通年)	4	情報通信プロジェクト(通年)	4	情報通信プロジェクト(通年)	4	情報通信プロジェクト(通年)	4
		卒業研究AまたはB(通年)	2/4	卒業研究AまたはB(通年)	2/4	卒業研究AまたはB(通年)	2/4	卒業研究AまたはB(通年)	2/4
		情報ネットワークⅡ	2	情報ネットワークⅡ	2	情報ネットワークⅡ	2	情報ネットワークⅡ	2
		ワイヤレスシステム工学	2	ワイヤレスシステム工学	2	音メディア情報学	2	音メディア情報学	2
		光ファイバ通信	2	光ファイバ通信	2	画像処理工学	2	画像処理工学	2
						ディジタルシステム設計・実装論	2	ディジタルシステム設計・実装論	2
	後期	通信法規	2	情報システム論	2	メディア表現学	2	ヒューマンインタフェース	2
						ヒューマンインタフェース	2	情報システム論	2
						情報システム論	2		
		小計	14/16		14/16		18/20		18/20
総計	87/89		87/89		84/86		84/86		
合計科目数	38		38		37		38		

- ・ は必修科目
- ・ 社会人コースでは、必修科目を選択科目として取り扱います。
- ・ これはあくまで履修する上で参考とするモデルであり、複数の分野にまたがって選択しても全く構いません。

第二部電気工学科分野別推奨履修モデル（その1）

（平成19年度以前入学生用）

☆：必修科目 ◎：特に修得すべき科目 ○：修得すべき科目 ◦：できれば修得する科目

学習・教育目標	本学科では、電気工学固有の分野並びに広範な電気系関連分野の発展に貢献できる視野の広い専門技術者を育成するようカリキュラムを構成しています。卒業後何れの分野に進んだ場合でも柔軟に対応できる十分な基礎学力を低学年時において十分に修得しつつ自ら興味のある分野を選択し、その後、選択した分野に焦点を合わせて学習を積み重ねて、卒業時には少なくとも一つの得意とする専門分野を修得して下さい。どうか広い視野にたつて履修計画を立て学習されることを希望します。						
	配当期	科目名	単位数	分野名			
電力・エネルギー応用				電気機器・パワーエレクトロニクス	計測・制御システム	コンピュータ・情報システム	半導体デバイス・電子材料
1年前期科目	物理学Ⅰ	②	☆	☆	☆	☆	☆
	回路理論および演習Ⅰ	②	☆	☆	☆	☆	☆
	微分積分学および演習Ⅰ	④	☆	☆	☆	☆	☆
	コンピュータ基礎および演習Ⅰ	3	◎	◎	◎	◎	◎
	線形代数学Ⅰ	2	○	○	○	○	○
	化学A	2	○	○	○	○	○
1年後期科目	回路理論および演習Ⅱ	②	☆	☆	☆	☆	☆
	物理学Ⅱ	2	○	○	○	○	◎
	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	○	○	○	◎	○
	微分積分学および演習Ⅱ	4	○	○	○	○	○
	線形代数学Ⅰ	2	○	○	○	○	○
	化学B	2	○	○	○	○	○
2年前期科目	電磁気学実験Ⅰ	(2.5)	☆	☆	☆	☆	☆
	電磁気学および演習Ⅰ	④	☆	☆	☆	☆	☆
	回路理論および演習Ⅲ	2	◎	◎	○	○	○
	電気計測Ⅰ	2	◎	○	◎	○	○
	デジタル回路	2	○	○	○	◎	○
	微分方程式Ⅰ	2	○	○	○	○	○
	物性物理学	2	○	○	○	○	◎
2年後期科目	電磁気学実験Ⅱ	(2.5)	☆	☆	☆	☆	☆
	電磁気学および演習Ⅱ	4	○	◎	◎	○	◎
	回路理論および演習Ⅳ	2	◎	◎	○	○	○
	電子デバイスⅠ	2	○	○	○	○	◎
	電気計測Ⅱ	2	○	○	◎	○	○
	計算機アーキテクチャ	2	○	○	○	○	○
	微分方程式Ⅱ	2	○	○	○	○	○
3年前期科目	電気工学実験Ⅰ	(2.5)	☆	☆	☆	☆	☆
	過渡現象	2	◎	◎	◎	○	○
	電子回路Ⅰ	2	○	○	◎	◎	○
	電気機器Ⅰ	2	◎	◎	◎	○	○
	電気電子材料	2	◎	○	○	○	◎
	高周波電磁気学	2	○	○	○	○	◎
	電子デバイスⅡ	2	○	○	○	○	◎
	確率・統計	2	○	○	○	○	○
照明工学	2	○	○	○	○	○	

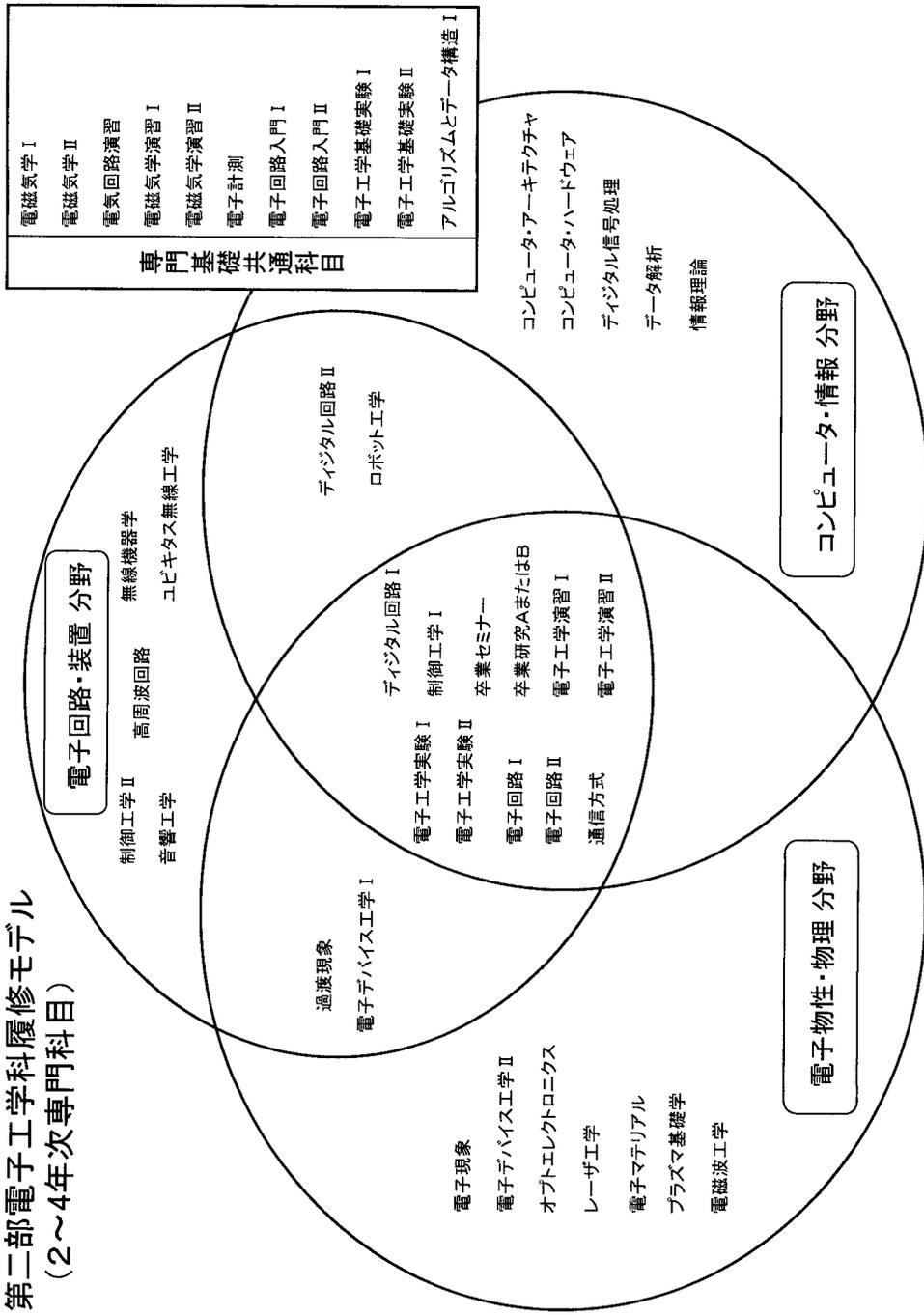
第二部電気工学科分野別推奨履修モデル（その2）

（平成19年度以前入学生用）

☆：必修科目 ◎：特に修得すべき科目 ○：修得すべき科目 ◦：できれば修得する科目

配当期	科目名	単位数	分野名				
			電力・エネルギー応用	電気機器・パワーエレクトロニクス	計測・制御システム	コンピュータ・情報システム	半導体デバイス・電子材料
3年 後期 科目	電気工学実験Ⅱ	(2.5)	☆	☆	☆	☆	☆
	電子回路Ⅱ	2	○	○	◎	◎	○
	制御工学Ⅰ	2	○	○	◎	○	○
	電気機器Ⅱ	2	◎	◎	○	○	○
	パワーエレクトロニクス	2	○	◎	○	○	○
	電力系統工学Ⅰ	2	◎	○	○	○	○
	計算機システム論	2	○	○	○	○	○
	情報工学	2	○	○	○	○	○
4年 前期 科目	複素解析学	2	○	○	○	○	○
	卒業研究（通年）	3	○	○	○	○	○
	制御工学Ⅱ	2	○	○	◎	○	○
	センサ工学	2	○	○	○	○	◎
	発電工学Ⅰ	2	◎	○	○	○	○
	システム工学	2	○	○	○	○	○
	電力系統工学Ⅱ	2	◎	○	○	○	○
	電気法規	2	○	○	○	○	○
	品質管理	2	○	○	○	○	○
通信概論	2	○	○	○	○	○	
4年 後期 科目	高電圧工学	2	◎	○	○	○	◎
	メカトロニクス	2	○	○	○	○	○
	制御工学Ⅲ	2	○	○	◎	○	○
	発電工学Ⅱ	2	◎	○	○	○	○
	電機設計および電気製図	2	○	○	○	○	○

[平成19年度以前入学生用]
第二部電子工学科履修モデル
(2～4年次専門科目)



[平成19年度以前入学生用]

第二部 電子工学科

・印のある科目は必修科目

学問分野	電子物性・物理 分野		コンピュータ・情報 分野		電子回路・装置 分野			
教育・学習目標	半導体やプラズマなどに関する基礎を学び、これらの電子デバイスへの応用に関する専門知識の習得を目指す。		コンピュータのハード・ソフトに関する基礎を学び、これを基にコンピュータの応用分野である信号処理などを含むハード・ソフトの専門知識の習得を目指す。		電子回路に関する基礎を学び、これを基に、集積回路、無線・通信、計測制御機器などに応用するための専門知識の習得を目指す。			
履 修 推 奨 科 目	1年次生	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
		線形代数学Ⅰ	2	線形代数学Ⅰ	2	線形代数学Ⅰ	2	
		線形代数学Ⅱ	2	線形代数学Ⅱ	2	線形代数学Ⅱ	2	
		物理学ⅠA	2	物理学ⅠA	2	物理学ⅠA	2	
		物理学ⅠB	2	物理学ⅠB	2	物理学ⅠB	2	
		化学A	2	電気回路Ⅰ	2	化学A	2	
		化学B	2	電気回路Ⅱ	2	電気回路Ⅰ	2	
		電気回路Ⅰ	2	コンピュータ基礎Ⅰ	2	電気回路Ⅱ	2	
		電気回路Ⅱ	2	コンピュータ基礎Ⅱ	2	コンピュータ基礎Ⅰ	2	
		コンピュータ基礎Ⅰ	2	微分積分学および演習Ⅰ	4	コンピュータ基礎Ⅱ	2	
		コンピュータ基礎Ⅱ	2	微分積分学および演習Ⅱ	4	微分積分学および演習Ⅰ	4	
		微分積分学および演習Ⅰ	4			微分積分学および演習Ⅱ	4	
		微分積分学および演習Ⅱ	4					
		小計	28	小計	24	小計	26	
		2年次生	物理学ⅡA	2	物理学ⅡA	2	物理学ⅡA	2
		物理学ⅡB	2	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2	物理学ⅡB	2	
		微分方程式Ⅰ	2	微分方程式Ⅰ	2	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2	
		電磁気学Ⅰ	2	微分方程式Ⅱ	2	微分方程式Ⅰ	2	
		電磁気学Ⅱ	2	電磁気学Ⅰ	2	微分方程式Ⅱ	2	
		電気回路演習	2	電磁気学Ⅱ	2	電磁気学Ⅰ	2	
		電磁気学演習Ⅰ	2	電気回路演習	2	電磁気学Ⅱ	2	
		電磁気学演習Ⅱ	2	電子回路入門Ⅰ	2	電気回路演習	2	
		電子計測	2	電子回路入門Ⅱ	2	電磁気学演習Ⅰ	2	
		電子回路入門Ⅰ	2	電子工学基礎実験Ⅰ	2.5	電磁気学演習Ⅱ	2	
		電子回路入門Ⅱ	2	電子工学基礎実験Ⅱ	2.5	電子計測	2	
		電子工学基礎実験Ⅰ	2.5	電磁気学演習Ⅰ	2	電子回路入門Ⅰ	2	
		電子工学基礎実験Ⅱ	2.5	電磁気学演習Ⅱ	2	電子回路入門Ⅱ	2	
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2	電子計測	2	電子工学基礎実験Ⅰ	2.5	
						電子工学基礎実験Ⅱ	2.5	
		小計	29	小計	29	小計	31	
		3年次生	電子工学実験Ⅰ	2.5	電子工学実験Ⅰ	2.5	電子工学実験Ⅰ	2.5
		電子工学実験Ⅱ	2.5	電子工学実験Ⅱ	2.5	電子工学実験Ⅱ	2.5	
		電子デバイス工学Ⅰ	2	デジタル回路Ⅰ	2	電子デバイス工学Ⅰ	2	
		電子デバイス工学Ⅱ	2	デジタル回路Ⅱ	2	デジタル回路Ⅰ	2	
		電子現象	2	コンピュータ・アーキテクチャ	2	デジタル回路Ⅱ	2	
		デジタル回路Ⅰ	2	情報理論	2	確率・統計	2	
		通信現象	2	通信方式	2	複素解析学	2	
		確率・統計	2	確率・統計	2	通信方式	2	
		電子回路Ⅰ	2	電子回路Ⅰ	2	電子回路Ⅰ	2	
		電子回路Ⅱ	2	制御工学Ⅰ	2	高周波回路	2	
		通信方式	2	電子回路Ⅱ	2	電子回路Ⅱ	2	
		制御工学Ⅰ	2			通信現象	2	
	小計	25	小計	23	小計	25		
	4年次生	電子工学演習Ⅰ	2	電子工学演習Ⅰ	2	電子工学演習Ⅰ	2	
	電子工学演習Ⅱ	2	電子工学演習Ⅱ	2	電子工学演習Ⅱ	2		
	卒業セミナー	4	卒業セミナー	4	卒業セミナー	4		
	卒業研究	4	卒業研究	4	卒業研究	4		
	電子マテリアル	2	コンピュータ・ハードウェア	2	制御工学Ⅱ	2		
	プラズマ基礎学	2	デジタル信号処理	2	音響工学	2		
	電磁波工学	2	ロボット工学	2	無線機器学	2		
	レーザ工学	2	データ解析	2	エビキタス無線工学	2		
	オプトエレクトロニクス	2			ロボット工学	2		
	小計	22	小計	20	小計	22		

4 授業科目配当表

「授業科目配当表」は、入学年度のカリキュラムです。諸君は、その入学年に応じ、この中から必要な授業科目を履修してください。

授業科目配当表は、授業科目名・単位数・必修選択の別・配当学年次・配当期・毎週授業時間数などが記載されています。

2012、2011、2010、2009（平成24、23、22、21）年度カリキュラム

1	はじめに	27
2	人間科学科目	28
3	英語科目	30
4	電気電子工学科	32
5	機械工学科	36
6	情報通信工学科	40
7	教職課程	46

2008（平成20）年度カリキュラム〔平成19年度以前の入学生用〕

8	人間科学科目	49
9	英語科目	50
10	電気工学科	51
11	電子工学科	53
12	機械工学科	55
13	情報通信工学科	57
14	教職課程	59

はじめに

1. 授業科目配当について

授業科目配当表は、入学時から卒業までに配当される授業科目が記載されています。4年間で卒業することが原則ですが、進級判定や卒業判定により、留年や卒業が延期となった場合でも、入学時に配当された科目によって進級・卒業条件を満たさなければなりません。

2. カリキュラム年度について

カリキュラム年度とは、入学年度に適用される「1年次から4年次までに配当されるカリキュラム」、「進級・卒業基準等」を示すものです。学生には必ずいずれかのカリキュラム年度が適用されています。

2012(平成24)年度に入学した学生のカリキュラム年度は、「2012年度」となります。

カリキュラム年度は、UNI PA (<https://portal.sa.dendai.ac.jp/>) の学籍情報照会の「カリキュラム年度」で確認することができます。

2011(平成23)年度以前入学者については、次項3.「2012(平成24)年度より留年した学生に対するカリキュラム適用の変更について」を必ず参照してください。

3. 2012(平成24)年度より留年した学生に対するカリキュラム適用の変更について

【いままでの運用】

2011(平成23)年度まで配布してきた学生要覧(学習案内編)には、履修案内で「進級判定や卒業判定の結果、留年となった場合、正規に進級してきた学年と同一のカリキュラム(一学年下の学生のカリキュラム)が適用されてきました。これにより、留年や卒業延期となった学生は、進級・卒業判定の対象科目及び進級・卒業基準は、正規に進級してきた学年と同一の進級・卒業判定基準(一学年下の学生の進級・卒業判定基準)」にカリキュラム・判定基準の変更が実施されてきました。

【これからの運用】

2012(平成24)年度より留年した学生に対するカリキュラムの適用が「入学した年度のカリキュラムを適用」することに変更となりました。これにより、前記1.に記載したとおり、自分の入学年度の授業科目配当表に記載されている科目(入学時から卒業時まで配当されている科目)が、留年や卒業が延期となってもこの科目を履修・修得し、進級・卒業判定を満たすこととなります。

【2011(平成23)年度以前入学者への運用】

2011(平成23)年度の在籍者の中には、留年や卒業延期によって、自分が入学した年度のカリキュラムの適用が、2011(平成23)年度まで実施されてきた「正規に進級してきた学年と同一のカリキュラム(一学年下の学生のカリキュラム)」にカリキュラム変更並びに進級・卒業判定基準が変更となった学生がいます。2012(平成24)年度からの留年した学生に対するカリキュラム適用の変更に伴い、2011(平成23)年度在籍者は、当該年度に適用されているカリキュラムを入学した年度のカリキュラム年度とみなし、進級・卒業判定基準も、同様の取り扱いとなります。

2012(平成24)年度に学生に適用されるカリキュラム年度は、下図の通りです。UNI PAで自分のカリキュラム年度を確認し、自分のカリキュラム年度に対応する学生要覧(学習案内)の項目を参照してください。

【学生に適用されるカリキュラム年度】留年等によって今後カリキュラム年度は変更しません。

	2012 ｶﾘｷﾞﾗﾑ	2011 ｶﾘｷﾞﾗﾑ	2010 ｶﾘｷﾞﾗﾑ	2009 ｶﾘｷﾞﾗﾑ	2008 ｶﾘｷﾞﾗﾑ
1年次生(新入生)	○				
1年次留年生		○			
2年次生		○			
2年次留年生			○		
3年次生			○		
3年次留年生				○	
4年次生				○	
4年次留年生					○

2012(平成24)年度カリキュラム
工学部第二部 人間科学科目 授業科目配当表

人間科学科目2012 - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
共通教育科目	人間科学科目	哲学入門	1	2	選	1234	半期(前/後)	哲学Aと同時開講
		自己心理学セミナー	1	2	選	1234	半期(前/後)	こころの科学Aと同時開講
		法律入門	1	2	選	1234	半期(前/後)	法学Aと同時開講
		企業と経営	1	2	選	1234	半期(前/後)	経営学概論Aと同時開講
		歴史理解の基礎	1	2	選	1234	半期(前/後)	歴史学Aと同時開講
		情報化社会とコミュニケーション	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		情報倫理	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		情報と職業	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		日本国憲法	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		日本経済入門	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		比較文化論	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		情報とネットワークの経済社会	1	2	選	1234	半期(前/後)	ネットワーク経済と同時開講
		科学技術と企業経営	1	2	選	1234	半期(前/後)	経営工学と同時開講
		介護福祉論	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		認知心理学	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		記号論理学	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		技術者倫理	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		情報化社会と知的財産権	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		科学の社会史	1	2	選	1234	半期(前)	科学技術史Aと同時開講
		技術の社会史	1	2	選	1234	半期(後)	科学技術史Bと同時開講
		ドイツ語 I	1	2	選	1234	半期(前)	原則として I・II の順に履修すること
		ドイツ語 II	1	2	選	1234	半期(後)	原則として I・II の順に履修すること
		健康と体力	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		体育基礎 I	1	1	選	1234	半期(前)	
		体育基礎 II	1	1	選	1234	半期(後)	
		異文化理解A	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		異文化理解B	-	2	選	1234	半期(前/後)	平成24年度開講せず
		アウトドアスポーツA	1	1	選	1234	半期(後)	集中講義
		アウトドアスポーツB	1	1	選	1234	半期(後)	集中講義
		アウトドアスポーツC	1	1	選	1234	半期(後)	集中講義
		教育学概論	1	2	選	2	半期(前)	H23年度以前入学生科目名「教育原理」
		教育心理学	1	2	選	1	半期(後)	
		教育社会学	1	2	選	2	半期(後)	
		科学技術と現代社会	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		ヨーロッパ学入門	1	2	選	1	半期(前/後)	社会人コース公開科目 平成24年度開講せず
		中国語 I	1	2	選	1	半期(前)	社会人コース公開科目 H23年度以前入学生科目名 中国語(通年)と同時開講
中国語 II	1	2	選	1	半期(後)	社会人コース公開科目 H23年度以前入学生科目名 中国語(通年)と同時開講		

2011,2010,2009(平成23,22,21)年度カリキュラム
工学部第二部 人間科学科目 授業科目配当表

人間科学科目2011-2009 - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
共通 教育 科目	人間 科学 科目	哲学入門	1	2	選	1234	半期(前/後)	哲学Aと同時開講
		自己心理学セミナー	1	2	選	1234	半期(前/後)	こころの科学Aと同時開講
		法律入門	1	2	選	1234	半期(前/後)	法学Aと同時開講
		企業と経営	1	2	選	1234	半期(前/後)	経営学概論Aと同時開講
		歴史理解の基礎	1	2	選	1234	半期(前/後)	歴史学Aと同時開講
		情報化社会とコミュニケーション	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		情報倫理	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		情報と職業	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		日本国憲法	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		日本経済入門	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		比較文化論	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		情報とネットワークの経済社会	1	2	選	1234	半期(前/後)	ネットワーク経済と同時開講
		科学技術と企業経営	1	2	選	1234	半期(前/後)	経営工学と同時開講
		介護福祉論	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		認知心理学	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		記号論理学	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		技術者倫理	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		情報化社会と知的財産権	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		科学の社会史	1	2	選	1234	半期(前)	科学技術史Aと同時開講
		技術の社会史	1	2	選	1234	半期(後)	科学技術史Bと同時開講
		ドイツ語 I	1	2	選	1234	半期(前)	原則として I・II の順に履修すること
		ドイツ語 II	1	2	選	1234	半期(後)	原則として I・II の順に履修すること
		健康と体力	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		体育基礎 I	1	1	選	1234	半期(前)	
		体育基礎 II	1	1	選	1234	半期(後)	
		異文化理解A	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		異文化理解B	-	2	選	1234	半期(前/後)	平成24年度開講せず
		アウトドアスポーツA	1	1	選	1234	半期(後)	集中講義
		アウトドアスポーツB	1	1	選	1234	半期(後)	集中講義
		アウトドアスポーツC	1	1	選	1234	半期(後)	集中講義
		教育原理	1	2	選	2	半期(前)	H24年度入学生科目名 「教育学概論」
		教育心理学	1	2	選	1	半期(後)	
		教育社会学	1	2	選	2	半期(後)	
実用ドイツ語	前1後1	4	選	1	通年	社会人コース公開科目		
中国語	前1後1	4	選	1	通年	社会人コース公開科目 H24年度入学生科目名 中国語 I・II と同時開講		

2012(平成24)年度カリキュラム
工学部第二部 英語科目 授業科目配当表

英語科目2012 - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
共通教育科目	英語	英語Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)	習熟度別
		英語Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)	習熟度別
		オーラル・コミュニケーションⅠ	1	1	選	1	半期(前)	メディア英語Ⅰと択一選択
		オーラル・コミュニケーションⅡ	1	1	選	1	半期(後)	メディア英語Ⅱと択一選択
		メディア英語Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)	オーラルコミュニケーションⅠと択一選択
		メディア英語Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)	オーラルコミュニケーションⅡと択一選択
		英語Ⅲ	1	1	選	2	半期(前)	
		英語Ⅳ	1	1	選	2	半期(後)	
		検定英語Ⅰ	1	1	選	2	半期(前)	
		検定英語Ⅱ	1	1	選	2	半期(後)	
		英語表現Ⅰ	1	1	選	2	半期(前)	
		英語表現Ⅱ	1	1	選	2	半期(後)	
		英語演習Ⅰ	1	1	選	34	半期(前)	
		英語演習Ⅱ	1	1	選	34	半期(後)	
		英会話Ⅰ	1	1	選	34	半期(前)	
		英会話Ⅱ	1	1	選	34	半期(後)	
		海外英語短期研修	-	2	選	1234	半期(前/後)	集中講義
		入門ビジネス英語Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)	社会人コース公開科目 H23年度以前カリキュラム 「ビジネス英語」(通年)と同 時開講
		入門ビジネス英語Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)	

2011,2010,2009(平成23,22,21)年度カリキュラム
工学部第二部 英語科目 授業科目配当表

英語科目2011-2009 - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
共通教育科目	英語	英語Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)	習熟度別
		英語Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)	習熟度別
		オーラル・コミュニケーションⅠ	1	1	選	1	半期(前)	メディア英語Ⅰと択一選択
		オーラル・コミュニケーションⅡ	1	1	選	1	半期(後)	メディア英語Ⅱと択一選択
		メディア英語Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)	オーラルコミュニケーションⅠと択一選択
		メディア英語Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)	オーラルコミュニケーションⅡと択一選択
		英語Ⅲ	1	1	選	2	半期(前)	
		英語Ⅳ	1	1	選	2	半期(後)	
		検定英語Ⅰ	1	1	選	2	半期(前)	
		検定英語Ⅱ	1	1	選	2	半期(後)	
		英語表現Ⅰ	1	1	選	2	半期(前)	
		英語表現Ⅱ	1	1	選	2	半期(後)	
		英語演習Ⅰ	1	1	選	34	半期(前)	
		英語演習Ⅱ	1	1	選	34	半期(後)	
		英会話Ⅰ	1	1	選	34	半期(前)	
		英会話Ⅱ	1	1	選	34	半期(後)	
		海外英語短期研修	-	2	選	1234	半期(前/後)	集中講義
		ビジネス英語	前1後1	2	選	1	通年	社会人コース公開科目 H24年度カリキュラム 「入門ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ」と同時開講

2012(平成24)年度カリキュラム
工学部第二部 電気電子工学科 授業科目配当表

電気電子工学科2012 - 1

区分	区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門 教育 科目	基礎	東京電機大学で学ぶ	1	2	選	1	半期(前)	導入科目 1年次のみ履修可
		物理学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)	
		物理学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
		物理学Ⅲ	1	2	選	2	半期(前)	
		化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)	
		化学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
	電磁気学	電磁気学および演習Ⅰ	2	4	必	2	半期(前)	
		電磁気学および演習Ⅱ	2	4	選	2	半期(後)	
	回路理論	回路理論および演習Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	
		回路理論および演習Ⅱ	1	2	必	1	半期(後)	
		回路理論および演習Ⅲ	1	2	選	2	半期(前)	
		回路理論および演習Ⅳ	1	2	選	2	半期(後)	
		過渡現象	1	2	選	3	半期(前)	
	半導体デバイス・電子材料・物理	物性物理学	1	2	選	2	半期(後)	
		電子デバイスⅠ	1	2	選	2	半期(後)	
		電子デバイスⅡ	1	2	選	3	半期(前)	
		電気電子材料	1	2	選	3	半期(前)	
		センサ工学	1	2	選	4	半期(前)	
		光・電磁波工学	1	2	選	4	半期(前)	
	パワーエレクトロニクス・電気機器	電気機器Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	
		電気機器Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	
		パワーエレクトロニクス	1	2	選	3	半期(後)	
		電機設計および電気製図	1	2	選	4	半期(後)	
	計測・制御システム	電気電子計測Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	
		電気電子計測Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	
		制御工学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	
		制御工学Ⅱ	1	2	選	4	半期(前)	
		ロボット工学	1	2	選	4	半期(後)	
	電力・エネルギー応用	電力系統工学Ⅰ	1	2	選	3	半期(後)	
		電力系統工学Ⅱ	1	2	選	4	半期(前)	
		発電工学	1	2	選	4	半期(前)	
		高電圧工学	1	2	選	4	半期(後)	
		電気法規	1	2	選	4	半期(前)	
	電子回路・装置	電子回路Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	
電子回路Ⅱ		1	2	選	3	半期(後)		
高周波回路		1	2	選	3	半期(前)		
無線機器学		1	2	選	4	半期(後)		
ユビキタス無線工学		1	2	選	4	半期(前)		

2012(平成24)年度カリキュラム
工学部第二部 電気電子工学科 授業科目配当表

電気電子工学科2012 - 2

区分	区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門 教育 科目	コンピ ュー タ・情 報シ ステム	コンピュータ基礎 I	1	2	選	1	半期(前)	
		コンピュータ基礎 II	1	2	選	1	半期(後)	
		デジタル回路 I	1	2	選	2	半期(前)	
		デジタル回路 II	1	2	選	2	半期(後)	
		計算機アーキテクチャ	1	2	選	3	半期(後)	
		通信方式	1	2	選	3	半期(後)	
		情報理論	1	2	選	3	半期(後)	
		システム工学	1	2	選	4	半期(前)	
		プログラミングおよび演習	1	2	選	2	半期(前)	
		信号処理	1	2	選	3	半期(後)	
	その他	電気電子工学演習	1	1	必	4	半期(前)	
		通信法規	1	2	選	4	半期(後)	
		品質管理	1	2	選	4	半期(前)	
		特許法	1	2	選	4	半期(後)	
	実験	電気電子工学基礎実験 I	2	2	必	2	半期(前)	
		電気電子工学基礎実験 II	2	2	必	2	半期(後)	
		電気電子工学実験 I	2	2	必	3	半期(前)	
		電気電子工学実験 II	2	2	必	3	半期(後)	
	卒業研究	卒業研究	前1後2	3	選	4	通年	
	数学	微積分学および演習 I	3	4	必	1	半期(前)	
		微積分学および演習 II	2	4	選	1	半期(後)	
		線形代数学 I	1	2	選	1	半期(前)	
		線形代数学 II	1	2	選	1	半期(後)	
		微分方程式 I	1	2	選	2	半期(前)	
		微分方程式 II	1	2	選	2	半期(後)	
		確率・統計	1	2	選	3	半期(前)	
		複素解析学	1	2	選	3	半期(後)	
	教職 関 連 科 目	コンピュータ基礎および演習 III	1	2	自	234	半期(前)	
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
		マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
		職業指導	前1後1	4	自	3	通年	
	社会 人 コ ー ス 公 開 科 目	マルチメディア工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
デザイン工学		1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目 H23以前入学生カリキュ ラム科目名 「OA機器設計」	
人工環境計画		1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目	
実用情報処理		1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目 H23以前入学生カリキュ ラム科目名 「実用情報処理 II」	
コンピュータリテラシ		0.5	1	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目(集中講義)	
ベンチャー企業論		1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目	
e-ビジネス情報技術		1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目	
生活支援工学		1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目	
イノベーション経営論		1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目	

2011,2010,2009(平成23,22,21)年度カリキュラム
工学部第二部 電気電子工学科 授業科目配当表

電気電子工学科2011-2009 - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門 教育 科目	東京電機大学で学ぶ	1	2	選	1	半期(前)	導入科目 1年次のみ履修可	
	基礎	物理学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)	
	物理学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		
	物理学Ⅲ	1	2	選	2	半期(前)		
	化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		
	化学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		
	電磁気学	電磁気学および演習Ⅰ	2	4	必	2	半期(前)	
	電磁気学および演習Ⅱ	2	4	選	2	半期(後)		
	回路理論	回路理論および演習Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	
	回路理論および演習Ⅱ	1	2	必	1	半期(後)		
	回路理論および演習Ⅲ	1	2	選	2	半期(前)		
	回路理論および演習Ⅳ	1	2	選	2	半期(後)		
	過渡現象	1	2	選	3	半期(前)		
	半導体デバイス・電子材料・物理	物性物理学	1	2	選	2	半期(後)	
	電子デバイスⅠ	1	2	選	2	半期(後)		
	電子デバイスⅡ	1	2	選	3	半期(前)		
	電気電子材料	1	2	選	3	半期(前)		
	センサ工学	1	2	選	4	半期(前)		
	光・電磁波工学	1	2	選	4	半期(前)		
	パワーエレクトロニクス・電気機器	電気機器Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	
	電気機器Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)		
	パワーエレクトロニクス	1	2	選	3	半期(後)		
	電機設計および電気製図	1	2	選	4	半期(後)		
	計測・制御システム	電気電子計測Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	
	電気電子計測Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)		
	制御工学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)		
	制御工学Ⅱ	1	2	選	4	半期(前)		
	ロボット工学	1	2	選	4	半期(後)		
	電力・エネルギー応用	電力系統工学Ⅰ	1	2	選	3	半期(後)	
	電力系統工学Ⅱ	1	2	選	4	半期(前)		
	発電工学	1	2	選	4	半期(前)		
	高電圧工学	1	2	選	4	半期(後)		
	電気法規	1	2	選	4	半期(前)		
電子回路・装置	電子回路Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)		
電子回路Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)			
高周波回路	1	2	選	3	半期(前)			
無線機器学	1	2	選	4	半期(後)			
ユビキタス無線工学	1	2	選	4	半期(前)			

2011,2010,2009(平成23,22,21)年度カリキュラム
工学部第二部 電気電子工学科 授業科目配当表

電気電子工学科2011-2009 - 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門 教育 科目	コンピ ュー タ・情 報シ ステム	コンピュータ基礎 I	1	2	選	1	半期(前)	
		コンピュータ基礎 II	1	2	選	1	半期(後)	
		デジタル回路 I	1	2	選	2	半期(前)	
		デジタル回路 II	1	2	選	2	半期(後)	
		計算機アーキテクチャ	1	2	選	3	半期(後)	
		通信方式	1	2	選	3	半期(後)	
		情報理論	1	2	選	3	半期(後)	
		システム工学	1	2	選	4	半期(前)	
		プログラミングおよび演習	1	2	選	2	半期(前)	
		信号処理	1	2	選	3	半期(後)	
	その他	電気電子工学演習	1	1	必	4	半期(前)	
		通信法規	1	2	選	4	半期(後)	
		品質管理	1	2	選	4	半期(前)	
		特許法	1	2	選	4	半期(後)	
	実験	電気電子工学基礎実験 I	2	2	必	2	半期(前)	
		電気電子工学基礎実験 II	2	2	必	2	半期(後)	
		電気電子工学実験 I	2	2	必	3	半期(前)	
		電気電子工学実験 II	2	2	必	3	半期(後)	
	卒業研究	卒業研究	前1後2	3	選	4	通年	
	数学	微積分学および演習 I	3	4	必	1	半期(前)	
		微積分学および演習 II	2	4	選	1	半期(後)	
		線形代数学 I	1	2	選	1	半期(前)	
		線形代数学 II	1	2	選	1	半期(後)	
		微分方程式 I	1	2	選	2	半期(前)	
		微分方程式 II	1	2	選	2	半期(後)	
		確率・統計	1	2	選	3	半期(前)	
		複素解析学	1	2	選	3	半期(後)	
	教職関連科目	コンピュータ基礎および演習 III	1	2	自	234	半期(前)	
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
		マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
		職業指導	前1後1	4	自	3	通年	
	社会 人コ ース 公開 科目	マルチメディア工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
OA機器設計		1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目 H24年度入学生カリキュ ラム科目名 「デザイン工学」	
人工環境計画		1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目	
実用情報処理 II		1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目 H24年度入学生カリキュ ラム科目名 「実用情報処理」	
コンピュータリテラシ		0.5	1	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目(集中講義)	
ベンチャー企業論		1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目	
e-ビジネス情報技術		1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目	
生活支援工学		1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目	
イノベーション経営論		1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目	

2012(平成24)年度カリキュラム
工学部第二部 機械工学科 授業科目配当表

機械工学科2012 - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門 教育 科目	東京電機大学で学ぶ	1	2	選	1	半期(前)	導入科目	
	基礎							
	線形代数学 I	1	2	必	1	半期(前)		
	線形代数学 II	1	2	選	1	半期(後)		
	物理学 I	1	2	選	1	半期(前)		
	物理学 II	1	2	選	1	半期(後)		
	化学 I	1	2	選	1	半期(前)		
	化学 II	1	2	選	1	半期(後)		
	学科共通必修科目							
	微積分学および演習 I	3	4	必	1	半期(前)		
	機械設計製図 I	2	2	必	2	半期(後)		
	機械設計製図 II	前1後1	2	必	3	通年		
	機械工学実験 I	2	2	必	2	半期(前)		
	機械工学実験 II	1	1	必	3	半期(前)		
	機械工学実験 III	1	1	必	3	半期(後)		
	機械工作実習	前1後1	2	必	4	通年		
	材料と加工							
	材料力学 I および演習	1.5	3	必	2	半期(前)		
	材料力学 II	1	2	選	2	半期(後)		
	機械加工学 I および演習	1.5	3	必	2	半期(前)		
	機械加工学 II	1	2	選	2	半期(後)		
	材料工学	1	2	選	2	半期(前)		
	弾塑性学	1	2	選	3	半期(前)		
	材料強度学	1	2	選	3	半期(後)		
	トライボロジー概論	1	2	選	4	半期(後)		
	エネルギー							
	工業熱力学および演習	1.5	3	必	2	半期(前)		
	伝熱工学	1	2	選	3	半期(前)		
	流体の力学 I および演習	1.5	3	必	2	半期(後)		
	流体の力学 II	1	2	選	3	半期(前)		
	エネルギー変換工学	1	2	選	4	半期(後)		
	熱機関	1	2	選	3	半期(前)		
	流体機械	1	2	選	3	半期(後)		
	情報と機械システム							
	メカトロニクス概論	1	2	選	1	半期(前)		
	機械要素設計および演習	1.5	3	選	2	半期(後)		
振動工学 I および演習	1.5	3	必	2	半期(後)			
振動工学 II	1	2	選	3	半期(前)			
制御工学 I	1	2	選	3	半期(前)			
制御工学 II	1	2	選	3	半期(後)			
計測工学	1	2	選	3	半期(後)			
システム工学	1	2	選	4	半期(前)			
ロボット工学	1	2	選	4	半期(後)			
計算機援用設計	1	2	選	4	半期(前)			

2012(平成24)年度カリキュラム
工学部第二部 機械工学科 授業科目配当表

機械工学科2012 - 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門 教育 科目	学科共通科目	工業力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	1	半期(前)	
		工業力学Ⅱおよび演習	1.5	3	必	1	半期(後)	
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
		コンピュータプログラミングおよび演習	1	2	選	3	半期(後)	
		電気工学	1	2	選	3	半期(後)	
		電子工学	1	2	選	3	半期(後)	
		微積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)	
		微分方程式Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	
		微分方程式Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	
		確率・統計	1	2	選	3	半期(前)	
		複素解析学	1	2	選	3	半期(後)	
		品質管理	1	2	選	4	半期(前)	
		オペレーションズリサーチ	1	2	選	4	半期(前)	
		卒業研究A	前1.5後1.5	3	選	4	通年	卒業研究Bと択一選択
		卒業研究B	前3後3	6	選	4	通年	卒業研究Aと択一選択
	教職関連科目	コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)	
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
		マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
		職業指導	前1後1	4	自	3	通年	
	社会人 コース 公開科目	マルチメディア工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		デザイン工学	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目 H23以前入学生カリキュラム科目名 「OA機器設計」
		人工環境計画	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		実用情報処理	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目 H23以前入学生カリキュラム科目名 「実用情報処理Ⅱ」
		特許法	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		コンピュータリテラシ	0.5	1	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目(集中講義)
		ベンチャー企業論	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		e-ビジネス情報技術	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		生活支援工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
イノベーション経営論		1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目	
ユビキタス無線工学		1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目	

2011,2010,2009(平成23,22,21)年度カリキュラム
工学部第二部 機械工学科 授業科目配当表

機械工学科2011-2009 - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門教育科目	東京電機大学で学ぶ	1	2	選	1	半期(前)	導入科目	
	基礎							
	線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)		
	線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		
	物理学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		
	物理学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		
	化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		
	化学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		
	学科共通必修科目							
	微積分学および演習Ⅰ	3	4	必	1	半期(前)		
	機械設計製図Ⅰ	2	2	必	2	半期(後)		
	機械設計製図Ⅱ	前1後1	2	必	3	通年		
	機械工学実験Ⅰ	2	2	必	2	半期(前)		
	機械工学実験Ⅱ	1	1	必	3	半期(前)		
	機械工学実験Ⅲ	1	1	必	3	半期(後)		
	機械工作実習	前1後1	2	必	4	通年		
	材料と加工							
	材料力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	2	半期(前)		
	材料力学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)		
	機械加工学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	2	半期(前)		
	機械加工学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)		
	材料工学	1	2	選	2	半期(前)		
	弾塑性学	1	2	選	3	半期(前)		
	材料強度学	1	2	選	3	半期(後)		
	トライボロジー概論	1	2	選	4	半期(後)		
	エネルギー							
	工業熱力学および演習	1.5	3	必	2	半期(前)		
	伝熱工学	1	2	選	3	半期(前)		
	流体の力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	2	半期(後)		
	流体の力学Ⅱ	1	2	選	3	半期(前)		
	エネルギー変換工学	1	2	選	4	半期(後)		
	熱機関	1	2	選	3	半期(前)		
	流体機械	1	2	選	3	半期(後)		
	情報と機械システム							
	メカトロニクス概論	1	2	選	1	半期(前)		
	機械要素設計および演習	1.5	3	選	2	半期(後)		
	振動工学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	2	半期(後)		
	振動工学Ⅱ	1	2	選	3	半期(前)		
	制御工学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)		
	制御工学Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)		
計測工学	1	2	選	3	半期(後)			
システム工学	1	2	選	4	半期(前)			
ロボット工学	1	2	選	4	半期(後)			
計算機援用設計	1	2	選	4	半期(前)			

2011,2010,2009(平成23,22,21)年度カリキュラム
工学部第二部 機械工学科 授業科目配当表

機械工学科2011-2009 - 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門 教育 科目	学科共通科目	工業力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	1	半期(前)	
		工業力学Ⅱおよび演習	1.5	3	必	1	半期(後)	
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
		コンピュータプログラミングおよび演習	1	2	選	3	半期(後)	
		電気工学	1	2	選	3	半期(後)	
		電子工学	1	2	選	3	半期(後)	
		微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)	
		微分方程式Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	
		微分方程式Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	
		確率・統計	1	2	選	3	半期(前)	
		複素解析学	1	2	選	3	半期(後)	
		品質管理	1	2	選	4	半期(前)	
		オペレーションズリサーチ	1	2	選	4	半期(前)	
		卒業研究A	前1.5後1.5	3	選	4	通年	卒業研究Bと択一選択
		卒業研究B	前3後3	6	選	4	通年	卒業研究Aと択一選択
		教職関連科目	コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)
	情報システムの基礎および演習		1	2	自	234	半期(前)	
	情報通信ネットワークの基礎および演習		1	2	自	234	半期(後)	
	マルチメディア表現技術の基礎および演習		1	2	自	234	半期(後)	
	職業指導		前1後1	4	自	3	通年	
	社会人 コース 公開 科目	マルチメディア工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		OA機器設計	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目 H24年度入学生カリキュラム 科目名 「デザイン工学」
		人工環境計画	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		実用情報処理Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目 H24年度入学生カリキュラム 科目名 「実用情報処理」
		特許法	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		コンピュータリテラシ	0.5	1	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目(集中講義)
		ベンチャー企業論	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		e-ビジネス情報技術	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		生活支援工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		イノベーション経営論	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		ユビキタス無線工学	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目

2012(平成24)年度カリキュラム
工学部第二部 情報通信工学科 授業科目配当表

情報通信工学科2012 - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門教育科目A	東京電機大学で学ぶ	1	2	選	1	半期(前)	導入科目
	基礎1						
	微分積分学および演習 I	3	4	選	1	半期(前)	
	微分積分学および演習 II	2	4	選	1	半期(後)	
	線形代数学 I	1	2	選	1	半期(前)	
	線形代数学 II	1	2	選	1	半期(後)	
	微分方程式 I	1	2	選	2	半期(前)	
	物理学 I	1	2	選	1	半期(前)	
	情報リテラシー	1	2	必	1	半期(前)	
	コンピュータプログラミングおよび演習 I	1	2	必	1	半期(前)	
	基礎2						
	情報通信メディア基礎	1	2	必	1	半期(前)	
	電磁気学の基礎および演習	1.5	3	選	2	半期(前)	
	メディアの基礎および演習	1	2	選	1	半期(後)	
	電気回路の基礎および演習	1	2	必	1	半期(前)	
	エレクトロニクスの基礎	1	2	選	2	半期(前)	
	情報機器の基礎	1	2	選	1	半期(後)	
	コンピュータプログラミングおよび演習 II	1	2	必	1	半期(後)	
	コンピュータ構成と機械語	1	2	選	2	半期(前)	
	データ構造とアルゴリズム I	1	2	選	2	半期(前)	
	データ構造とアルゴリズム II	1	2	選	3	半期(前)	
	インターネットプログラミング	1	2	選	2	半期(後)	
	基礎情報数学A(離散数学)	1	2	選	1	半期(後)	
	基礎情報数学B(確率と情報)	1	2	選	2	半期(前)	
	基礎情報数学C(代数と符号)	1	2	選	2	半期(後)	
	卒業研究A	前1後1	2	選	4	通年	卒業研究Bと択一選択
	卒業研究B	前2後2	4	選	4	通年	卒業研究Aと択一選択
	実験						
	情報通信基礎実験I	2	2	必	2	半期(前)	情報通信基礎実験と同時開講
	情報通信基礎実験II	2	2	必	2	半期(後)	情報通信基礎実験と同時開講
	情報通信工学実験 I	2	2	必	3	半期(前)	情報通信工学実験と同時開講
	情報通信工学実験 II	2	2	必	3	半期(後)	情報通信工学実験と同時開講
	情報通信プロジェクト	前2後2	4	必	4	通年	
専門教育科目B	情報通信・ネットワーク						
	回路網の基礎	1	2	選	1	半期(後)	
	エレクトロニクスの応用	1	2	選	2	半期(後)	
	信号システム解析	1	2	選	2	半期(後)	
	デジタル信号処理	1	2	選	3	半期(前)	
	応用物理学	1	2	選	3	半期(前)	
	電磁気学の応用	1	2	選	2	半期(後)	
	電波工学	1	2	選	3	半期(前)	
	信号理論	1	2	選	2	半期(前)	
	通信工学の基礎	1	2	選	2	半期(後)	
	通信システム	1	2	選	3	半期(前)	
	通信ネットワーク	1	2	選	3	半期(後)	
	情報ネットワーク I	1	2	選	3	半期(後)	
	情報ネットワーク II	1	2	選	4	半期(前)	
	ワイヤレスシステム工学	1	2	選	4	半期(前)	
	光ファイバ通信	1	2	選	4	半期(前)	
計測と制御	1	2	選	3	半期(後)		

2012(平成24)年度カリキュラム
工学部第二部 情報通信工学科 授業科目配当表

情報通信工学科2012 - 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門教育科目B	マルチメディア・コンピューティング	コンピュータグラフィックスとアニメーション	1	2	選	3	半期(前)	
		コンピュータグラフィックスとモデリング	1	2	選	2	半期(後)	
		音メディア情報学	1	2	選	4	半期(前)	
		画像処理工学	1	2	選	4	半期(前)	
		メディア表現学	1	2	選	4	半期(後)	
		データベース	1	2	選	3	半期(前)	
		オブジェクト指向分析・設計	1	2	選	3	半期(後)	
		情報システム論	1	2	選	4	半期(後)	
		ヒューマンインタフェース	1	2	選	4	半期(後)	
		論理回路および論理設計	1	2	選	2	半期(後)	
		デジタルシステム設計・実装論	1	2	選	4	半期(前)	
		コンピュータアーキテクチャ	1	2	選	3	半期(前)	
		ネットワークセキュリティ	1	2	選	3	半期(後)	
	その他	通信法規	1	2	選	4	半期(後)	
		モバイルシステム技術Ⅰ	1	2	選	3	半期(後)	
		モバイルシステム技術Ⅱ	1	2	選	4	半期(後)	
	教職関連科目	コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)	
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
		マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
職業指導		前1後1	4	自	3	通年		
専門教育科目	社会人コース公開科目	マルチメディア工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		デザイン工学	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目 H23以前入学生カリキュラム科目名 「OA機器設計」
		人工環境計画	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		実用情報処理	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目 H23以前入学生カリキュラム科目名 「実用情報処理Ⅱ」
		特許法	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		品質管理	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		コンピュータリテラシ	0.5	1	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目(集中講義)
		ベンチャー企業論	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		e-ビジネス情報技術	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		生活支援工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		イノベーション経営論	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		ユビキタス無線工学	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目

2011(平成23)年度カリキュラム
工学部第二部 情報通信工学科 授業科目配当表

情報通信工学科2011 - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門教育科目A	東京電機大学で学ぶ	1	2	選	1	半期(前)	導入科目
	基礎1						
	微分積分学および演習 I	3	4	選	1	半期(前)	
	微分積分学および演習 II	2	4	選	1	半期(後)	
	線形代数学 I	1	2	選	1	半期(前)	
	線形代数学 II	1	2	選	1	半期(後)	
	微分方程式 I	1	2	選	2	半期(前)	
	物理学 I	1	2	選	1	半期(前)	
	情報リテラシー	1	2	必	1	半期(前)	
	コンピュータプログラミングおよび演習 I	1	2	必	1	半期(前)	
	基礎2						
	情報通信メディア基礎	1	2	必	1	半期(前)	
	電磁気学の基礎および演習	1.5	3	選	2	半期(前)	
	メディアの基礎および演習	1	2	選	1	半期(後)	
	電気回路の基礎および演習	1	2	必	1	半期(前)	
	エレクトロニクスの基礎	1	2	選	2	半期(前)	
	情報機器の基礎	1	2	選	1	半期(後)	
	コンピュータプログラミングおよび演習 II	1	2	必	1	半期(後)	
	コンピュータ構成と機械語	1	2	選	2	半期(前)	
	データ構造とアルゴリズム I	1	2	選	2	半期(前)	
	データ構造とアルゴリズム II	1	2	選	3	半期(前)	
	インターネットプログラミング	1	2	選	2	半期(後)	
	基礎情報数学A(離散数学)	1	2	選	1	半期(後)	
	基礎情報数学B(確率と情報)	1	2	選	2	半期(前)	
	基礎情報数学C(代数と符号)	1	2	選	2	半期(後)	
	卒業研究A	前1後1	2	選	4	通年	卒業研究Bと択一選択
	卒業研究B	前2後2	4	選	4	通年	卒業研究Aと択一選択
	実験						
	情報通信基礎実験I	2	2	必	2	半期(前)	情報通信基礎実験と同時開講
	情報通信基礎実験II	2	2	必	2	半期(後)	情報通信基礎実験と同時開講
	情報通信工学実験 I	2	2	必	3	半期(前)	情報通信工学実験と同時開講
	情報通信工学実験 II	2	2	必	3	半期(後)	情報通信工学実験と同時開講
	情報通信プロジェクト	前2後2	4	必	4	通年	
専門教育科目B	情報通信・ネットワーク						
	回路網の基礎	1	2	選	1	半期(後)	
	エレクトロニクスの応用	1	2	選	2	半期(後)	
	信号システム解析	1	2	選	2	半期(後)	
	デジタル信号処理	1	2	選	3	半期(前)	
	応用物理学	1	2	選	3	半期(前)	
	電磁気学の応用	1	2	選	2	半期(後)	
	電波工学	1	2	選	3	半期(前)	
	信号理論	1	2	選	2	半期(前)	
	通信工学の基礎	1	2	選	2	半期(後)	
	通信システム	1	2	選	3	半期(前)	
	通信ネットワーク	1	2	選	3	半期(後)	
	情報ネットワーク I	1	2	選	3	半期(後)	
	情報ネットワーク II	1	2	選	4	半期(前)	
	ワイヤレスシステム工学	1	2	選	4	半期(前)	
	光ファイバ通信	1	2	選	4	半期(前)	
	計測と制御	1	2	選	3	半期(後)	

2011(平成23)年度カリキュラム
工学部第二部 情報通信工学科 授業科目配当表

情報通信工学科2011 - 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門教育科目B	マルチメディア・コンピューティング	コンピュータグラフィックスとアニメーション	1	2	選	3	半期(前)	
		コンピュータグラフィックスとモデリング	1	2	選	2	半期(後)	
		音メディア情報学	1	2	選	4	半期(前)	
		画像処理工学	1	2	選	4	半期(前)	
		メディア表現学	1	2	選	4	半期(後)	
		データベース	1	2	選	3	半期(前)	
		オブジェクト指向分析・設計	1	2	選	3	半期(後)	
		情報システム論	1	2	選	4	半期(後)	
		ヒューマンインタフェース	1	2	選	4	半期(後)	
		論理回路および論理設計	1	2	選	2	半期(後)	
		デジタルシステム設計・実装論	1	2	選	4	半期(前)	
		コンピュータアーキテクチャ	1	2	選	3	半期(前)	
		ネットワークセキュリティ	1	2	選	3	半期(後)	
	その他	通信法規	1	2	選	4	半期(後)	
		モバイルシステム技術Ⅰ	1	2	選	3	半期(後)	
		モバイルシステム技術Ⅱ	1	2	選	4	半期(後)	
	教職関連科目	コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)	
情報システムの基礎および演習		1	2	自	234	半期(前)		
情報通信ネットワークの基礎および演習		1	2	自	234	半期(後)		
マルチメディア表現技術の基礎および演習		1	2	自	234	半期(後)		
職業指導		前1後1	4	自	3	通年		
専門教育科目	社会人コース公開科目	マルチメディア工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		OA機器設計	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目 H24年度入学生カリキュラム科目名 「デザイン工学」
		人工環境計画	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		実用情報処理Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目 H24年度入学生カリキュラム科目名 「実用情報処理」
		特許法	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		品質管理	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		コンピュータリテラシ	0.5	1	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目(集中講義)
		ベンチャー企業論	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		e-ビジネス情報技術	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		生活支援工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		イノベーション経営論	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		ユビキタス無線工学	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目

2010,2009(平成22,21)年度カリキュラム
工学部第二部 情報通信工学科 授業科目配当表

情報通信工学科2010-2009 - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門教育科目A	東京電機大学で学ぶ	1	2	選	1	半期(前)	導入科目	
	基礎1							
	微分積分学および演習 I	3	4	選	1	半期(前)		
	微分積分学および演習 II	2	4	選	1	半期(後)		
	線形代数学 I	1	2	選	1	半期(前)		
	線形代数学 II	1	2	選	1	半期(後)		
	微分方程式 I	1	2	選	2	半期(前)		
	物理学 I	1	2	選	1	半期(前)		
	情報リテラシー	1	2	必	1	半期(前)		
	コンピュータプログラミングおよび演習 I	1	2	必	1	半期(前)		
	基礎2							
	情報通信メディア基礎	1	2	必	1	半期(前)		
	電磁気学の基礎および演習	1.5	3	選	2	半期(前)		
	メディアの基礎および演習	1	2	選	1	半期(後)		
	電気回路の基礎および演習	1	2	必	1	半期(前)		
	エレクトロニクスの基礎	1	2	選	2	半期(前)		
	情報機器の基礎	1	2	選	1	半期(後)		
	コンピュータプログラミングおよび演習 II	1	2	必	1	半期(後)		
	コンピュータ構成と機械語	1	2	選	2	半期(前)		
	データ構造とアルゴリズム I	1	2	選	2	半期(前)		
	データ構造とアルゴリズム II	1	2	選	3	半期(前)		
	インターネットプログラミング	1	2	選	2	半期(後)		
	基礎情報数学A(離散数学)	1	2	選	1	半期(後)		
	基礎情報数学B(確率と情報)	1	2	選	2	半期(前)		
	基礎情報数学C(代数と符号)	1	2	選	2	半期(後)		
	卒業研究A	前1後1	2	選	4	通年	卒業研究Bと択一選択	
	卒業研究B	前2後2	4	選	4	通年	卒業研究Aと択一選択	
	実験							
	情報通信基礎実験	前2後2	4	必	2	通年	情報通信基礎実験 I(前期)、情報通信基礎実験 II(後期)と同時開講	
	情報通信工学実験	前2後2	4	必	3	通年	情報通信工学実験 I(前期)、情報通信工学実験 II(後期)と同時開講	
	情報通信プロジェクト	前2後2	4	必	4	通年		
	専門教育科目B	情報通信・ネットワーク						
		回路網の基礎	1	2	選	1	半期(後)	
エレクトロニクスの応用		1	2	選	2	半期(後)		
信号システム解析		1	2	選	2	半期(後)		
デジタル信号処理		1	2	選	3	半期(前)		
応用物理学		1	2	選	3	半期(前)		
電磁気学の応用		1	2	選	2	半期(後)		
電波工学		1	2	選	3	半期(前)		
信号理論		1	2	選	2	半期(前)		
通信工学の基礎		1	2	選	2	半期(後)		
通信システム		1	2	選	3	半期(前)		
通信ネットワーク		1	2	選	3	半期(後)		
情報ネットワーク I		1	2	選	3	半期(後)		
情報ネットワーク II		1	2	選	4	半期(前)		
ワイヤレスシステム工学		1	2	選	4	半期(前)		
光ファイバ通信		1	2	選	4	半期(前)		
計測と制御		1	2	選	3	半期(後)		

2010,2009(平成22,21)年度カリキュラム
工学部第二部 情報通信工学科 授業科目配当表

情報通信工学科2010-2009 - 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門教育科目B	マルチメディア・コンピューティング	コンピュータグラフィックスとアニメーション	1	2	選	3	半期(前)	
		コンピュータグラフィックスとモデリング	1	2	選	2	半期(後)	
		音メディア情報学	1	2	選	4	半期(前)	
		画像処理工学	1	2	選	4	半期(前)	
		メディア表現学	1	2	選	4	半期(後)	
		データベース	1	2	選	3	半期(前)	
		オブジェクト指向分析・設計	1	2	選	3	半期(後)	
		情報システム論	1	2	選	4	半期(後)	
		ヒューマンインタフェース	1	2	選	4	半期(後)	
		論理回路および論理設計	1	2	選	2	半期(後)	
		デジタルシステム設計・実装論	1	2	選	4	半期(前)	
		コンピュータアーキテクチャ	1	2	選	3	半期(前)	
		ネットワークセキュリティ	1	2	選	3	半期(後)	
	その他	通信法規	1	2	選	4	半期(後)	
		モバイルシステム技術Ⅰ	1	2	選	3	半期(後)	
		モバイルシステム技術Ⅱ	1	2	選	4	半期(後)	
	教職関連科目	コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)	
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
		マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
職業指導		前1後1	4	自	3	通年		
専門教育科目	社会人コース公開科目	マルチメディア工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		OA機器設計	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目 H24年度入学生カリキュラム科目名 「デザイン工学」
		人工環境計画	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		実用情報処理Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目 H24年度入学生カリキュラム科目名 「実用情報処理」
		特許法	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		品質管理	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		コンピュータリテラシ	0.5	1	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目(集中講義)
		ベンチャー企業論	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		e-ビジネス情報技術	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		生活支援工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		イノベーション経営論	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		ユビキタス無線工学	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目

工学部第二部 全学科教職課程 授業科目配当表

区分1	区分2	科目名	必選	単位	配当年	配当期	コマ	備考	教職
教職に関する科目	第二欄	教職入門	自	2	1	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	320
	第三欄	教育学概論	選	2	2	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目	330
		教育心理学	選	2	1	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	331
		教育社会学	選	2	2	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	332
		教育課程論	自	2	2	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	341
	第四欄上	特別活動論	自	1	3	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	343
		教育の方法と技術	自	2	3	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目	342
		工業科教育法	自	4	3	通年	1	工業免許状必修科目	344
		情報科教育法	自	4	3	通年	1	情報免許状必修科目(夏期集中+後期授業)	347
		道徳教育論	自	2	3	半期(前)	1	中学校免許必修科目・集中講義	350
		教育相談	自	2	2	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	351
	第四欄下	生徒・進路指導論	自	2	2	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	352
		教育実習セミナー	自	2	4	通年	0.5	中学・高校免許必修科目	361
	第五欄	教育実習 I	自	2	4	通年	1	中学・高校免許必修科目	362
第六欄		教職実践演習(中・高)	自	2	4	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	370
教科に関する科目		職業指導	自	4	3	通年	1	工業免許状必修科目	160工業
		情報と職業	選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状必修科目	135情⑥
		情報化社会とコミュニケーション	選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状科目	130情①
		情報化社会と知的財産権	選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状必修科目	130情①
		情報倫理	選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状科目	130情①

付記:

- 1.教育実習科目は原則として各教科教育法及び教育原理、教育心理学の単位取得者に限り履修できる。
- 2.上記科目を履修するには、教職課程履修手続きが必要である。

工学部第二部 全学科教職課程 授業科目配当表

区分1	区分2	科目名	必選	単位	配当年	配当期	コマ	備考	教職
教職に関する科目	第二欄	教職概論	自	2	1	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	320
	第三欄	教育原理	選	2	2	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目	330
		教育心理学	選	2	1	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	331
		教育社会学	選	2	2	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	332
		教育課程論	自	2	2	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	341
	第四欄上	特別活動論	自	1	3	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	343
		教育の方法と技術	自	2	3	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目	342
		工業科教育法	自	4	3	通年	1	工業免許状必修科目	344
		情報科教育法	自	4	3	通年	1	情報免許状必修科目(夏期集中+後期授業)	347
		道徳教育の研究	自	2	3	半期(前)	1	中学校免許必修科目・集中講義	350
		教育相談	自	2	2	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	351
	第四欄下	生徒・進路指導論	自	2	2	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	352
		教育実習セミナー	自	2	4	通年	0.5	中学・高校免許必修科目	361
	第五欄	教育実習 I	自	2	4	通年	1	中学・高校免許必修科目	362
第六欄		教職実践演習(中・高)	自	2	4	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	370
教科に関する科目		職業指導	自	4	3	通年	1	工業免許状必修科目	160工業
		情報と職業	選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状必修科目	135情⑥
		情報化社会とコミュニケーション	選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状科目	130情①
		情報化社会と知的財産権	選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状必修科目	130情①
		情報倫理	選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状科目	130情①

付記:

- 1.教育実習科目は原則として各教科教育法及び教育原理、教育心理学の単位取得者に限り履修できる。
- 2.上記科目を履修するには、教職課程履修手続きが必要である。

工学部第二部 全学科教職課程 授業科目配当表

区分1	区分2	科目名	必選	単位	配当年	配当期	コマ	備考	教職
教職に関する科目	第二欄	教職概論	自	2	1	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	320
	第三欄	教育原理	選	2	2	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目	330
		教育心理学	選	2	1	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	331
		教育社会学	選	2	2	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	332
		教育課程論	自	2	2	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	341
	第四欄上	特別活動論	自	1	3	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	343
		教育の方法と技術	自	2	3	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目	342
		工業科教育法	自	4	3	通年	1	工業免許状必修科目	344
		情報科教育法	自	4	3	通年	1	情報免許状必修科目(夏期集中+後期授業)	347
		道徳教育の研究	自	2	3	半期(前)	1	中学校免許必修科目・集中講義	350
		教育相談	自	2	2	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	351
	第四欄下	生徒・進路指導論	自	2	2	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	352
	第五欄	総合演習	自	2	3	通年	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	360
	第六欄	教育実習セミナー	自	2	4	通年	0.5	中学・高校免許必修科目	361
		教育実習 I	自	2	4	通年	1	中学・高校免許必修科目	362
	教科に関する科目	職業指導	自	4	3	通年	1	工業免許状必修科目	160工業
情報と職業		選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状必修科目	135情⑥	
情報化社会とコミュニケーション		選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状科目	130情①	
情報化社会と知的財産権		選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状必修科目	130情①	
情報倫理		選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状科目	130情①	

付記:

- 1.教育実習科目は原則として各教科教育法及び教育原理、教育心理学の単位取得者に限り履修できる。
- 2.上記科目を履修するには、教職課程履修手続きが必要である。

2008(平成20)年度カリキュラム
工学部第二部 人間科学科目 授業科目配当表

人間科学科目2008 - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 目	配 当 年	配当期	備考	
共通教育科目	人間科学科目	哲学A	1	2	選	1234	半期(前/後)	哲学入門と同時開講
		こころの科学A	1	2	選	1234	半期(前/後)	自己心理学セミナーと同時開講
		法学A	1	2	選	1234	半期(前/後)	法律入門と同時開講
		経営学概論A	1	2	選	1234	半期(前/後)	企業と経営と同時開講
		歴史学A	1	2	選	1234	半期(前/後)	歴史理解の基礎と同時開講
		情報化社会とコミュニケーション	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		情報倫理	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		情報と職業	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		日本国憲法	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		日本経済入門	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		比較文化論	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		文学	1	2	選	1234	半期(前/後)	平成24年度開講せず
		ネットワーク経済	1	2	選	1234	半期(前/後)	情報とネットワークの経済社会と同時開講
		経営工学	1	2	選	1234	半期(前/後)	科学技術と企業経営と同時開講
		介護福祉論	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		認知心理学	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		記号論理学	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		技術者倫理	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		科学技術論	1	2	選	1234	半期(前/後)	平成24年度開講せず
		情報化社会と知的財産権	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		科学技術史A	1	2	選	1234	半期(前)	科学の社会史と同時開講
		経済学概論A	1	2	選	1234	半期(前)	平成24年度開講せず
		国際経営論	1	2	選	1234	半期(前)	平成24年度開講せず
		哲学B	1	2	選	1234	半期(後)	平成24年度開講せず
		こころの科学B	1	2	選	1234	半期(後)	平成24年度開講せず
		法学B	1	2	選	1234	半期(後)	平成24年度開講せず
		経営学概論B	1	2	選	1234	半期(後)	平成24年度開講せず
		歴史学B	1	2	選	1234	半期(後)	平成24年度開講せず
		科学技術史B	1	2	選	1234	半期(後)	技術の社会史と同時開講
		経済学概論B	1	2	選	1234	半期(後)	平成24年度開講せず
		ドイツ語Ⅰ	1	2	選	1234	半期(前)	原則としてⅠ・Ⅱの順に履修すること
		ドイツ語Ⅱ	1	2	選	1234	半期(後)	原則としてⅠ・Ⅱの順に履修すること
		ドイツ語Ⅲ	1	2	選	1234	半期(前)	平成24年度開講せず
		ドイツ語Ⅳ	1	2	選	1234	半期(後)	平成24年度開講せず
		健康と体力	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		体育基礎Ⅰ	1	1	選	1234	半期(前)	
		体育基礎Ⅱ	1	1	選	1234	半期(後)	
		異文化理解A	1	2	選	1234	半期(前/後)	
		異文化理解B	随時	2	選	1234	半期(前/後)	平成24年度開講せず
		アウトドアスポーツA	1	1	選	1234	半期(後)	集中講義
		アウトドアスポーツB	1	1	選	1234	半期(後)	集中講義
		アウトドアスポーツC	1	1	選	1234	半期(後)	集中講義
教育原理	1	2	選	2	半期(前)	教育学概論と同時開講		
教育心理学	1	2	選	1	半期(後)			
教育社会学	1	2	選	2	半期(後)			
実用ドイツ語	前1後1	4	選	1	通年	社会人コース公開科目		
中国語	前1後1	4	選	1	通年	社会人コース公開科目 H24年度カリキュラム科目名 「中国語Ⅰ・Ⅱ」と同時開講		

2008(平成20)年度カリキュラム
工学部第二部 英語科目 授業科目配当表

英語科目 2008 - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
共通教育科目	英語Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)	習熟度別
	英語Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)	習熟度別
	オールラウンド・コミュニケーションⅠ	1	1	選	1	半期(前)	
	オールラウンド・コミュニケーションⅡ	1	1	選	1	半期(後)	
	LL英語Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)	
	LL英語Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)	
	英語Ⅲ	1	1	選	2	半期(前)	
	英語Ⅳ	1	1	選	2	半期(後)	
	検定英語Ⅰ	1	1	選	2	半期(前)	
	検定英語Ⅱ	1	1	選	2	半期(後)	
	英語表現Ⅰ	1	1	選	2	半期(前)	
	英語表現Ⅱ	1	1	選	2	半期(後)	
	英語Ⅴ	1	1	選	3	半期(前)	平成24年度開講せず
	英語Ⅵ	1	1	選	3	半期(後)	平成24年度開講せず
	英会話Ⅰ	1	1	選	4	半期(前)	
	英会話Ⅱ	1	1	選	4	半期(後)	
	海外英語短期研修	-	2	選	1234	半期(前/後)	集中講義
	国内英語短期研修Ⅰ	-	1	選	1234	半期(前/後)	集中講義 平成24年度開講せず
	国内英語短期研修Ⅱ	-	1	選	1234	半期(前/後)	集中講義 平成24年度開講せず
	ビジネス英語	前1後1	2	選	1	通年	社会人コース公開科目 H24年度カリキュラム 「入門ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ」と 同時開講

2008(平成20)年度カリキュラム
工学部第二部 電気工学科 授業科目配当表

電気工学科 - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門教育科目	東京電機大学で学ぶ	1	2	選	1	半期(前)	導入科目 1年次のみ履修可	
	基礎	物理学 I	1	2	必	1	半期(前)	
		物理学 II	1	2	選	1	半期(後)	
		化学A	1	2	選	1	半期(前)	
		化学B	1	2	選	1	半期(後)	
		電磁気学	電磁気学および演習 I	2	4	必	2	半期(前)
		電磁気学および演習 II	2	4	選	2	半期(後)	
		高周波電磁気学	1	2	選	3	半期(前)	平成24年度開講せず
	回路理論	回路理論および演習 I	1	2	必	1	半期(前)	
		回路理論および演習 II	1	2	必	1	半期(後)	
		回路理論および演習 III	1	2	選	2	半期(前)	
		回路理論および演習 IV	1	2	選	2	半期(後)	
		過渡現象	1	2	選	3	半期(前)	
	半導体デバイス・電子材料	物性物理学	1	2	選	2	半期(後)	
		電子デバイス I	1	2	選	2	半期(後)	
		電子デバイス II	1	2	選	3	半期(前)	
		電気電子材料	1	2	選	3	半期(前)	
		センサ工学	1	2	選	4	半期(前)	
	電気機器・パワーエレクトロニクス	電気機器 I	1	2	選	3	半期(前)	
		電気機器 II	1	2	選	3	半期(後)	
		パワーエレクトロニクス	1	2	選	3	半期(後)	
		ドライブシステム	1	2	選	4	半期(後)	平成24年度開講せず
		電機設計および電気製図	1	2	選	4	半期(後)	
	計測・制御システム	電気計測 I	1	2	選	2	半期(前)	
		電気計測 II	1	2	選	2	半期(後)	
		制御工学 I	1	2	選	3	半期(前)	
		制御工学 II	1	2	選	4	半期(前)	
		制御工学 III	1	2	選	4	半期(後)	平成24年度開講せず
	電力・エネルギー応用	メカトロニクス	1	2	選	4	半期(後)	
		電力系統工学 I	1	2	選	3	半期(後)	
		電力系統工学 II	1	2	選	4	半期(前)	
		発電工学 I	1	2	選	4	半期(前)	
		発電工学 II	1	2	選	4	半期(後)	平成24年度開講せず
		高電圧工学	1	2	選	4	半期(後)	
		照明工学	1	2	選	3	半期(前)	平成24年度開講せず
		電気法規	1	2	選	4	半期(前)	
	電子回路	電子回路 I	1	2	選	3	半期(前)	
		電子回路 II	1	2	選	3	半期(後)	

2008(平成20)年度カリキュラム
工学部第二部 電気工学科 授業科目配当表

電気工学科 - 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門教育科目	コンピュータ・情報システム	コンピュータ基礎 I	1	2	選	1	半期(前)	新設科目
		コンピュータ基礎 II	1	2	選	1	半期(後)	新設科目
		デジタル回路	1	2	選	2	半期(前)	
		計算機アーキテクチャ	1	2	選	2	半期(後)	
		計算機システム論	1	2	選	3	半期(後)	
		通信概論	1	2	選	4	半期(後)	
		情報工学	1	2	選	3	半期(後)	
		システム工学	1	2	選	4	半期(前)	
		品質管理	1	2	選	4	半期(前)	
	実験	電磁気学実験 I	2.5	2.5	必	2	半期(前)	
		電磁気学実験 II	2.5	2.5	必	2	半期(後)	
		電気工学実験 I	2.5	2.5	必	3	半期(前)	
		電気工学実験 II	2.5	2.5	必	3	半期(後)	
	卒業研究	卒業研究	前1.5後1.5	3	選	4	通年	
	数学	微分積分学および演習 I	3	4	必	1	半期(前)	
		微分積分学および演習 II	2	4	選	1	半期(後)	
		線形代数学 I	1	2	選	1	半期(前)	
		線形代数学 II	1	2	選	1	半期(後)	
		微分方程式 I	1	2	選	2	半期(前)	
		微分方程式 II	1	2	選	2	半期(後)	
		確率・統計	1	2	選	3	半期(前)	
		複素解析学	1	2	選	3	半期(後)	
	教職関連科目	コンピュータ基礎および演習 III	1	2	自	234	半期(前)	
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
		マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
	公開講座	特別講義	1	2	選	1	半期(後)	平成24年度開講せず
	教科に関する科目	職業指導	前1後1	4	自	3	通年	
	社会人コース公開科目	マルチメディア工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		OA機器設計	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目 「デザイン工学」と同時開講
		人工環境計画	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
実用情報処理 II		1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目 「実用情報処理」と同時開講	
特許法		1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目	
コンピュータリテラシ		0.5	1	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目(集中講義)	
ベンチャー企業論		1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目	
e-ビジネス情報技術		1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目	
生活支援工学		1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目	
イノベーション経営論		1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目	
ユビキタス無線工学		1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目	

2008(平成20)年度カリキュラム
工学部第二部 電子工学科 授業科目配当表

電子工学科 - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
専門教育科目	東京電機大学で学ぶ	1	2	選	1	半期(前)	導入科目 1年次のみ履修可
	基礎						
	線形代数学 I	1	2	選	1	半期(前)	
	線形代数学 II	1	2	選	1	半期(後)	
	物理学 I A	1	2	選	1	半期(前)	
	物理学 I B	1	2	選	1	半期(後)	
	化学A	1	2	選	1	半期(前)	
	化学B	1	2	選	1	半期(後)	
	電子物性・物理						
	物理学 II A	1	2	選	2	半期(前)	
	物理学 II B	1	2	選	2	半期(後)	
	電子デバイス工学 I	1	2	選	3	半期(後)	
	電子デバイス工学 II	1	2	選	3	半期(前)	
	電子マテリアル	1	2	選	4	半期(後)	
	電子現象	1	2	選	3	半期(前)	平成24年度開講せず
	プラズマ基礎学	1	2	選	4	半期(前)	
	電磁波工学	1	2	選	4	半期(前)	
	レーザ工学	1	2	選	4	半期(前)	
	オプトエレクトロニクス	1	2	選	4	半期(前)	
	コンピュータ・情報						
	コンピュータ基礎 I	1	2	選	1	半期(前)	
	コンピュータ基礎 II	1	2	選	1	半期(後)	
	アルゴリズムとデータ構造 I	1	2	選	2	半期(前)	
	アルゴリズムとデータ構造 II	1	2	選	2	半期(後)	平成24年度開講せず
	デジタル回路 I	1	2	選	3	半期(前)	
	デジタル回路 II	1	2	選	3	半期(後)	
	コンピュータ・アーキテクチャ	1	2	選	3	半期(後)	
	コンピュータ・ハードウェア	1	2	選	4	半期(後)	平成24年度開講せず
	デジタル信号処理	1	2	選	4	半期(後)	
	ロボット工学	1	2	選	4	半期(後)	
	情報理論	1	2	選	3	半期(後)	
	通信方式	1	2	選	3	半期(後)	
	データ解析	1	2	選	4	半期(前)	平成24年度開講せず
その他							
品質管理	1	2	選	4	半期(前)		
通信法規	1	2	選	4	半期(後)		
特許法	1	2	選	4	半期(後)		
数学							
微分積分学および演習 I	3	4	選	1	半期(前)		
微分積分学および演習 II	2	4	選	1	半期(後)		
微分方程式 I	1	2	選	2	半期(前)		
微分方程式 II	1	2	選	2	半期(後)		
確率・統計	1	2	選	3	半期(前)		
複素解析学	1	2	選	3	半期(後)		

2008(平成20)年度カリキュラム
工学部第二部 電子工学科 授業科目配当表

電子工学科 - 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門教育科目	専門実験等	電子工学基礎実験Ⅰ	2.5	2.5	選	2	半期(前)	
		電子工学基礎実験Ⅱ	2.5	2.5	選	2	半期(後)	
		電子工学実験Ⅰ	2.5	2.5	選	3	半期(前)	
		電子工学実験Ⅱ	2.5	2.5	選	3	半期(後)	
	卒研等	電子工学演習Ⅰ	2	2	選	4	半期(前)	平成24年度開講せず
		電子工学演習Ⅱ	2	2	選	4	半期(後)	平成24年度開講せず
		卒業セミナー	前1後1	4	必	4	通年	
		卒業セミナー	前1後1	4	必	4	通年	
		卒業研究A	前1後1	2	選	4	通年	卒業研究Bと択一選択
		卒業研究B	前2後2	4	選	4	通年	卒業研究Aと択一選択
		卒業研究B	前2後2	4	選	4	通年	卒業研究Aと択一選択
	電気基礎	電磁気学Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	
		電磁気学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	
		電気回路Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)	
		電気回路Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
		電気回路演習	1	2	選	2	半期(前)	平成24年度開講せず
		電磁気学演習Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	
		電磁気学演習Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	
		過渡現象	1	2	選	3	半期(前)	
		電子計測	1	2	選	2	半期(後)	
	電子回路・装置	電子回路入門Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	平成24年度開講せず
		電子回路入門Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	平成24年度開講せず
		電子回路Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	
		制御工学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	
		制御工学Ⅱ	1	2	選	4	半期(前)	
		高周波回路	1	2	選	3	半期(前)	
		電子回路Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	
		音響工学	1	2	選	4	半期(前)	
		無線機器学	1	2	選	4	半期(後)	
		ユビキタス無線工学	1	2	選	4	半期(前)	
	教職関連科目	コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)	
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
		マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
	公開講座	特別講義	1	2	選	1	半期(後)	平成24年度開講せず
	教科に関する科目	職業指導	前1後1	4	自	3	通年	
	専門教育科目	マルチメディア工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		OA機器設計	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目 「デザイン工学」と同時開講
		人工環境計画	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		実用情報処理Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目 「実用情報処理」と同時開講
コンピュータリテラシ		0.5	1	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目(集中講義)	
ベンチャー企業論		1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目	
e-ビジネス情報技術		1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目	
生活支援工学		1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目	
イノベーション経営論		1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目	

2008(平成20)年度カリキュラム
工学部第二部 機械工学科 授業科目配当表

機械工学科2008 - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門教育科目	東京電機大学で学ぶ	1	2	選	1	半期(前)	導入科目	
	基礎							
	線形代数学 I	1	2	必	1	半期(前)		
	線形代数学 II	1	2	選	1	半期(後)		
	物理学 I	1	2	選	1	半期(前)		
	物理学 II	1	2	選	1	半期(後)		
	化学 I	1	2	選	1	半期(前)		
	化学 II	1	2	選	1	半期(後)		
	学科共通必修科目							
	微分積分学および演習 I	3	4	必	1	半期(前)		
	機械設計製図 I	2	2	必	2	半期(後)		
	機械設計製図 II	前1後1	2	必	3	通年		
	機械工学実験 I	2	2	必	2	半期(前)		
	機械工学実験 II	1	1	必	3	半期(前)		
	機械工学実験 III	1	1	必	3	半期(後)		
	機械工作実習	前1後1	2	必	4	通年		
	材料と加工							
	材料力学 I および演習	1.5	3	必	2	半期(前)		
	材料力学 II	1	2	選	2	半期(後)		
	機械加工学 I および演習	1.5	3	必	2	半期(前)		
	機械加工学 II	1	2	選	2	半期(後)		
	材料工学	1	2	選	2	半期(前)		
	弾塑性学	1	2	選	3	半期(前)		
	材料強度学	1	2	選	3	半期(後)		
	トライボロジー概論	1	2	選	4	半期(後)		
	エネルギー							
	工業熱力学および演習	1.5	3	必	2	半期(前)		
	伝熱工学	1	2	選	3	半期(前)		
	流体の力学 I および演習	1.5	3	必	2	半期(後)		
	流体の力学 II	1	2	選	3	半期(前)		
	エネルギー変換工学	1	2	選	4	半期(後)		
	熱機関	1	2	選	3	半期(前)		
	流体機械	1	2	選	3	半期(後)		
情報と機械システム								
メカトロニクス概論	1	2	選	1	半期(前)			
機械要素設計および演習	1.5	3	選	2	半期(後)			
振動工学 I および演習	1.5	3	必	2	半期(後)			
振動工学 II	1	2	選	3	半期(前)			
制御工学 I	1	2	選	3	半期(前)			
制御工学 II	1	2	選	3	半期(後)			
計測工学	1	2	選	3	半期(後)			
システム工学	1	2	選	4	半期(前)			
ロボット工学	1	2	選	4	半期(後)			
計算機援用設計	1	2	選	4	半期(前)			

2008(平成20)年度カリキュラム
工学部第二部 機械工学科 授業科目配当表

機械工学科2008 - 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専 門 教 育 科 目	学 科 共 通 科 目	工業力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	1	半期(前)	
		工業力学Ⅱおよび演習	1.5	3	必	1	半期(後)	
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)	
		コンピュータプログラミングおよび演習	1	2	選	3	半期(後)	
		電気工学	1	2	選	3	半期(後)	
		電子工学	1	2	選	3	半期(後)	
		微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)	
		微分方程式Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	
		微分方程式Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	
		確率・統計	1	2	選	3	半期(前)	
		複素解析学	1	2	選	3	半期(後)	
		品質管理	1	2	選	4	半期(前)	
		オペレーションズリサーチ	1	2	選	4	半期(前)	
		卒業研究A	前1.5後1.5	3	選	4	通年	卒業研究Bと択一選択
		卒業研究B	前3後3	6	選	4	通年	卒業研究Aと択一選択
		教 職 関 連 科 目	コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)
	情報システムの基礎および演習		1	2	自	234	半期(前)	
	情報通信ネットワークの基礎および演習		1	2	自	234	半期(後)	
	マルチメディア表現技術の基礎および演習		1	2	自	234	半期(後)	
	職業指導		前1後1	4	自	3	通年	
	社 会 人 コ ー ス 公 開 科 目	マルチメディア工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		OA機器設計	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目 H24年度入学生カリキュラム科 目名 「デザイン工学」
		人工環境計画	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		実用情報処理Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目 H24年度入学生カリキュラム科 目名 「実用情報処理」
		特許法	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		コンピュータリテラシ	0.5	1	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目(集中講義)
		ベンチャー企業論	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		e-ビジネス情報技術	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		生活支援工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
イノベーション経営論		1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目	
ユビキタス無線工学	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目		

2008(平成20)年度カリキュラム
工学部第二部 情報通信工学科 授業科目配当表

情報通信工学科2008 - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考		
専門教育科目A	東京電機大学で学ぶ	1	2	選	1	半期(前)	導入科目		
	微分積分学および演習 I	3	4	選	1	半期(前)			
	微分積分学および演習 II	2	4	選	1	半期(後)			
	基礎1	線形代数学 I	1	2	選	1	半期(前)		
		線形代数学 II	1	2	選	1	半期(後)		
		微分方程式 I	1	2	選	2	半期(前)		
		物理学 I	1	2	選	1	半期(前)		
		情報リテラシー	1	2	必	1	半期(前)		
		コンピュータプログラミングおよび演習 I	1	2	必	1	半期(前)		
		基礎2	情報通信メディア基礎	1	2	必	1	半期(前)	
			電磁気学の基礎および演習	1.5	3	選	2	半期(前)	
	メディアの基礎および演習		1	2	選	1	半期(後)		
	電気回路の基礎および演習		1	2	必	1	半期(前)		
	エレクトロニクスの基礎		1	2	選	2	半期(前)		
	情報機器の基礎		1	2	選	1	半期(後)		
	コンピュータプログラミングおよび演習 II		1	2	必	1	半期(後)		
	コンピュータ構成と機械語		1	2	選	2	半期(前)		
	データ構造とアルゴリズム I		1	2	選	2	半期(前)		
	データ構造とアルゴリズム II		1	2	選	3	半期(前)		
	インターネットプログラミング		1	2	選	2	半期(後)		
	基礎情報数学A(離散数学)		1	2	選	1	半期(後)		
	基礎情報数学B(確率と情報)		1	2	選	2	半期(前)		
	基礎情報数学C(代数と符号)		1	2	選	2	半期(後)		
	卒業研究A		前1後1	2	選	4	通年	卒業研究Bと択一選択	
	卒業研究B		前2後2	4	選	4	通年	卒業研究Aと択一選択	
	実験		情報通信基礎実験	前2後2	4	必	2	通年	情報通信基礎実験 I(前期)、情報通信基礎実験 II(後期)と同時開講
		情報通信工学実験	前2後2	4	必	3	通年	情報通信工学実験 I(前期)、情報通信工学実験 II(後期)と同時開講	
		情報通信プロジェクト	前2後2	4	必	4	通年		
	専門教育科目B	情報通信・ネットワーク	回路網の基礎	1	2	選	1	半期(後)	
			エレクトロニクスの応用	1	2	選	2	半期(後)	
			信号システム解析	1	2	選	2	半期(後)	
			デジタル信号処理	1	2	選	3	半期(前)	
			応用物理学	1	2	選	3	半期(前)	
電磁気学の応用			1	2	選	2	半期(後)		
電波工学			1	2	選	3	半期(前)		
信号理論			1	2	選	2	半期(前)		
通信工学の基礎			1	2	選	2	半期(後)		
通信システム			1	2	選	3	半期(前)		
通信ネットワーク			1	2	選	3	半期(後)		
情報ネットワーク I			1	2	選	3	半期(後)		
情報ネットワーク II			1	2	選	4	半期(前)		
ワイヤレスシステム工学			1	2	選	4	半期(前)		
光ファイバ通信			1	2	選	4	半期(前)		
計測と制御			1	2	選	3	半期(後)		

2008(平成20)年度カリキュラム
工学部第二部 情報通信工学科 授業科目配当表

情報通信工学科2008 - 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
専門教育科目B	マルチメディア・コンピューティング	コンピュータグラフィックスとアニメーション	1	2	選	3	半期(前)	
		コンピュータグラフィックスとモデリング	1	2	選	2	半期(後)	
		音メディア情報学	1	2	選	4	半期(前)	
		画像処理工学	1	2	選	4	半期(前)	
		メディア表現学	1	2	選	4	半期(後)	
		データベース	1	2	選	3	半期(前)	
		オブジェクト指向分析・設計	1	2	選	3	半期(後)	
		情報システム論	1	2	選	4	半期(後)	
		ヒューマンインタフェース	1	2	選	4	半期(後)	
		論理回路および論理設計	1	2	選	2	半期(後)	
		デジタルシステム設計・実装論	1	2	選	4	半期(前)	
		コンピュータアーキテクチャ	1	2	選	3	半期(前)	
	ネットワークセキュリティ	1	2	選	3	半期(後)		
	その他	通信法規	1	2	選	4	半期(後)	
		モバイルシステム技術	1	2	選	3	半期(後)	
		モバイルシステム技術II	1	2	選	4	半期(後)	
	教職関連科目	コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)	
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	
マルチメディア表現技術の基礎および演習		1	2	自	234	半期(後)		
職業指導		前1後1	4	自	3	通年		
専門教育科目	専門教育科目	マルチメディア工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		OA機器設計	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目 H24年度入学生カリキュラム科目名 「デザイン工学」
		人工環境計画	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		実用情報処理II	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目 H24年度入学生カリキュラム科目名 「実用情報処理」
		特許法	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		品質管理	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		コンピュータリテラシ	0.5	1	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目(集中講義)
		ベンチャー企業論	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		e-ビジネス情報技術	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		生活支援工学	1	2	選	3	半期(後)	社会人コース公開科目
		イノベーション経営論	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目
		ユビキタス無線工学	1	2	選	3	半期(前)	社会人コース公開科目

工学部第二部 全学科教職課程 授業科目配当表

区分1	区分2	科目名	必選	単位	配当年	配当期	コマ	備考	教職
教職に関する科目	第二欄	教職概論	自	2	1	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	320
	第三欄	教育原理	選	2	2	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目	330
		教育心理学	選	2	1	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	331
		教育社会学	選	2	2	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	332
		教育課程論	自	2	2	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	341
	第四欄上	特別活動論	自	1	3	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	343
		教育の方法と技術	自	2	3	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目	342
		工業科教育法	自	4	3	通年	1	工業免許状必修科目	344
		情報科教育法	自	4	3	通年	1	情報免許状必修科目(夏期集中+後期授業)	347
		道徳教育の研究	自	2	3	半期(前)	1	中学校免許必修科目・集中講義	350
		教育相談	自	2	2	半期(前)	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	351
	第四欄下	生徒・進路指導論	自	2	2	半期(後)	1	中学・高校免許必修科目	352
	第五欄	総合演習	自	2	3	通年	1	中学・高校免許必修科目・集中講義	360
	第六欄	教育実習セミナー	自	2	4	通年	0.5	中学・高校免許必修科目	361
		教育実習 I	自	2	4	通年	1	中学・高校免許必修科目	362
教科に関する科目	職業指導	自	4	3	通年	1	工業免許状必修科目	160工業	
	情報と職業	選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状必修科目	135情⑥	
	情報化社会とコミュニケーション	選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状科目	130情①	
	情報化社会と知的財産権	選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状必修科目	130情①	
	情報倫理	選	2	234	半期(前/後)	1	情報免許状科目	130情①	

付記:

- 1.教育実習科目は原則として各教科教育法及び教育原理、教育心理学の単位取得者に限り履修できる。
- 2.上記科目を履修するには、教職課程履修手続きが必要である。

履 修 案 内

(2012、2011、2010、2009、2008年度 カリキュラム)

1	授業科目	63
2	授 業	65
3	履修計画・履修届	67
4	試 験	70
5	成 績	73
6	再 履 修	75
7	進級条件	75
8	卒 業	77
9	転 学 部	80
10	そ の 他	82

※ホームページでも、学生要覧の内容は公開してます。

尚、年度途中で掲載内容に変更がでた場合は、掲示でお知らせします。

URLは次のとおりです。

<http://www.soe.dendai.ac.jp/kyomu/yoran2012/>

※学生による授業評価調査表の実施結果を公開しています。

URLは次のとおりです。

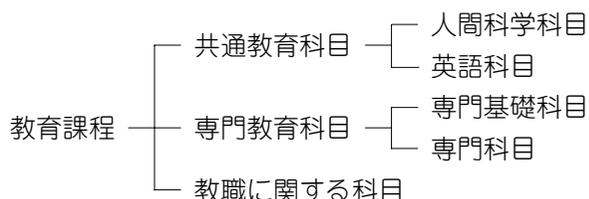
<http://www.soe.dendai.ac.jp/kyomu/hyouka/>

1 授 業 科 目

工学部第二部で本年度に開講される授業科目は、授業科目配当表のとおりです。授業科目配当表には①教育課程（授業科目）、②単位数、③必修、選択、自由科目の別、④配当学年、⑤配当期（前期、後期、通年等）、⑥毎週授業時間数などが記載されています。科目の担当教員については時間割で確認して下さい。

1-1 教育課程

本学部では教育課程を、次のように構成しています。



1-2 単位数

大学では、各授業科目に、授業科目の形態に応じて単位数が定められています。単位とは授業科目の学修量を数値化したものです。

授業科目の1単位は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

各授業科目の単位は、その授業方法・授業時間外に必要な学修を考慮し、次の基準により計算します。

1単位は45時間の学修を標準としていますので、残り時間は、自ら授業時間外の学修として行うことになります。

- ① 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位としています。
- ② 実験・実習・製図及び実技については、30時間の授業をもって1単位としています。
- ③ 卒業研究等については、学習の成果を考慮して単位数を定めています。

1-3 必修・選択・自由科目

必修科目 所属学科においてその単位修得が義務づけられている授業科目です。卒業するためには必ずその単位を修得しなければなりません。

選択科目 自分の志望により選択履修する科目です。単位修得は義務づけられませんが、卒業の所要単位数に算入されます。

択一選択科目については、必要に応じて、原則いずれか一方の科目を履修すること。

自由科目 修得すれば単位は与えられますが、卒業の所要単位数には算入されない科目です。

公開科目 一般学生の3・4年次生は社会人コースの科目を他学科科目として履修することが認められています。単位修得した科目は、それぞれの科目区分の選択科目として扱います。また、卒業所要単位数として算入できる単位数は、他の大学等における授業科目の履修等と合わせて60単位をこえることはできません。

なお、下記の科目については、1年次生から他学科科目として履修することができます。

カリキュラム年度	科目
2012	入門ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ（英語科目） ヨーロッパ学入門（人間科学科目） 中国語Ⅰ・Ⅱ（人間科学科目）
2011以前	ビジネス英語（英語科目） 実用ドイツ語（人間科学科目） 中国語（人間科学科目）

「公開科目」が自分の所属する学科の専門科目として配当されている場合は、専門科目配当年次に履修しなければなりません。

1-4 配当学年

それぞれの授業科目は、体系的に関連づけられ、開講される学年があらかじめ定められています。したがって、学生は自分の学年に配当された授業科目（再履修の場合は、自分の学年より下級学年に配当された授業科目）を履修することになっています。

また、上級学年に配当された授業科目は特別の場合を除いて履修できません（学年配当の原則）。

（注）社会人コース学生は社会人コース履修案内の項を参照のこと。

1-5 配当期

通年科目 1年間30週にわたって授業が行なわれる科目。

前期科目 前期半年間15週にわたって授業が行なわれる科目。

後期科目 後期半年間15週にわたって授業が行なわれる科目。

集中講義科目 夏季・冬季休業中などの一定期間に連続集中して授業が行なわれる科目。集中講義科目の時間割は講義開始の数週間前に発表されます。

1-6 毎週授業時間数（コマ）

授業時間割上の時限（コマ）のこと。1とあれば1週間に1時限（1コマ=90分=2時間に換算）開講していることを意味します。

1-7 担当教員名

担当教員には常勤教員と非常勤教員がいます。

非常勤教員は原則として、担当科目の授業日は大学にいる事になっています。授業担当教員に用事がある場合は、直接授業教室へ行くか、講師室（2号館3階）まできて下さい。また、シラバスに連絡先が記載されている場合があります。

なお、学期末に実施する期間を定めて実施する定期試験期間中に大学へ出校することができない担当者もいます。特に非常勤教員への問い合わせは、授業が終了するまでに行なうようにして下さい。

2 授 業

授業などの年間スケジュールについては「2012年度授業・行事日程表」を参照してください。平成24年度7月16日は「海の日」で休日ですが授業を実施します。なお翌7月17日を「海の日」の振替休講日とします。

また、授業は授業時間割にしたがって受講してください。

授業時間割には、曜日・時限（コマ）・授業科目名・担当教員名・教室が明示されています。また、各変更のお知らせは、掲示、ホームページにより行われます。毎日必ず、掲示してください。

授業中は、私語を慎み、他の受講生に迷惑をかけないようにしてください。

2-1 時限と時間

時限	時間	備考
1時限	9：00～10：30	土曜日のみ
2時限	10：40～12：10	土曜日のみ
3時限	13：10～14：40	土曜日のみ
4時限	14：50～16：20	土曜日のみ
5時限	16：30～18：00	昼夜学部共用時間帯
6時限	18：10～19：40	夜間学部用時間帯
7時限	19：50～21：20	夜間学部用時間帯

各自、所属する学科の時間割で、開講時限を必ず確認して下さい。

2-2 クラス編成

授業は原則として各学年・学科（クラス）を単位として行なわれ、学生は各自クラスごとに指定された曜日・時限・教室で授業を受けることとなります。ただし、英語科目・演習科目などはクラスを分割して授業を行ないます。また人間科学科目などの

科目はクラスを合併して授業を行いません。授業開始前に自分の受講したい科目名や担当教員名を確認して、間違いのないように履修して下さい。

2-3 休講

担当教員の都合その他により授業が中止になる場合は、その都度、掲示により知らせます。授業の開始時間を30分程度経過しても担当教員が入室しないときは、前もって工学部・未来科学部事務部からの指示がないかぎり休講の扱いとなります。

2-4 交通ストライキ等の場合の授業の取扱い

原則として、当日正午のNHKテレビニュースで、JR首都圏電車区間がストライキまたは事故により全線不通と報道されたときは、当日の授業は休講となります。

その他の私鉄のみがストライキまたは事故で不通のときは、平常通り授業を行いません。

2-5 補講

休講の補充や学期内に授業が終了しなかったときなどに臨時に授業を行なう場合は、掲示により知らせます。

2-6 授業時間割変更

曜日・時限などに変更がある場合は、掲示により知らせます。

2-7 実験・実習・英語等のガイダンス

実験・実習・体育実技・英語科目等については、授業開始第一週めにガイダンスが行なわれます。日程等は掲示によりお知らせします。ガイダンスに出席しないと以後の履修に支障をきたすこととなりますので必ず出席してください。

2-8 授業への出席

履修する授業科目の授業には毎回出席することが必要です。出欠状況は成績評価の重要な要素になります。

授業に欠席し、欠席理由を担当教員に知らせる必要があるときは、各人が**欠席届(用紙は工学部・未来科学部事務部窓口)**を担当教員に提出してください。**1週間以上欠席する場合には、診断書等の理由書が必要**となります。

正当な理由がなく、無届けで、引き続き3カ月以上欠席した者は除籍対象者となり

ます。また、授業への出席状態がよくなり、担当教員が履修を途中で放棄したと判断したときは、成績は「－」(放棄) となります。

2-9 出欠調査

授業の出席には**学生証**が必要ですので、忘れないように注意してください。

3 履修計画・履修届

平成24年度は、1～4年次の全学年において学費制度が同じ扱いとなります（詳細は生活案内の「学費」を参照してください。）。

平成18年度1年次生より、工学部第二部の学費制度として**学費単位従量制度**を導入しました。この制度は、学生が履修する単位数に応じて学費を納入する制度となるので、学生個々で納入金額が異なります。また、この制度は、単位従量額分の単位数について、「履修登録し、授業を受講し、正当な成績評価を受ける」権利を与える制度です。よって、履修登録した科目について「**単位取得**」を保障するものではありませんので、注意してください。

なお、4年間で各学期平均して卒業所要単位である124単位を取得するためには、最低でも1学期あたり16単位程度取得する必要がありますので、以下の事項をよく理解して履修計画を立ててください。

全学生対象

3-1 履修計画

1年間にどの授業科目をどのように履修するか計画（履修計画）は、次の点を充分考慮して立ててください。

- ① オリエンテーション中の学科別履修ガイダンス等を参考に卒業までの履修計画を立てる。
- ② 「履修モデル」・「授業科目配当表」・「講義要目(シラバス)」を熟読し、学期初めにガイダンスのある科目については、**必ずガイダンスを受けて**授業科目の配当と概要をつかむ。
- ③ **必修科目は必ず履修する。（自分自身で履修登録を行う）**
- ④ 選択科目については、「履修モデル」・「講義要目(シラバス)」を参考にして各自の志望と興味に応じて履修する。特に高学年次へ進むにつれて次第に自分の専攻したい分野を定めて、それに関連のある科目を選択する。
- ⑤ 上級学年次に進んでから単位不足に気づき、卒業年次になってから、あわてて多くの科目を履修することのないように「区分別卒業所要単位数」などを十分に念頭におきながら、ある程度の余裕を見込んで履修科目数・単位数を決める。（詳

しくは「8 卒業」を参照すること)

- ⑥ **2年生から3年生へ進級するときに進級制度**が設けられています。進級条件をしっかりと把握し、単位数不足にならないよう充分注意してください。(詳しくは「7 進級条件」を参照すること)
- ⑦ 学生による授業評価調査表の実施結果公開について
授業をより良くするために実施しております「**授業評価調査表**」の実施結果を学内ネットワーク上で公開しています。履修登録の際に参考としてください。
閲覧方法は、下記のURLへアクセスし、「学生による授業評価調査表実施結果」を選んでください。
<http://www.soe.dendai.ac.jp/kyomu/hyouka/>

3-2 履修登録

期間や方法などの詳細は学生ポータルサイト又は掲示にて連絡します。必ず期間内に自分で履修登録をするようにしてください。

履修登録は、前期に前期科目・通年科目・集中講義科目などを、後期に後期科目・集中講義科目などを、それぞれ受け付けます。詳細は掲示にて連絡します。

重複受講の禁止 履修する科目が授業時間割上重複するときは、そのうちの1科目のみ履修できます。しかし、例外として2科目の履修を認めることがあります。

詳しくは「3-3 特別履修登録」の「重複履修許可願」を参照して下さい。

変更の禁止 いったん履修が確定した授業科目の履修変更は認められません。

無届科目 履修登録がなされていない科目の受講・受験は許されません。単位の認定も行なわれません。また、定期試験の受験資格も与えられません。

履修放棄 履修登録を行った授業科目の授業を欠席するなど途中で放棄したり、定期試験を受験しないときは、成績評価は放棄「一」となります。

3-3 特別履修登録

(1) UNIPAでの申請

他部科科目履修

自分の所属する学部に配当がなく、工学部、未来科学部、理工学部および情報環境学部の他の学部科目のうち、自己の学年次以下に配当されている科目について、人数に余裕がある場合、履修することができます。ただし、自分の所属する学科に配当のある科目と内容が類似する科目の履修は原則として認めません。

他学部（工学部・未来科学部・理工学部・情報環境学部）科目の履修を希望するときは、他学部科目履修登録用紙に所定事項を記入し、工学部・未来科学部事務部へ提出してください。許可・不許可については、後日掲示により知らせます。工学部第一部の科目および工学部第二部電気工学科、電子工学科の科目は履修できません。

工学部第二部他学科（工学部第二部のうち、自分の所属する学科を除く他の学科）科目は、履修登録期間中に履修登録ができます。事前に履修可能科目を明確にし、掲示致します。

なお、単位修得した科目については、

- ①必修科目・選択科目は、それぞれの区分の選択科目として扱います。
- ②自由科目は、自由科目として扱います。

また、卒業所要単位として算入できる単位は、他の大学等における授業科目の履修等と合わせて60単位をこえることはできません。**（他学部他学科履修にて1年間に履修登録することができる単位数の上限が20単位となります。）**

社会人コースに開講されている公開科目は、3・4年次生に限り、他学科科目として履修が認められます。ただし、社会人コース公開科目の人間科学科目、英語科目については、1年次生から他学科科目として履修することができます。

なお、履修を希望する「公開科目」が自分の所属する学科の専門科目として配当されている場合は、専門科目配当年次に履修しなければなりません。

教職課程履修

1年次後期から教職課程の履修が可能となります。教職課程の履修を希望する場合、教職課程ガイダンスを受け、「教職課程履修願」を工学部・未来科学部事務部へ提出してください。（詳しいことは別冊「教職課程」又は「資格・免許」の項を参照してください。）

（2）用紙での申請

東京理工系大学による学術と教育の交流に関する協定に基づく、学生交流(単位互換)のための履修願

東京理工系大学とは、東京電機大学、芝浦工業大学、東京都市大学（旧：武蔵工業大学）および工学院大学を指します。この四大学間で、平成11年4月より、学生交流（単位互換）の履修制度が実施されています。履修できる科目、履修方法、単位の認定、各判定時の科目の扱い等についての詳細は、学期始めに掲示でお知らせします。

転学部・編入学者等の特別履修願

転学部者・編入学者が特別の事情により通常外の履修をしたいときは、「転学部・編入学者特別履修願」を工学部・未来科学部事務部に提出することができます。提出締切り後、工学部・未来科学部事務部で一括して学科長の承認を受けます。許可・不許可については後日掲示により知らせます。

重複履修許可願

履修を希望する科目が、授業時間割上、同曜日の同時限に2科目以上重複している場合、その一方のみ履修が許可されます（重複受講の禁止）。例外として重複履修が認められる場合があります。授業時間割上重複した科目の履修を希望する学生は、工学

部・未来科学部事務部で相談の上、窓口にある「重複履修許可願」に所定の事項を記入し、工学部・未来科学部事務部に提出するようにしてください。

前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願

卒業延期となった者が本年度の前期末に卒業を希望する場合、前年度授業に出席し試験を受けたが不合格となった通年科目については、前期履修登録の期間中にこの願を工学部・未来科学部事務部に提出し、学科より承認を受けることにより本年度前期末に評価してもらえらることになります。なお、**8－6 前期末卒業**の項も参照してください。

4 試 験

授業科目の履修状況を評価し、単位を認定するための資料として試験が行なわれます。**試験**は、**筆記**のほかに、科目によっては**レポート**や**平常点**などの方法で行なわれることもあります。

4－1 定期試験

前期末、後期末の一定期間に期間を定めて行なわれる試験を**定期試験**といいます。

受験資格

定期試験を受けるには、次の4つの条件をすべて満たしていることが必要です。

なお、休学期間中は試験を受けることはできません。

- ① その授業科目の履修登録を完了していること。
- ② その授業科目の授業に常時出席したこと。
- ③ その学期までの学費を納入していること。
- ④ 通年科目で、前・後期の2回定期試験が行なわれる科目について後期定期試験を受験するには、前期定期試験を受験していること。

時間割

定期試験時間割・試験室・試験のためのクラス分割などについては、定期試験の前にあらかじめ掲示により発表します。授業とは違う時間帯にて実施されるので注意してください。

定期試験の時限と時間

平成20年度から次の時限と時間で、定期試験の時間割を運用しています。

平成20年度以降の試験時間帯 (試験時間80分)		時限毎の 休憩時間 など
1時限	9:30~10:50	20分 (昼休み 60分)
2時限	11:10~12:30	
3時限	13:30~14:50	
4時限	15:10~16:30	15分
5時限	16:45~18:05	
6時限	18:20~19:40	
7時限	19:55~21:15	

夜間学部の定期試験は、別途、実施日・時限の指示があります。確認してください。

なお、授業時間中に期末試験を行なう科目もあります。

定期試験受験上の心得

試験時間割の確認 試験日・試験時間・試験室・座席番号などは学生ポータルサイトで確認してください。(他学部他学科科目・再履修科目などの科目と自分の学科配当の科目が重複するときは、直ちに工学部・未来科学部事務部へ申し出て指示を受けてください。)

座席の指定 試験室で各自が座る席は掲示で確認してください。

学生証の呈示 試験室では、必ず学生証を常に机の上、通路側の見やすい場所に呈示してください。万一、当日携帯していないときは、自動証明書発行機により仮受験票を出力して下さい。(仮受験票の発行を受ける場合は有料(1,000円)となります。)

遅刻・退出 定期試験時の遅刻については、定期試験期間前に案内する掲示を確認してください。

定期試験時の退出については、試験時間開始40分後から試験終了10分前まで可能です。

学籍番号・氏名等の記入 答案用紙に学年・学科・学籍番号・氏名を必ず記入してください。記入のない答案は無効となります。

試験監督者の指示 試験時間中は、試験監督者が一切の権限を有します。試験監督者の指示に従わない者、または私語など受験態度不良の者には退室を命じることがあります。また、試験時間中、筆記用具・消ゴムなどの貸借は試験監督者の許可がなければできません。

不正行為 工学部第二部では、カンニングなど不正行為をした場合、退学・停学・訓告などの懲戒処分になるとともに、当該試験の属する試験要領発表後に実施

される授業中実施科目を含めた定期試験の全科目が無効となります。

「当該試験の属する」の範囲には、定期試験実施要領発表後に実施される授業中実施・レポート科目も含まれます。

試験の棄権 試験時間途中で受験を中止する場合でも、答案用紙に学年・学科・学籍番号・氏名を記入して提出してください。受験した科目の答案用紙は、持ち帰ることはできません。

4-2 追試験

定期試験を急病など真に止むを得ない理由で欠席した場合は、追試験が行なわれることがあります。追試験を実施するかどうかは担当教員にまかされており、追試験願を提出しても追試験が行なわれるとはかぎりません。できる限り定期試験の期間中の試験を受けてください。

追試験願を提出できる理由

次の4つの場合のみ、証明書類を添付して追試験願を提出することができます。

- ① 本人の病気のため受験が全く不可能な場合。(医師の診断書)
- ② 2親等以内の親族の危篤・死亡の場合。(証明する書類)
- ③ 交通機関停止等により登校が不可能の場合。(遅延証明書等)
- ④ その他本人の責任でない真に止むを得ない事情がある場合。(理由書)

(試験時間割の見間違い、仕事の都合などは止むを得ない理由とは認められません。

なお、就職試験のため定期試験を受けられなかった学生は、学科長に相談してください。)

手続き

定期試験の受験資格(前記)を満たしており、追試験願を提出できる理由に該当する者は、定期試験期間終了日の翌日から数えて3日以内(休日を除く)に、医師の診断書等欠席理由を証する書面を添えた試験欠席届(追試験願)を工学部・未来科学部事務部へ提出してください。

追試験の実施に関する詳細(受付スケジュール、追試験の実施の有無、実施日など)は、掲示にてお知らせします。申請した科目の追試験が実施されることとなった場合は、**受験手続き(受験料1科目につき500円必要)**を行なってください。

不正行為

工学部第二部では、カンニングなど不正行為をした場合、**退学・停学・訓告などの懲戒処分**になるとともに、**当該試験の属する追試験及び試験要領発表後に実施される授業中実施科目・レポート科目を含めた定期試験の全科目が無効**となります。

4 - 3 中間試験

学期の途中で担当教員が随時行なう試験です。

不正行為

工学部第二部では、カンニングなど不正行為をした場合、**退学・停学・訓告などの懲戒処分**になるとともに、**当該試験科目が無効**となります。

4 - 4 提出物の期限

履修届・レポート・製図、その他、工学部・未来科学部事務部や担当教員から学生に提出物を求めるときは、必ず「期限（締切日と締切時間）」が定められます。

期限を過ぎた提出物は一切受けませんので、必ず、締切日・締切時間を確認し、指定の時間までに提出してください。

締切時間は指示がない限り窓口取扱い時間と同じです。

実験レポートについては実験室が管理していますので、それらに関する問い合わせ等は直接実験室にしてください。

5 成 績

試験の結果は担当教員が採点し、1点きざみの評点が与えられます。60点以上の評点を得たときが合格で、その授業科目について定められた単位数が与えられます。これを大学側からみて**単位認定**、学生側からみて**単位修得**といいます。

単位認定は、原則としてその授業科目の履修が終わる配当期の終了時点に行なわれます。

一旦単位を修得した授業科目は履修の終了が認定されたわけですから、再度の履修はできません。

評点と評価

評点は評価におきかえられ、成績通知書・成績証明書などに記載されます。なお、評点の通知はおこないません。

評 価		評点・摘要
成績証明書用	成績通知書用	
S	S	90～100点 80～ 89点 70～ 79点 60～ 69点 } 合格（単位修得）
A	A	
B	B	
C	C	
※	D	0～ 59点 不合格（単位未修得）
R	—	放棄（下記の注を参照）
	*	履修中（現在履修中の意味）
	R	認定（他大学・短期大学等の単位を認定した場合）

（注）履修届を提出した授業科目を受験しなかったときおよび通常の授業への出席状態が悪く、担当教員が履修を途中で放棄したと判断したときは「—」放棄となる。

成績の通知

年度末までの成績の通知は3月に、前期末までの成績通知は後期授業開始後9月中旬に行います。詳細はあらかじめ掲示で知らせます。

なお、学期の途中で担当教員から採点報告があっても、個々の発表は行ないません。

成績順位

平成19年度より、総合的成績評価において、GPA（Grade Point Average）を基本とします。

$$GPA = (\text{単位加重GPの総和}) / (\text{履修登録単位の総和})$$

※ 単位加重GPの総和 = (S評価の単位数) × 4 + (A評価の単位数) × 3 + (B評価の単位数) × 2 + (C評価の単位数) × 1

※ 単位加重GP（Grade Point）とは、取得した各科目の評価（S・A・B・C・D）に下記の各科目の評価を指数化するグレートポイントを掛けた数値です。

ポイント	評 価	評点（100点法）
4	S	90～100
3	A	80～89
2	B	70～79
1	C	60～69
0	D	0～59
	—	放 棄

※ 総和には自由科目を含まない。

※ 履修登録単位の総和に、履修中の単位は含まれない。

※ 履修登録単位の総和は、学生に配布した成績通知書に記載の科目を対象とし、同

じ科目の単位修得するまでにかかった再履修分の履修単位数は含まれない。

※ GPAの値は小数点第4位を四捨五入した値となります。

※ 用途

・学部内における判定等

6 再履修

履修した授業科目の単位を修得できなかったときは、その科目の履修をもう一度はじめからやり直す（再履修）こととなります。

その際、次の点に留意してください。

- ① 必修科目の単位を修得できなかったときは、必ず再履修する。
- ② 選択科目の単位を修得できなかったときに再履修するかどうかは、各自の意志にまかされますが、卒業に必要な単位数は確保するよう再履修科目を決めてください。
- ③ 再履修科目の配当条件に変更があったときは、「再履修方法（新旧授業科目対応表）」(別掲)を参照し、単位未修得科目に対応する授業科目を誤りなく再履修してください。
- ④ 再履修する授業科目の単位数が変更になった場合でも、再履修の結果合格したときは、もとの単位数が与えられます。(留年して再履修した場合は新しい単位数となる)
- ⑤ 再履修科目の担当教員が前年度と変更になった場合は、当該年度担当教員のもとで再履修してください。
- ⑥ 再履修科目と正規履修科目とが授業時間割上重複した場合、原則として両科目を履修することはできません(重複履修の禁止)。(3-3 履修届時に提出できる願・届を参照)
- ⑦ 再履修科目の履修届・試験などについては、通常の履修の場合と同様です。

7 進級条件

休学期間を除き2年次に合算して12ヶ月以上在学(判定時に休学中の者も含む)を対象に進級条件が設けられています(平成24年度より変更になりました)。履修の際は、進級条件を充分考慮し、履修計画をたて学習するようにしてください。進級条件は下記のとおりです。(社会人コースには進級条件はありません)

① 2年生から3年生への進級時に、②の進級条件で判定が実施されます。

②進級条件

- ・2年終了までに、50単位以上修得すること。ただし、自由科目は含まない。
- ・必修科目の各学科の取り扱いは次の通りである。

〔表1〕

平成24年度1・2年次生用（電気工学科、電子工学科の1・2年生は下表（表2）のとおり）

学科名	NE科	NM科	NC科
	(電気電子工学科)	(機械工学科)	(情報通信工学科)
2年次までの必修 配当科目数	6科目	12科目	6科目
要修得必修科目数	3科目	9科目	4科目

※ 進級判定は、平成25年度末（2年次末）に実施されます。

〔表2〕

平成24年度 電気工学科、電子工学科の1・2年次生用

学科名	E科	D科
	(電気工学科)	(電子工学科)
2年次までの必修 配当科目数	7科目	配当なし
要修得必修科目数	4科目	条件なし

※ 電子工学科は1～2年次に必修科目の配当なし

※ 進級判定は、平成24年度末に実施されます。（電気工学科、電子工学科の1年次生の進級判定は平成25年度末に実施されます。）

休学による場合をのぞき、通算して4年の在学をこえてなお進級できないものは除籍となります。（学則）

8 卒 業

8-1 卒業条件（社会人コース学生は社会人コース履修案内を参照してください。）

休学期間を除き4年次に合算して12ヶ月以上在籍している者を対象に卒業判定を行います。卒業判定時に休学中の者は対象となりません。

本学部を卒業するためには、次のすべての条件を満たすことが必要です。

卒業条件

- ① 卒業するために必要な単位数（卒業所要単位数。次表参照）を修得したこと。
- ② 自分の所属する学科に配当されている必修科目の単位の全部を修得したこと。
- ③ 合計4年以上（8年以内）在学したこと。
- ④ 卒業までに必要な学費及びその他の費用の全額を納入したこと。
- ⑤ 卒業判定時に休学していないこと。

卒業所要単位数

区 分		単位数
共通教育科目	人間科学科目	8
	英 語 科 目	5
専門教育科目	専門基礎科目	86
	専 門 科 目	
任意に選択した科目		25
合 計		124

※特色ある教育を推進するために、卒業所要単位の中に学生の個性に合わせて選択できる科目区分が設けられております。

これが、左の表中の「任意に選択した科目」で、修得した場合は、卒業所要単位数に25単位まで算入できます。

この「任意に選択した科目」とは、人間科学科目から8単位、英語科目から5単位、専門教育科目から86単位を超えて修得した単位をいいます。

また、他学部他学科科目を履修し、単位修得した科目は表中のそれぞれの区分の選択科目の単位として取扱われます。（但し、卒業所要単位数として算入できる単位は、他の大学等における授業科目の履修等と合わせて60単位を超える事はできません。）

[注]

1. 自分の所属する学科の必修科目は、上記単位数に含めて履修しなければならない。
2. 公開科目を履修した場合は、該当する科目区分の選択科目として卒業所要単位数に算入できる。
（社会人コース以外の学生が公開科目を履修する場合は他学科科目履修の扱いとなります。）
3. 科目区分の卒業所要単位数を超えて履修・修得した科目は、任意に選択した科目区分に含める。
4. 他学部他学科科目履修により修得した科目は、それぞれの区分の選択科目として扱います。
（自由科目は、自由科目として扱います。）
但し、卒業所要単位数として算入できる単位は、他の大学等における授業科目の履修等と

合わせて60単位を超えることはできません。

人間科学科目

人間科学科目から、**合計 8 単位以上**修得することが必要です。

英語科目

英語科目から**合計 5 単位以上**修得することが必要です。

専門教育科目

各学科において定められた必修科目の単位を含めて、86単位以上を修得しなければなりません。

専門科目は全学科共通の専門科目のほか、各学科の専門分野に応じ、1年次から4年次にわたり、必修・選択・自由科目の別に開講されています。(自由科目は卒業所要単位に含まれません)

8-2 学位記

本学部の卒業生には、**学士(工学)**の学位が授与されます。卒業時に学位記を授与します。本学の場合、学位記が卒業証書を兼ねますので、いわゆる卒業証書と称するものは授与しません。

8-3 卒業見込証明書

4年次に進級した学生で一定の科目・単位数の修得要件を満たした者には卒業見込証明書を発行します。卒業見込証明書は4月上旬から受付けます。発行日についてはあらためて掲示により知らせます。

8-4 卒業見込基準

以下の(1)または(2)の基準を満たす場合に卒業見込証明書を発行します。

休学中の学生には、卒業見込証明書は発行されません。学科に相談して下さい。

- (1) **4年次前期開始時点**で、卒業所要単位数のうち93単位以上を取得し、1～3年次に配当された必修科目につき未修得科目が3科目以内(電子工学科を除く)であること。
- (2) **4年次前期終了時点**で、単位数109単位以上を取得し、1～3年次に配当された必修科目につき未修得科目が後期配当科目であり、かつ2科目以内であること。

8-5 卒業延期（4年次留年）

卒業判定において卒業要件を満たさなかった者は4年次に留年（卒業延期）となります。再び、4年次をやり直すこととなります。再履修方法（新・旧授業科目対応表）を参照し、履修に間違いのないように注意してください。

8-6 前期末卒業（卒業条件を満たさず卒業延期になった者対象）

- (1) 4年次に合算して12か月以上在学するものを対象とする。ただし、12か月以上の在学には、休学期間を在学期間に含まない。
- (2) 前記の条件を満たした者を対象として前期末卒業判定を実施する。判定時に休学中の者は対象としない。

卒業所要単位数など所定の卒業条件を満たしたときは、前期末卒業（9月10日付）となる。

（所定の卒業条件）

卒業条件は、入学した年度に掲示している卒業条件を適用する。

なお、2011（平成23）年度在籍者は、当該年度に適用されているカリキュラムを入学した年度のカリキュラムと見做し、2012（平成24）年度以降適用する。

留年している者も2011（平成23）年度の正規在籍者のカリキュラムを適用する。

前期末卒業の希望確認（意志確認）の手続きについて

- (1) 年度末卒業判定が行なわれ卒業延期者が確定した3月の成績通知後に、学科長または学生アドバイザーから卒業延期者に対し「前期末卒業制度」が説明されます。
⇒ 卒業延期者は、**連絡先（必ず本人と連絡がつく連絡先）の登録**を行います。
今後、前期末卒業に関する連絡を学科から行う場合に使用します。
- (2) 9月上旬の成績通知後に、「前期末卒業の対象者（前記の卒業条件を満たした者）に対し、前期末卒業の希望確認（意志確認）を行います。卒業時期の確認手続きは以下によります。

(卒業時期の確認手続)

時期：9月上旬

○対象学生への卒業時期の意志確認	前期成績が確定後、前期末卒業判定が実施され、判定結果が学科長へ通知されます。その結果を受け、学科長又は学生アドバイザーは、前期末卒業条件を満たした対象者全員に、前期末卒業（9月10日付卒業）とするか、または、翌年3月卒業とするかの卒業時期の希望を確認します。
○卒業時期の確定	対象学生への意志確認 1) 対象学生の意志確認ができ学生が前期末卒業を希望する場合、または、対象学生の意志確認が出来ない（連絡がつかない）場合 ⇒ 9月10日付で卒業となります。 2) 対象学生より「翌年3月に卒業したい」旨の申請があった場合 定められた期間内に「翌年3月に卒業を希望する」旨の申請書(対象学生及び保証人の署名・捺印が必要) を学部長宛に提出する事により、翌年3月に卒業時期が変更となります。 ※ 後期の在籍となることから学費の支払い義務が発生します。保証人と充分相談し、希望を決定して下さい。

前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願

前年度卒業延期者が通年科目を再履修して前期末卒業を希望する場合は、その科目の履修届を提出するだけでなく、「前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願」を必ず提出しなければなりません。（用紙は工学部・未来科学部事務部にあります。）
(手続き)

卒業延期者のうち、通年科目を前年度までに少なくとも1年間履修し単位未修得の者で、前期末卒業の可能性があると本人が判断し前期末卒業を希望する者は、前期履修登録期間に「**前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願**」を1科目につき1部ずつ提出して下さい。

(1) 通年科目であれば必修科目・選択科目を問いません。

(2) 後期科目はこの手続きの対象外です。

※ 修得できた科目の単位は、前期末卒業できた場合、又、前期末卒業できずに翌年3月に卒業する場合にも、修得科目として、卒業所要単位数に算入されます。

9 転 学 部

本学工学部第二部に在学している者が工学部、理工学部、情報環境学部または未来科学部へ転学部を希望する場合には、次の転学部制度があります。転学部制度は実施年度により受験資格等が変更する場合がありますので、制度の詳細や最新の情報は、要項を参照してください。要項は12月中旬から入試センターで配布します。

① 工学部第二部から工学部へ

- ・工学部第二部1年次在籍者：

36単位以上の単位を取得見込みの者は選考により工学部2年次に転学部ができます。このうち、在学中の学業成績が特に優秀な者は推薦により転学部ができます。志望学科の指定科目の単位を取得していない者は、受験できません。

- ・工学部第二部2年次在籍者：

60単位以上の単位を取得見込みの者は選考により、工学部2年次への転学部ができます。（本人の希望と受入学科の判定により3年次への転学部になることもあります。）志望学科の指定科目の単位を取得していない者は、受験できません。

⑨：いずれも他昼間学部への転学部試験に志願しない者

② 工学部第二部から理工学部へ

- ・工学部第二部1年次在籍者：

36単位以上の単位を取得見込みであり、第1学年末時点でのGPA順位が、各学科第1学年内で上位10%以内の者は選考により理工学部2年次に転学部ができます。

- ・工学部第二部2年次在籍者：

68単位以上の単位を取得見込みであり、工学部第二部第3年次への進級条件を満たし、かつ、第2学年末時点でのGPA順位が、各学科第2学年内で上位10%以内の者は、選考により理工学部3年次に転学部することができます。

⑨：いずれも他昼間学部への転学部試験に志願しない者

③ 工学部第二部から情報環境学部へ

- ・工学部第二部1年次在籍者：

36単位以上の単位を取得見込みの者は選考により情報環境学部2年次に転学部ができます。

- ・工学部第二部2年次在籍者：

60単位以上の単位を取得見込みの者は選考により、情報環境学部2年次に転学部ができます。（本人の希望と受入学科の判定により3年次への転学部になることもあります。）

⑨：いずれも他昼間学部への転学部試験に志願しない者

④ 工学部第二部から未来科学部へ

- ・工学部第二部1年次在籍者：

36単位以上の単位を取得見込みの者は選考により未来科学部2年次に転学部することができます。このうち、在学中の学業成績が特に優秀な者は推薦により転学部することができます。志望学科の指定科目の単位を取得していない者は、受験できません。

- ・工学部第二部2年次在籍者：

60単位以上の単位を取得見込みの者は選考により、未来科学部2年次に転学部することができます。（本人の希望と受入学科の判定により3年次に転学部することもあります。）志望学科の指定科目の単位を取得していない者は、受験できません。

⑨：いずれも他昼間学部への転学部試験に志願しない者

10 そ の 他

10-1 学習サポートセンター

大学で学ぶための基礎学力を確実に身に付けることについて、サポートします。
上級学年で学習する科目の理解力（応用力）を高めると共に、高校時代に学習した内容の理解に不安がある場合にも対応します。

教員構成 本学専任・非常勤教員のほかに、学習サポートセンター指導員らの少数による講義や質問の対応、指導を行います。

対象科目 特に新入学生から低学年次の学生に開講されている科目（数学・物理・英語科目など）を対象に実施します。東京千住キャンパスに通学している学生であれば、誰でも利用可能です。

実施形態 ①個別指導による学習支援（数学・物理・英語科目などの基礎学力の向上支援のための質問への対応）。

②グループ学習（ミニ講義や補習などの時間割制による講義形式等）。

注意 ①数学科目のミニ講義は、講義内容が授業に合わせ、2週程度で変更となります。詳細については、別途掲示にて、お知らせをします。

②英語科目のミニ講義については、掲示または英語系列のホームページを参照してください。

実施場所 東京千住キャンパス 4号館 3階 学習サポートセンター 40313

履修案内

(社会人コース)

履修案内（社会人コース）

この項では、主として社会人コースに在籍する学生のみに関係することがらを中心として説明しています。ここに記載されていないことについては、一般の学生と同様ですから履修案内の項にも目を通して十分理解しておいてください。

【1～4年次生共通事項】

授業科目

本年度に開講される授業科目は、各学科の授業科目配当表に示してある授業科目配当表のとおりです。

授業は授業時間割にしたがって行われます。

履修計画

履修（他学部・他学科含む）においては、**科目の配当学年は問われません**ので、何年次に履修しても構いません。ただし、「卒業研究」及びこれに準ずる科目は、配当学年次に履修しなければなりません。

所属する学科の必修科目については、必ず履修しなければなりません。ただし、情報通信工学科においては、必修科目を選択科目として取り扱います。

教職課程の履修は、1年次より許可されます。ただし「教育実習セミナー」「教育実習Ⅰ」及びこれに準ずる科目は、配当年次に履修しなければなりません。詳しくは教職課程ガイダンスに出席の上、確認してください。

履修科目の選択や単位の修得方法については、自分の勉学方針や研究分野をよく見極めたうえ、最大の効果が得られるよう履修計画をたててください。各個人に社会人コースアドバイザーが相談を受け付けます。

進級制度

社会人コースには進級条件はありませんが、計画的にバランスよく履修してください。工学部第二部の一般学生には、2年から3年次への進級条件があり、2年次終了時には、60単位程度の単位修得が、4年間での卒業の目安となります。

社会人コース学生としての要件（入学出願時）

- 1) 入学時において、企業等での勤務経験が3年以上の者
- 2) 入学時において、企業等での勤務経験が3年未満の者で、入学後も引き続き企業等に勤務する予定である者
- 3) 入学後に企業等に勤務することが内定している高校等卒業予定者

身分の変更

次に掲げる者は、**社会人コース学生としての身分を失います**。

- ① 入学後、企業を退職し、引き続き他の企業に勤務する意思のない者。
- ② その他、教授会が社会人コース学生として不適当であると認めた者。

上記により**社会人コース学生としての身分を失った者は、履修要件、卒業要件等すべて一般の学生と同様になります。**

詳しいことは、工学部第二部社会人コース学生規程を参照してください。

履修登録

所属する学科の学習プログラムを基にして、必要に応じて社会人コースアドバイザーと学修計画を立て、履修登録を行ってください。社会人コースアドバイザーとの履修相談の方法や期間は掲示にて確認してください。

なお、社会人コース学生の履修登録期間は、一般学生の履修登録期間と同じ期間です。指定された期間内に当該学期の履修登録を所定の方法で行ってください。

履修登録の方法は下記「(2) 社会人コース特有の履修登録」を除き、一般学生と同様です。3-2履修登録(P.52~)を参照してください。

(1)一般学生と同一手順の履修登録

	履修登録の種別	履修方法
1	自分の所属学科の科目	Web履修
2	工学部第二部内の他学科科目で 「一般学生も履修可能な他学科科目」	Web履修
3	他学部科目履修登録	Web申請 (履修可否は掲示)
4	教職課程履修科目 (教職課程登録者のみ)	Web履修

(2)社会人コース特有の履修登録

勤務の都合等、真にやむを得ない事情により、自学科配当科目と同一科目を他学科の授業時間割で履修することを希望する場合は、社会人コースアドバイザーに相談し、承認を得た上で工学部・未来科学部事務部にその旨申し出てください。

1	工学部第二部内の他学科科目で 「一般学生は履修不可の他学科科目」	Web申請 (履修可否は掲示)
---	-------------------------------------	--------------------

なお、社会人コースアドバイザーとの履修に関する相談は各アドバイザーの指定する方法により、随時相談することができますが、社会人コース学生の履修登録期間は、一般学生の履修登録期間と同じ期間です。指定された期間内に履修登録を行なって下さい。

卒業条件

休学期間を除き4年次に合算して12ヶ月以上在籍している者を対象に卒業判定を行います。卒業判定時に休学中の者は対象となりません。

本学部を卒業するためには、次のすべての条件を満たすことが必要です。

- ① 卒業するために必要な単位数（区分別卒業所要単位数）を修得したこと。
- ② 自分の所属する学科に配当されている必修科目の単位の全部を修得したこと。
- ③ 合計4年以上（8年以内）在学したこと。
- ④ 卒業までに必要な学費及びその他の費用の全額を納入したこと。
- ⑤ 卒業判定時に休学していないこと。

表）社会人コース学生の区分別卒業所要単位数（社会人コース卒業をするための条件）

区 分		単位数	備 考
共通教育科目	人間科学科目	8	公開科目含む
	英 語 科 目	5	公開科目含む
専門教育科目	専門基礎科目	61	公開科目含む
	専 門 科 目		
任意に選択した科目		50	
合 計		124	

研究室への所属

受け入れ先の研究室の合意があれば、2年次より研究室での活動が認められます。ただし、4年次までは、卒業研究を履修することはできません。

活動を希望する研究室がある場合は、社会人コースアドバイザーに相談してください。

履修上の注意（開講科目対応表）

履修上の注意

2011年度以前カリキュラムの授業科目配当表に記載の以下の科目は、カリキュラムが変更となった場合、授業運営上、(時間割やシラバスなどには)新科目名(2012年度以降カリキュラムの科目)が使用されます。履修登録の際は、対応する新科目名を誤りなく履修するようにしてください。新科目名は、当該科目の成績評価の前まで使用されます。

成績確定後は、自身の授業科目配当表の科目名(旧科目名)に読み替えられます。

<2012年度に開講する科目対応表>

1. 電気電子工学科

該当科目なし

2. 機械工学科

該当科目なし

3. 情報通信工学科

授業科目配当表の科目名(旧科目名)	カリキュラム年度	新科目名
モバイルシステム技術 I	2008-2010	モバイルシステム技術

4. 電気工学科

授業科目配当表の科目名(旧科目名)	カリキュラム年度	新科目名
メカトロニクス	2008	ロボット工学
電気計測 I	2008	電気電子計測 I
計算機アーキテクチャ	2008	デジタル回路 II
情報工学	2008	情報理論
電気計測 II	2008	電気電子計測 II
通信概論	2008	通信方式
発電工学 I	2008	発電工学
計算機システム論	2008	計算機アーキテクチャ
デジタル回路	2008	デジタル回路 I

5. 電子工学科

授業科目配当表の科目名(旧科目名)	カリキュラム年度	新科目名
物理学 II A	2008	物理学 III
アルゴリズムとデータ構造 I	2008	プログラミングおよび演習
電子計測	2008	電気電子計測 II
電気回路 I	2008	回路理論および演習 I
レーザ工学	2008	光・電磁波工学
物理学 II B	2008	物性物理学
コンピュータ・アーキテクチャ	2008	計算機アーキテクチャ
電子デバイス工学 I	2008	電子デバイス I
電子デバイス工学 II	2008	電子デバイス II
デジタル信号処理	2008	信号処理
電気回路 II	2008	回路理論および演習 II

6. 社会人コース科目

授業科目配当表の科目名(旧科目名)	カリキュラム年度	新科目名
実用情報処理 II	2008-2011	実用情報処理
OA機器設計	2008-2011	デザイン工学

7. 教職課程科目

授業科目配当表の科目名(旧科目名)	カリキュラム年度	新科目名
教職概論	2008-2010	教職入門
教育原理	2008-2010	教育学概論
道徳教育論	2008-2010	道徳教育の研究

※ 上記内容に変更がある場合は、その都度掲示にてご案内いたします。

※ 次年度の科目対応については、新年度にご案内いたします。

※ 上記以外の科目において、自身の授業科目配当表の科目名(旧科目名)と新科目名を同時に開講する場合がありますが、授業運営上、新科目名のみを使用することがあります。

資 格 ・ 免 許

1	卒業後取得できる主な資格・免許	95
2	教職課程	97
3	電気主任技術者	110
4	第一級・第二級陸上無線技術士	115
5	第一級陸上特殊無線技士・第三級海上特殊無線技士	118
6	電気通信主任技術者	121
7	電気工事士	126

卒業後取得できる主な資格・免許

該当学科において、在学中に所定の単位を取得することによって、資格が取得できるもの、および試験免除等となる主な資格・免許は次のとおりです。

資格・免許名	取得条件	該当学科	所轄官庁 (東京都の場合)
高等学校教諭 1種普通免許	教職課程の項参照 教職課程要覧参照	各 学 科	東京都教育庁 人事部検定課
電気主任技術者 第1種 第2種 第3種	電気主任技術者の項参照	電気電子工学科 電気工学科	経済産業省 原子力安全・ 保安院 関東東北産業 保安監督部 電力安全課
第一級 第二級 陸上無線技術士	第一級・第二級陸上無線技術 士の項参照	電気電子工学科 電子工学科	関東総合通信 局無線通信部 航空海上課
第一級 陸上特殊無線技士 第三級 海上特殊無線技士	第一級陸上特殊無線技士・第 三級海上特殊無線技士の項参 照	電気電子工学科 電子工学科 情報通信工学科	関東総合通信 局無線通信部 航空海上課
電気通信主任技術者	電気通信主任技術者の項参照	電気電子工学科 電子工学科 情報通信工学科	関東総合通信 局情報通信部 電気通信事業 課
電気工事士 第2種	電気工事士の項参照	電気電子工学科 電気工学科	(財)電気技術 者試験センタ ー
弁 理 士		全 学 科	特許庁総務部 秘書課弁理士 係
技 術 士 補	第一次試験のうち、共通科目 の試験が免除となる。	全 学 科	(社)日本技術 士会技術士試 験センター
建設機械施工技士 1級	大学で、機械・建築・電気に関 する学科を卒業した者で、 3年以上の実務経験（そのう ち1年は指導監督的実務経 験）を有する者は、受験資格 がある。	電気電子工学科 電気工学科 機 械 工 学 科	(社)日本建設 機械化協会

資格・免許名	取得条件	該当学科	所轄官庁 (東京都の場合)
消防設備士 甲種		全 学 科 (情報通信工学科除く)	(財)消防試験 研究センター 中央試験セン ター
公害防止管理者		全 学 科	(社)産業環境 管理協会公害 防止管理者試 験センター
ボイラー・タービン 主任技術者 第1種 第2種	所定の経験を経た者は免状の 交付を受けることができる。	機 械 工 学 科 (ただし、熱機関を 修得のこと)	経済産業省 原子力安全・ 保安院 関東東北産業 保安監督部 電力安全課
ボイラー技士 特級 1級 2級	ボイラーに関する学科を修め 下記の実務経験を有する者 は、受験資格がある。 特級 2年以上の実地修習 1級 1年以上の実地修習 2級 3カ月以上の実地修習	機 械 工 学 科 (ただし、熱機関を 修得のこと)	関東安全衛生 技術センター

2 教 職 課 程

本学部においては、「高等学校教諭1種：工業・情報」の教育職員免許状を取得するための教職課程が設けられており、1年次生から履修することができます。

教育職員免許状を取得するには、卒業所要単位のほかに、教育職員免許法に定められた「教職に関する科目」および「教科に関する科目」の単位を修得しなければなりません。

教職課程の履修方法、教育実習、教育職員免許状の申請などの詳細に関しては、**1年次の後期はじめ（9月）に教職課程ガイダンス**を行いますので、教職課程の履修を希望する人は必ず出席して下さい。また、1年次生以上で教職課程を履修する人には、常に**教職課程掲示板**に注意するとともに、**別冊の「教職課程要覧」**（教職課程ガイダンス時に配布）に詳しい履修手続きなどが記載されていますので、参照して下さい。

2-1 取得できる教育職員免許状の種類および教科

免許状の種類	教 科	取得できる該当学科
高等学校教諭1種免許状	工 業	全学科
	情 報	全学科

2-2 免許状取得資格・必要単位数

教育職員免許状を取得しようとする人は、免許状の種類に応じ、次の表に掲げる所定の単位を修得しなければなりません。

[平成20年度以降の入学生用]

免許状の種類	基礎資格	要 修 得 単 位 数		
		共通教育科目	教職に関する科目	教科に関する科目
高等学校教諭1種免許状	学士の称号を有すること	日本国憲法 2 体育※1 2 外国語 2 情報※2 2	27	工業 32 情報 32

*人間科学科目の哲学を修得することが望ましい。

[平成19年度以前の入学生用]

免許状の種類	基礎資格	要 修 得 単 位 数		
		共通教育科目	教職に関する科目	教科に関する科目
高等学校教諭1種免許状	学士の称号を有すること	日本国憲法 2 体育※1 2 外国語 2 情報※2 2	24	工業 35 情報 35

*人間科学科目の哲学を修得することが望ましい。

※1 「体育」とは、ここでは実技科目（体育基礎、トリムスポーツ）を指す。

※2 要修得単位数中の共通教育科目「情報」の科目一覧

学 部	学 科	科 目 名
工学部第二部	電気電子工学科	コンピュータ基礎Ⅰ
	電気工学科	コンピュータ基礎Ⅰ (旧：コンピュータ基礎および演習Ⅰ)
	電子工学科	コンピュータ基礎Ⅰ
	機械工学科	コンピュータ基礎および演習Ⅰ
	情報通信工学科	コンピュータプログラミングおよび演習Ⅰ (平成20年度以降の入学生)
コンピュータ基礎および演習 (平成19年度以前の入学生)		

編入学の場合、専門教育科目で「R」で表示された科目は、教育職員免許状を取得しようとするとき、教科に関する科目の単位には20単位までしか算入されない（ただし、何ら課程認定を受けていない大学、短大から編入した学生に限る）ので認定を希望しないものは、その旨を4月末日までに工学部・未来科学部事務部（教務担当）へ申し出てください。

2-3 教職に関する科目

1年次生から履修することができます。

次表に掲げる授業科目のうちから、免許状に応じて単位数を修得しなければなりません。

[平成23年度以降の入学生用]

免許法上の区分		最低修得単位	授業科目名	単位数	備考
第二欄	に教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	教 職 入 門	2	高校免許必修科目
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）			
		進路選択に資する各種の機会の提供等			
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教 育 学 概 論	2	高校免許必修科目
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	教 育 心 理 学	2	高校免許必修科目
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教 育 社 会 学	2	高校免許必修科目
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	教 育 課 程 論	2	高校免許必修科目
		特別活動の指導法	特 別 活 動 論	1	
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育の方法と技術	2	
		各教科の指導法	工 業 科 教 育 法	4	高校免許必修科目 免許教科に応じて履修
			情 報 科 教 育 法	4	
		道徳の指導法	道 徳 教 育 論	2	教職又は教科に関する科目に充当可能
第五欄	教育実習		教 育 実 習 セ ミ ナ ー	2	高校免許必修科目
			教 育 実 習 I	2	高校免許必修科目
第六欄	進路指導等に関する科目	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教 育 相 談	2	高校免許必修科目
		生徒指導の理論及び方法	生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2	高校免許必修科目
		進路指導の理論及び方法			
第六欄	教職実践演習		教 職 実 践 演 習 (高)	2	高校免許必修科目

〔平成22年度入学生用〕

免許法上の区分		最低修得単位	授業科目名	単位数	備考
第二欄	に教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	教 職 概 論	2	高校免許必修科目
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）			
		進路選択に資する各種の機会の提供等			
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教 育 原 理	2	高校免許必修科目
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	教 育 心 理 学	2	高校免許必修科目
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教 育 社 会 学	2	高校免許必修科目
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	教 育 課 程 論	2	高校免許必修科目
		特別活動の指導法	特 別 活 動 論	1	
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育の方法と技術	2	
		各教科の指導法	工 業 科 教 育 法	4	高校免許必修科目 免許教科に応じて履修
			情 報 科 教 育 法	4	
		道徳の指導法	道徳教育の研究	2	教職又は教科に関する科目に充当可能
第五欄	教育実習		教育実習セミナー	2	高校免許必修科目
			教 育 実 習 I	2	高校免許必修科目
第六欄	教職実践演習		2	2	高校免許必修科目

[平成20・21年度の入学生用]

		免許法上の区分	最低修得単位	授業科目名	単位数	備考
第二欄	に教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	教 職 概 論	2	高校免許必修科目
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）				
		進路選択に資する各種の機会の提供等				
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教 育 原 理	2	高校免許必修科目
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教 育 心 理 学	2	高校免許必修科目
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教 育 社 会 学	2	高校免許必修科目
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	6	教 育 課 程 論	2	高校免許必修科目
		特別活動の指導法		特 別 活 動 論	1	
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育の方法と技術	2	
		各教科の指導法		工 業 科 教 育 法	4	高校免許必修科目 免許教科に応じて履修
				情 報 科 教 育 法	4	
		道徳の指導法		道徳教育の研究	2	教職又は教科に関する科目に充当可能
第五欄	総合演習		2	総 合 演 習	2	高校免許必修科目
		進路指導等に関する科目	4	教育相談	2	高校免許必修科目
					生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論
進路指導の理論及び方法						
第六欄	教育実習		3	教育実習セミナー	2	高校免許必修科目
				教 育 実 習 I	2	高校免許必修科目

〔平成19年度以前の入学生用〕

免許法上の区分		最低修得単位	授業科目名	単位数	備考			
第二欄	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	教 職 概 論	2	高校免許必修科目			
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）						
		進路選択に資する各種の機会の提供等						
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教 育 原 理	2	高校免許必修科目			
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	教 育 心 理 学	2	高校免許必修科目			
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教 育 社 会 学	2	高校免許必修科目			
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	教育方法・課程論 （特別活動を含む）	2	高校免許必修科目			
		特別活動の指導法						
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	6	工業科教育法	4	高校免許必修科目 免許教科に於いて履修		
		各教科の指導法						
道徳の指導法	情報科教育法	4						
第五欄	総合演習		道徳教育の研究	2	教職又は教科に関する科目に充当可能			
		生徒指導等に関する科目	進路指導等に関する科目	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	4	教 育 相 談	2	高校免許必修科目
				生徒指導の理論及び方法				
進路指導の理論及び方法	生徒・進路指導論			2	高校免許必修科目			
第六欄	教育実習		3	教育実習セミナー	2	高校免許必修科目		
				教育実習Ⅰ	2	高校免許必修科目		

* 高等学校 1種免許状「工業」を取得する場合の臨時措置

高等学校教諭 1種免許状「工業」を取得する場合は、当分の間、教職に関する科目の単位の全部または一部を、工業の教科に関する科目の単位で替えられることになっています（教育職員免許法附則11項）。したがって、教職に関する科目の単位を全く修得しなくても、前ページ記載の共通教育科目を修得し、かつ工業の教科に関する科目の「職業指導：4単位」を含め59単位以上修得することにより、工業の免許状が取得できます。

しかし、教職に関する科目は教員となるための基本的な科目であり、この措置に頼ることなく、少なくとも教職入門（教職概論）、教育学概論（教育原理）、教育心理学、工業科教育法については修得しておくことが必要と思われます。

また、同じ免許状を取得するにしても、教職に関する科目を修得しているといわないとでは、教職についた場合はもちろんのこと、将来社会に出てからの役立ち方にも大きな差異が出てくる可能性があります。こうした点からも、教職に関する科目が重要な科目であることを十分に認識して、できるだけ修得するよう心がけてください。

2-4 教科に関する科目

取得希望教科によって別表の科目を1年次生から履修する必要があります。

〔工業〕

工学部第二部 24年度

免許状の種類・教科	免許法施行規則に定める科目群[教職コード]	最低修得単位数	該当科目 ()内は単位数
高校1種・工業	工業の関係科目 [160工業]	1	科目配当表の教職コード欄参照
	職業指導 [160工業]	1	職業指導(4)
	網掛け部分の科目を必ず履修し合計32又は35単位以上取得のこと。 (注1：網掛け科目は包括的内容を含む科目、注2：合計単位数は入学年度によって異なる)		

〔情報〕

工学部第二部 24年度 全学科 (高校1種・情報)

・情報の免許状を取得するために必要な最低修得単位数

免許法施行規則に定める科目群[教職コード]	最低修得単位数	該 当 科 目 () 内は単位数
情報社会及び情報倫理[130情①]	1	E DMC 情報化社会と知的財産権(2)、情報化社会とコミュニケーション(2)、情報倫理(2)
		NE、NM、NC 情報化社会と知的財産権(2)、情報倫理(2)、情報化社会とコミュニケーション(2)
コンピュータ及び情報処理(実習を含む)[131情②]	1	E・D・M・NE・NM コンピュータ基礎および演習Ⅲ(2)
		NE 電気電子計測Ⅱ(2)、制御工学Ⅰ(2)、制御工学Ⅱ(2)、コンピュータ基礎Ⅱ(2)、デジタル回路Ⅰ(2)、デジタル回路Ⅱ(2)、計算機アーキテクチャ(2)、実用情報処理Ⅰ(2)、実用情報処理Ⅱ(2)
		E コンピュータ基礎Ⅱ(2)〔旧：コンピュータ基礎および演習Ⅱ〕、電気計測Ⅱ(2)、制御工学Ⅰ(2)、制御工学Ⅱ(2)、制御工学Ⅲ(2)、デジタル回路(2)、計算機アーキテクチャ(2)、計算機システム論(2)、実用情報処理Ⅰ(2)、実用情報処理Ⅱ(2)
		D コンピュータ基礎Ⅱ(2)、デジタル回路Ⅰ(2)、デジタル回路Ⅱ(2)、コンピュータ・アーキテクチャ(2)、コンピュータ・ハードウェア(2)、電子計測(2)、制御工学Ⅰ(2)、制御工学Ⅱ(2)、実用情報処理Ⅰ(2)、実用情報処理Ⅱ(2)、アルゴリズムとデータ構造Ⅰ(2)、アルゴリズムとデータ構造Ⅱ(2)
		NM、M コンピュータ基礎および演習Ⅱ(2)、メカトロニクス概論(2)、制御工学Ⅰ(2)、制御工学Ⅱ(2)、計測工学(2)、コンピュータプログラミングおよび演習(2)、実用情報処理Ⅰ(2)、実用情報処理Ⅱ(2)
		NC 情報通信工学実験(4)〔⇒23年入学生より、情報通信工学実験Ⅰ(2)、情報通信工学実験Ⅱ(2)、コンピュータプログラミングおよび演習Ⅱ(2)、データ構造とアルゴリズムⅠ(2)、データ構造とアルゴリズムⅡ(2)、計測と制御(2)、コンピュータ基礎および演習Ⅲ(2)、実用情報処理Ⅰ(2)、実用情報処理Ⅱ(2)〕
		C 情報通信工学実験(5)、コンピュータプログラミングおよび演習(3)、データ構造とアルゴリズムⅠ(2)、データ構造とアルゴリズムⅡ(2)、計測と制御(2)、ゲーム工学(2)、コンピュータ基礎および演習Ⅲ(2)、実用情報処理Ⅰ(2)、実用情報処理Ⅱ(2)
情報システム(実習を含む)[132情③]	1	E・D・M・NE・NM 情報システムの基礎および演習(2)
		NE ロボット工学(2)、システム工学(2)
		E メカトロニクス(2)
		D ロボット工学(2)、データ解析(2)
		NM、M 機械設計製図Ⅱ(2)、ロボット工学(2)、システム工学(2)
		NC 情報通信プロジェクト(4)、データベース(2)、情報システム論(2)、情報システムの基礎および演習(2)
情報通信ネットワーク(実習を含む)[133情④]	1	E・D・M・NE・NM 情報通信ネットワークの基礎および演習(2)
		NE 通信方式(2)、情報理論(2)
		E 通信概論(2)、情報工学(2)、システム工学(2)
		D 情報理論(2)、通信方式(2)
		NC、C 情報通信メディア基礎(2)、通信ネットワーク(2)、情報ネットワークⅠ(2)、情報ネットワークⅡ(2)、ネットワークセキュリティ(2)、情報通信ネットワークの基礎および演習(2)、インターネットプログラミング(2)
マルチメディア表現及び技術(実習を含む)[134情⑤]	1	E・D・M・NE・NM マルチメディア表現技術の基礎および演習(2)
		NE マルチメディア工学(2)
		E マルチメディア工学(2)
		D 音響工学(2)、マルチメディア工学(2)
		NM、M 機械設計製図Ⅰ(2)、計算機援用設計(2)、マルチメディア工学(2)
		NC、C メディア表現学(2)、コンピュータグラフィックスとアニメーション(2)、コンピュータグラフィックスとモデリング(2)、音メディア情報学(2)、画像処理工学(2)、マルチメディア表現技術の基礎および演習(2)、マルチメディア工学(2)
情報と職業[135情⑥]	1	全学科 情報と職業(2)

網掛け部分の科目を必ず履修し合計32又は35単位数以上取得のこと。
 (注1：網掛け科目は包括的内容を含む科目、注2：合計単位数は入学年度によって異なる)

参 考

教育職員免許法 第六条に「3. 一以上の教科についての教諭の免許状を有する者に他の教科についての教諭の免許状を授与するため行う教育職員検定は、第一項の規定にかかわらず、受験者の人物、学力及び身体について行う。この場合における学力の検定は、前項の規定にかかわらず、別表第四の定めるところによって行わなければならない。」とあります。この法に基づき工学部第二部の学生は高校：工業又は情報免許の取得の上卒業後、個人申請を行うことによって、高校：数学の免許状を取得することができます。しかしこの場合昼間学部の数学の科目を取得しなければなりません。具体的履修方法に関しては、教職課程ガイダンスおよび教職課程掲示板において確認してください。

2-5 教職課程の履修手続

教職課程履修願（用紙（工学部・未来科学部事務局：教務担当で配布）の提出と履修届は、正規の授業科目と同時に）。



教職課程履修費（10,000円）の納入（指定期日に経理部（会計担当）へ）。



教職課程履修券の発行。

2-6 教育実習

教育実習は、4年次生のとき、中学校または高等学校において2週間以上にわたって教育活動（教壇実習および生徒指導等）に参加することによっておこなわれます。但し高等学校教諭1種免許状「工業」を前記の臨時措置により取得しようとする場合にかぎり、必ずしも教育実習をおこなう必要はありません。

(1) 教育実習Ⅰ・履修の条件

- ① 4年次生で、1年次生から教職課程を履修し、原則として教職入門（教職概論）・教育学概論（教育原理）・教育心理学・教育実習セミナー・教育実習をする教科に係わる教科教育法の単位を修得していること。
- ② 教員免許状取得見込み確実で、教職に就く意思があること。
- ③ 伝染の恐れのある疾病若しくは教育実習を行なう上で妨げとなる機能上の欠陥又は精神障害がないこと。
- ④ 学校の正常な教育活動を妨げないこと。（②から④は、「東京都公立学校教育実習取扱要綱」による。）
- ⑤ 教育実習校は原則として、自分の出身中学、高等学校と交渉し内諾を得る事の出来る者。
- ⑥ 教育実習校の内諾を得た者全てが教育実習を許可されるわけではありません。3年次の後期に学業成績、教職課程履修状況、単位取得状況などを調査し、必要があると判断された者は、「教育実習生の適性検査」(面接)を実施します。実習生としての適正に欠けると判断されたものには、教育実習の中止を勧告します。

(2) 教育実習校について

都内公立学校の実習受入れ数は非常に少なく、東京電機大学高等学校の受入れ数も制限があるので、下記の個人交渉校で実習するように努めてください。

- ・ **個人交渉校** 自分の出身高等学校など縁故のある都内私立学校または他府県公立・私立校で、個人交渉により実習を認められた学校。実習日時・教科が内定したら工学部・未来科学部事務局(教務担当)へ連絡してください。その連絡に基づいて本学部で作成する教育実習依頼状などを、実習校の校長に提出しなければなりません。

【教育実習校（母校）の内諾について】

- *教職課程履修者の3年生で、次年度教育実習を行うものは、3年次前期（6月中）までに教育実習の内諾を母校にてもらい、その旨を工学部・未来科学部事務部（教務担当）まで連絡して下さい。
- *内諾の依頼を母校に行く際には、事前に電話連絡を行い、先方の指定の日時に学校を訪問すること。その際に、教職志望者としての服装・言動に十分注意するようにして下さい。
- *報告のない者の教育実習は、基本的に行えませんので必ず報告するようにして下さい。

(3) 教育実習の手続

教育実習願の提出（用紙は工学部・未来科学部事務部（教務担当））。



教育実習費（実習校によって異なる実費のみ納入）



下記の書類を用意（工学部・未来科学部事務部（教務担当）で用意。実習生が実習校へ携行）。

- 1) 誓約書 -----
 - 2) 身体に関する証明書 -----
 - 3) 教育実習評価表
 - 4) 教育実習終了証明
 - 5) 教育実習日誌（実習生各自で用意すること）
 - 6) 出勤簿
- 東京都公立校で実習する場合

(4) 教育実習上の注意

実習期間中は、将来教壇に立つのに恥ずかしくない実習をする。

教育実習が終了したらすみやかに、3) 教育実習評価表、4) 教育実習終了証明、5) 教育実習日誌を工学部・未来科学部事務部（教務担当）へ提出してください。また実習後、実習生は実習校へ礼状を欠かすことのないよう十分留意してください。

2-7 教育職員免許状の申請・交付・証明

教育職員免許状の授与権者は各都道府県の教育委員会ですが（教育職員免許法第5条第6項）、その授与申請には次の二つの方法があります。

- (1) **個人申請** 卒業後（4月中旬以降）、個人で直接、居住地の都道府県教育委員会で免許状の交付を受ける方法。
- (2) **一括申請** 授与申請は上記の個人申請が原則ですが、卒業式当日に免許状交付を必要とする人については、工学部・未来科学部事務部（教務担当）でその事務を代行し、東京都教育委員会に一括申請をおこないます。

(3) 一括申請の場合の手続と免許状の交付

- 1) 5月に一括申請希望届を受付け、1月末に宣誓書に署名・捺印をし、手数料を添えて指定の期日に工学部・未来科学部事務部（教務担当）へ提出してください。
- 2) これに基づき、東京都教育委員会による一括審査がおこなわれます。但し、授与願の記入不備等で不可となった場合は、卒業後の個人申請となりますから、注意して手続きしてください。
- 3) 一括審査に合格した人に対しては、卒業式当日に免許状を交付します。そのさい、印鑑と教職課程履修券を持参してください。

(4) 免許状取得見込証明書

教員採用試験を受験するさい必要になる免許状取得見込証明書は、現在履修中の授業科目も取得見込として工学部・未来科学部事務部（教務担当）で発行します。

(5) 免許状取得証明書

卒業後、免許状取得証明書が必要になったときは、東京都教育委員会へ請求することができますが、免許状の再発行はおこなわれません。

2-8 大学院で取得できる「専修免許状」について

大学院では、自分の所属する専攻学科の「教科に関する科目」を24単位以上修得し課程を修了すれば専攻ごとに認定された教科の「専修免許状」が取得できます。

そのためには、学部において「1種免許状」を取得するか、またはそれに必要な科目・単位を修得していることが必要です。

2-9 教職課程担当教員

	氏 名	館	階	室番号
教 授	大 江 正比古	4号館	9	40915B
※ 教 授	広 石 英 記	4号館	9	40912B
准 教 授	黒 沢 学	4号館	9	40914B
准 教 授	金 築 智 美	4号館	9	40915A

※印教員：教職課程主任

教職課程履修手続から免許状交付まで

年 月	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生
4 月上旬				教育実習セミナー 都内公立校教育実習予定者面接
中旬	共通教育科目・教科に関する科目履修申告履修開始		教育実習希望受付（～9月まで） 実習校までの交通機関調査	教育実習予定者提出書類準備
5 月中旬				教育実習費納入（実費） 免許状一括申請希望届提出
6 月				教育実習Ⅰ 実習後、教育実習日誌提出
7 月下旬 9 月上旬	教職課程ガイダンス	夏 期 集 中 講 義 (2 ・ 3 ・ 4 年 生)		
9 月中旬	教職に関する科目 履修申告、履修開始		教育実習校内諾ぐ切 「教育実習セミナー」の履修	
下旬	教職課程履修費納入		教育実習生の適性検査(面接)	
10 月				
11 月				
12 月				
1 月中旬 下旬				免許状一括申請者 「免許状取得申請書」提出 授与願確認、署名、捺印
2 月				
3 月中旬				免許状交付
下旬				

*平成22年度以降の教職課程履修者は、教育職員免許法の改正により新設された「教職実践演習4年、2単位」が必修科目となるとともに、4年間の教職課程での学習の振り返りが可能なポートフォリオの役割が期待される『履修カルテ』を各自が記載し保存することが義務付けられています。『履修カルテ』の記載内容や記載方法に関しては、授業中の指示もしくは教職課程の掲示により周知します。

電気主任技術者（電気電子工学科・電気工学科）

電気主任技術者

事業用電気工作物を設置する者は、事業用電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督をさせるため、経済産業省令で定めるところにより、主任技術者免状の交付を受けている者のうちから、主任技術者を選任しなければならない。

4 主任技術者は、事業用電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督の職務を誠実に行わなければならない。

（電気事業法第43条第1項及び第4項抜粋）

免状の種類（電気主任技術者の項抜粋）

次の3種類があり、それぞれ保安の監督ができる範囲が定められています。

免状の種類	保安の監督をすることができる範囲
第1種電気主任技術者	事業用電気工作物の工事、維持および運用
第2種電気主任技術者	電圧十七万ボルト未満の事業用電気工作物の工事、維持及び運用
第3種電気主任技術者	電圧五万ボルト未満の事業用電気工作物（出力五千キロワット以上の発電所を除く）の工事、維持及び運用

（電気事業法第44条・同法施行規則56条）

学歴または資格、および実務経験による免状取得

電気電子工学科・電気工学科在学中に、A表の科目区分ごとに必要単位数以上の単位数を修得し、卒業後に、B表の実務経験を有すれば、免状の種類に応じて申請により電気主任技術者免状が取得できます。

A表－1 必要単位数および授業科目

（電気電子工学科 平成25年3月卒業者に適用）

●印は必修科目

科目区分	必要単位数	授業科目名	配当単位数	備考	
1. 電気・電子工学等の基礎	17単位以上	●電磁気学および演習Ⅰ	4		
		電磁気学および演習Ⅱ	4		
		●回路理論および演習Ⅰ	2		
		●回路理論および演習Ⅱ	2		
		回路理論および演習Ⅲ	2		
		回路理論および演習Ⅳ	2		
		過渡現象	2		
		電気電子計測Ⅰ	2		いずれか1科目は修得すること
		電気電子計測Ⅱ	2		
		電子デバイスⅠ	2		
電子デバイスⅡ	2				
電子回路Ⅰ	2				
電子回路Ⅱ	2				

		デジタル回路Ⅰ デジタル回路Ⅱ	2 2	
			34	
2. 発電、変電、送電、配電、電気材料等 (電力科目)	7単位以上	発電工学	2	必ず修得すること
		電力系統工学Ⅰ 電力系統工学Ⅱ	2 2	いずれか1科目は修得すること
		電気電子材料	2	必ず修得すること
		高電圧工学 システム工学	2 2	
			12	
3. 電気・電子機器、自動制御、電気エネルギーの利用および情報伝送・処理等 (機械科目)	10単位以上	電気機器Ⅰ 電気機器Ⅱ	2 2	いずれか1科目は修得すること
		パワーエレクトロニクス	2	必ず修得すること
		制御工学Ⅰ 制御工学Ⅱ	2 2	いずれか1科目は修得すること
		ロボット工学 計算機アーキテクチャ コンピュータ基礎Ⅰ コンピュータ基礎Ⅱ 情報理論	2 2 2 2 2	
			20	
4. 電気法規・電気施設管理	1単位以上	電気法規	2	必ず修得すること
実験・実習	6単位以上	●電気電子工学基礎実験Ⅰ ●電気電子工学基礎実験Ⅱ ●電気電子工学実験Ⅰ ●電気電子工学実験Ⅱ	2 2 2 2	
			8	
設計・製図	2単位以上	電機設計および電気製図	2	必ず修得すること
計	43単位以上		78	

A表-2 必要単位数および授業科目

電気工学科 (平成25年3月卒業者に適用)

●印は必修科目

科目区分	必要単位数	授業科目名	配当単位数	備考
1. 電気・電子工学等の基礎	17単位以上	●電磁気学および演習Ⅰ	4	
		電磁気学および演習Ⅱ	4	
		高周波電磁気学	2	
		●回路理論および演習Ⅰ	2	
		●回路理論および演習Ⅱ	2	
		回路理論および演習Ⅲ	2	
		回路理論および演習Ⅳ	2	
		過渡現象	2	
		電気計測Ⅰ 電気計測Ⅱ	2 2	
電子デバイスⅠ	2			

		電子デバイスⅡ 電子回路Ⅰ 電子回路Ⅱ デジタル回路	2 2 2 2 34	
2. 発電、変電、送電、配電、電気材料等 (電力科目)	7単位以上	発電工学Ⅰ 発電工学Ⅱ	2 2	いずれか1科目は修得すること
		電力系統工学Ⅰ 電力系統工学Ⅱ	2 2	いずれか1科目は修得すること
		電気電子材料	2	必ず修得すること
		高電圧工学 システム工学	2 2 14	
3. 電気・電子機器、自動制御、電気エネルギーの利用および情報伝送・処理等 (機械科目)	10単位以上	電気機器Ⅰ 電気機器Ⅱ	2 2	いずれか1科目は修得すること
		パワーエレクトロニクス	2	必ず修得すること
		制御工学Ⅰ 制御工学Ⅱ	2 2	いずれか1科目は修得すること
		制御工学Ⅲ 照明工学 ドライブシステム メカトロニクス 計算機アーキテクチャ コンピュータ基礎および演習Ⅰ コンピュータ基礎および演習Ⅱ 情報工学	2 2 2 2 2 3 3 2 28	
4. 電気法規・電気施設管理	1単位以上	電気法規	2	必ず修得すること
実験・実習	6単位以上	●電磁気学実験Ⅰ ●電磁気学実験Ⅱ ●電気工学実験Ⅰ ●電気工学実験Ⅱ	2.5 2.5 2.5 2.5 10	
設計・製図	2単位以上	電機設計および電気製図	2	必ず修得すること
計	43単位以上		90	

注意事項

1、原則として在学中に修得したものに限りません。

2、単位不足についての対応は以下のとおりです。

- ①卒業後3年以内であれば科目等履修生制度で補充することができますが、A表の科目区分ごとに1科目のみです。

②国家試験の電気主任技術者試験（第一次試験）に合格することにより、不足単位を補うことができますが、以下の点に留意してください。（卒業後4年以降も有効です）

・受験できる科目は「法規」を含む2科目までとされ、試験科目はA表の科目区分の2.（電力科目）、3.（機械科目）に限られています。

3、各科目区分ごとの「必要単位数」は省令上の「必要最低限の単位数」ですから、相当数上まわる単位数を修得しておいてください。

B表 実務経験（学歴による区分→大学若しくはこれと同等以上の教育機関の項抜粋）

免状の種類	実務の経験	
	実務の内容	経験年数
第1種 電気主任技術者	電圧5万ボルト以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数との和が5年以上
第2種 電気主任技術者	電圧1万ボルト以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数との和が3年以上
第3種 電気主任技術者	電圧500ボルト以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数との和が1年以上

前ページにより、電気主任技術者免状を取得しようとする場合は、最寄りの産業保安監督部、電力安全課（那覇産業保安監督事務所は、保安監督課）となります。

北海道産業保安監督部電力安全課

〒060-0808 札幌市北区北八条西2丁目1-1 札幌第一合同庁舎

Tel 011-709-1725

関東東北産業保安監督部東北支部電力安全課

〒980-0014 仙台市青葉区本町3丁目2-23 仙台第2合同庁舎

Tel 022-263-1111（代表）

関東東北産業保安監督部電力安全課

〒330-9715 さいたま市中央区新都心1-1 さいたま新都心合同庁舎1号館11階

Tel 048-600-0388

中部近畿産業保安監督部電力安全課

〒460-8510 名古屋市中区三の丸2丁目5-2 中部経済産業局総合庁舎3階

Tel 052-951-2817

中部近畿産業保安監督部北陸産業保安監督署

〒930-0856 富山市牛島新町11-7 富山地方合同庁舎3階

Tel 076-432-5580

中部近畿産業保安監督部近畿支部管理課

〒540-8535 大阪市中央区大手前1丁目5-44 合同庁舎1号館

Tel 06-6966-6061

中国四国産業保安監督部電力安全課

〒730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 広島合同庁舎2号館4階

Tel 082-224-5742

中国四国産業保安監督部四国支部電力安全課

〒760-8512 高松市サンポート3-33 高松サンポート合同庁舎5階

Tel 087-811-8582 (代表)

九州産業保安監督部電力安全課

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目11-1 福岡合同庁舎本館8階

Tel 092-482-5519~5522

那覇産業保安監督事務所保安監督課

〒900-0006 那覇市おもろまち2丁目1-1 那覇第2地方合同庁舎1号館4階

Tel 098-866-6474

(注)・電気主任技術者用の単位取得証明書は工学部・未来科学部事務部で発行しますが、通常の単位取得証明書は使用できません。

経済産業省の定めた様式がありますので必ず「電気主任技術者用単位取得証明書」を申し込んで下さい。

・国家試験関係は下記に問合わせて下さい。

(財)電気技術者試験センター (<http://www.shiken.or.jp/>)

(〒104-8584 中央区八丁堀2-9-1 秀和東八重洲ビル8階)

TEL. 03-3552-7691

第一級・第二級陸上無線技術士 (電気電子工学科・電子工学科)

陸上無線技術士

電波法に定められる放送局などの全ての無線設備の技術操作及び設備管理を行うことができる技術者です。

資格の種類と操作範囲（本学が認定されている資格のみ抜粋）

（電波法第40条・無線従事者の操作の範囲等を定める政令から抜粋）

免許の種類	操 作 範 囲
第一級陸上無線技術士	無線設備の技術操作
第二級陸上無線技術士	次に掲げる無線設備の技術操作 (1) 空中線電力2キロワット以下の無線設備（テレビジョン放送局の無線設備を除く） (2) テレビジョン放送局の空中線電力500ワット以下の無線設備 (3) レーダーで(1)に掲げるもの以外のもの (4) (1)および(3)に掲げる無線設備以外の無線航行局の無線設備で960メガヘルツ以上の周波数の電波を使用するもの

国家試験科目の一部免除

電気電子工学科、電子工学科在学中に、次ページの表の科目区分ごとに必要単位数以上の単位数を修得して卒業すれば、第一級および第二級陸上無線技術士国家試験の試験科目「無線工学の基礎」が免除されます。ただし、**卒業の日から3年以内に限られます。**

（無線従事者規則第7条）

「無線工学の基礎」免除のために必要な修得科目・単位数

電気電子工学科（平成25年3月卒業生適用）

●印は必修科目

認定基準に定められた科目 (必要時間数)		電気電子工学科対応科目 (単位数)	時間数	単位修得の要件
基礎専門教育科目	数 学 (210)	線形代数学Ⅰ (2) 線形代数学Ⅱ (2) ●微分積分学および演習Ⅰ (4) 微分積分学および演習Ⅱ (4) 微分方程式Ⅰ (2) 微分方程式Ⅱ (2)	30 30 60 60 30 30	210時間分を修得すること
	物 理 (105)	物理学Ⅰ (2) 物理学Ⅱ (2) 物理学Ⅲ (2) 物性物理学 (2)	30 30 30 30	必ず修得すること
	電 磁 気 学 (120)	●電磁気学および演習Ⅰ (4) 電磁気学および演習Ⅱ (4)	60 60	必ず修得すること
	電 気 回 路 (120)	●回路理論および演習Ⅰ (2) ●回路理論および演習Ⅱ (2) 回路理論および演習Ⅲ (2) 回路理論および演習Ⅳ (2) 過渡現象 (2)	30 30 30 30 30	120時間分を修得すること
	半導体及び電子管並びに電子回路の基礎 (90)	電子デバイスⅠ (2) 電子回路Ⅰ (2) 電子回路Ⅱ (2)	30 30 30	必ず修得すること
	電 気 磁 気 測 定 (180)	電気電子計測Ⅰ (2) 電気電子計測Ⅱ (2) ●電気電子工学基礎実験Ⅰ (2) ●電気電子工学基礎実験Ⅱ (2)	30 30 60 60	必ず修得すること

電子工学科（平成25年3月卒業者に適用）

認定基準に定められた科目 (必要時間数)		電子工学科対応科目 (単位数)	時間数	単位修得の要件
基礎 専門 教育 科目	数 (210) 学	線形代数学Ⅰ (2) 線形代数学Ⅱ (2) 微分積分学および演習Ⅰ (4) 微分積分学および演習Ⅱ (4) 微分方程式Ⅰ (2) 微分方程式Ⅱ (2)	30 30 60 60 30 30	210時間分を修得すること
	物 (105) 理	物理学ⅠA (2) 物理学ⅠB (2) 物理学ⅡA (2) 物理学ⅡB (2)	30 30 30 30	必ず修得すること
	電 磁 気 学 (120)	電磁気学Ⅰ (2) 電磁気学Ⅱ (2) 電磁気学演習Ⅰ (2) 電磁気学演習Ⅱ (2)	30 30 30 30	同 上
	電 気 回 路 (120)	電気回路Ⅰ (2) 電気回路Ⅱ (2) 電気回路演習 (2) 過渡現象 (2)	30 30 30 30	同 上
	半導体及び電子管並びに電子回路の基礎 (90)	電子デバイス工学Ⅰ (2) 電子現象 (2) 電子回路入門Ⅰ (2) 電子回路入門Ⅱ (2)	30 30 30 30	「電子回路入門Ⅰ・電子回路入門Ⅱ」を含めて90時間分を修得すること
	電 気 磁 気 測 定 (180)	電子計測 (2) 電子工学基礎実験Ⅰ (2.5) 電子工学基礎実験Ⅱ (2.5)	30 75 75	必ず修得すること

国家試験

年2回（7月・1月）に行なわれ、詳しいことは、官報に公示されます。

「財団法人 日本無線協会」によって実施されます。試験申請書など必要な手続や質問等については、下記に問い合わせください。

(財)日本無線協会本部

(<http://www.nichimu.or.jp/>)

〒104-0053 中央区晴海3丁目3-3

TEL. 03-3533-6022

第一級陸上特殊無線技士・第三級海上特殊無線技士 (電気電子工学科・電子工学科・情報通信工学科)

業務内容

第一級陸上特殊無線技士

電気通信事業者・電力会社・放送事業者・公共機関などで利用されるマイクロ波の多重無線設備の操作や第二級・第三級陸上特殊無線技士の操作範囲であるタクシー、トラックなどの陸上移動関係の通信を行う無線局の操作に必要な免許です。

第三級海上特殊無線技士

沿岸漁業用の小型漁船、モーターボートなどのレジャー船舶に開設した船舶局の操作に必要な免許です。

資格の種類と操作範囲

(無線従事者の操作の範囲等を定める政令から抜粋)

資格の種類	操 作 範 囲
第一級陸上特殊無線技士	一、陸上の無線局の空中線電力500ワット以下の多重無線設備(多重通信を行うことができる無線設備でテレビジョンとして使用するものを含む。)で30メガヘルツ以上の周波数の電波を使用するものの技術操作 二、前号に掲げる操作以外の操作で第二級陸上特殊無線技士の操作の範囲に属するもの
第三級海上特殊無線技士	一、船舶に施設する空中線電力5ワット以下の無線電話(船舶地球局及び航空局の無線電話であるものを除く。)で25010キロヘルツ以上の周波数の電波を使用するものの国内通信のための通信操作及びその無線電話(多重無線設備であるものを除く。)の外部の転換装置で電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作 二、船舶局及び船舶のための無線航行局の空中線電力5キロワット以下のレーダーの外部の転換装置で電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作

資格取得のための要件

電気電子工学科、電子工学科または情報通信工学科在学中に、次の表の科目区分ごとに必要な科目を修得して卒業した後、自分の住所を所轄する電気通信監理局に履修内容を証明することで資格が得られます。

第一級陸上特殊無線技士及び第三級海上特殊無線技士免状を取得しようとする場合は、最寄りの総合通信局となります。

関東総合通信局 無線通信部 航空海上課

〒102-8795

東京都千代田区九段南1-2-1（九段第3合同庁舎）

電話：03-6238-1749

URL:<http://www.soumu.go.jp/soutsu/kanto/>

第一級陸上特殊無線技士の資格を取得するために修得すべき科目

電気電子工学科（平成25年3月卒業者に適用）

区 分	授 業 科 目 名
無線機器学その他無線機器に関する科目	無線機器学
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	光・電磁波工学
電子計測その他無線測定に関する科目	電気電子計測Ⅰ 電気電子計測Ⅱ 高周波回路
電波法規その他電波法令に関する科目	通信法規

情報通信工学科（平成25年3月卒業者に適用）

区 分	授 業 科 目 名
無線機器学その他無線機器に関する科目	ワイヤレスシステム工学 通信システム
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	電波工学
電子計測その他無線測定に関する科目	計測と制御
電波法規その他電波法令に関する科目	通信法規

電子工学科（平成25年3月卒業者に適用）

区 分	授 業 科 目 名
無線機器学その他無線機器に関する科目	無線機器学
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	電磁波工学
電子計測その他無線測定に関する科目	電子計測 高周波回路
電波法規その他電波法令に関する科目	通信法規

第三級海上特殊無線技士の資格を取得するために修得すべき科目**電気電子工学科（平成25年3月卒業者に適用）**

区 分	授 業 科 目 名
無線機器学その他無線機器に関する科目	無線機器学
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	光・電磁波工学
電波法規その他電波法令に関する科目	通信法規

情報通信工学科（平成25年3月卒業者に適用）

区 分	授 業 科 目 名
無線機器学その他無線機器に関する科目	ワイヤレスシステム工学 通信システム
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	電波工学
電波法規その他電波法令に関する科目	通信法規

電子工学科（平成25年3月卒業者に適用）

区 分	授 業 科 目 名
無線機器学その他無線機器に関する科目	無線機器学
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	電磁波工学
電波法規その他電波法令に関する科目	通信法規

6 電気通信主任技術者 (電気電子工学科・電子工学科・情報通信工学科)

電気通信主任技術者

電気通信主任技術者は、事業用電気通信設備の工事・維持及び運用に関する事項を監督する資格者を言い、事業の規模、範囲等により必要とされる資格者証の種類が異なります。

(電気通信事業法第45条)

資格者証の種類と監督の範囲

(電気通信主任技術者規則第6条抜粋)

資格者証の種類	監督の範囲
伝送交換主任技術者	電気通信事業法第四十一条第一項及び第二項の電気通信事業の用に供する伝送交換設備並びにこれらに附属する設備の工事、維持及び運用
線路主任技術者	電気通信事業法第四十一条第一項及び第二項の電気通信事業の用に供する線路設備並びにこれらに附属する設備の工事、維持及び運用

国家試験科目の一部免除

電気電子工学科、電子工学科または情報通信工学科在学中に、次ページの表の科目区分ごとに必要単位数以上の単位数を修得すれば、在学中でも国家試験受験の際に試験科目のうち1科目（電気通信システム）が免除されます。

国家試験実施

試験申請の手続および受験については、受験希望地を担当する財団法人日本データ通信協会 (<http://www.shiken.dekyo.or.jp/center.html>) に問い合わせてください。

財団法人日本データ通信協会 電気通信国家試験センター

〒170-8585 豊島区巢鴨2-11-1 巢鴨室町ビル6階 TEL. 03-5907-6556

「電気通信システム」免除のために必要な修得科目・単位数

電気電子工学科（平成25年3月卒業者に適用）

●印は必修科目

認定基準に定められた科目 (必要時間数)		電気電子工学科対応科目 (単位数)	時間数	単位修得の要件
基礎 専門 教育 科目	数 学 (60)	●微分積分学および演習Ⅰ (4) 線形代数学Ⅰ (2) 線形代数学Ⅱ (2)	60 30 30	
	物 理 学 (60)	物理学Ⅰ (2) 物理学Ⅱ (2)	30 30	必ず修得すること
	電 磁 気 学 (60)	●電磁気学および演習Ⅰ (4) 電磁気学および演習Ⅱ (4)	60 60	
	電 気 回 路 (60)	●回路理論および演習Ⅰ (2) ●回路理論および演習Ⅱ (2)	30 30	必ず修得すること
	電 子 回 路 (60)	電子回路Ⅰ (2) 電子回路Ⅱ (2)	30 30	必ず修得すること
	デ ィ ジ タ ル 回 路 (30)	デジタル回路Ⅰ (2) デジタル回路Ⅱ (2)	30 30	
	情 報 工 学 (30)	情報理論 (2)	30	必ず修得すること
	電 気 計 測 (60)	電気電子計測Ⅰ (2) 電気電子計測Ⅱ (2) ●電気電子工学基礎実験Ⅰ (2) ●電気電子工学基礎実験Ⅱ (2)	30 30 60 60	
専 門 教 育 科 目	伝 送 線 路 工 学 (30)	高周波回路 (2)	30	必ず修得すること
	交 換 工 学 (30)	※通信工学の基礎 (2)	30	
	電 気 通 信 シ ス テ ム (30)	通信方式 (2)	30	

※印は情報通信工学科の科目ですが、履修登録期間中に「他学部他学科科目履修願」を提出することにより履修可能です。

情報通信工学科（平成24年度入学者から適用予定）

●印は必修科目

認定基準に定められた科目 (必要時間数)		情報通信工学科対応科目 (単位数)	時間数	単位修得の要件
基礎 専門 教育 科目	数 学 (60)	線形代数学Ⅰ (2) 線形代数学Ⅱ (2) 微分積分学および演習Ⅱ (4) 微分方程式Ⅰ (2)	30 30 60 30	
	物 理 学 (60)	物理学Ⅰ (2) 応用物理学 (2)	30 30	必ず修得すること
	電 磁 気 学 (60)	電磁気学の基礎および演習 (3) 電磁気学の応用 (2)	45 30	同上
	電 気 回 路 (60)	●電気回路の基礎および演習 (2) 回路網の基礎 (2)	30 30	同上
	電 子 回 路 (60)	エレクトロニクスの基礎 (2) エレクトロニクスの応用 (2)	30 30	同上
	ディジタル回路 (30)	論理回路および論理設計 (2)	30	同上
	情 報 工 学 (30)	基礎情報数学B(確率と情報) (2)	30	同上
	電 気 計 測 (60)	計測と制御 (2) ●情報通信基礎実験Ⅰ (2) ●情報通信基礎実験Ⅱ (2) ●情報通信工学実験Ⅰ (2) ●情報通信工学実験Ⅱ (2)	30 60 60 60 60	
専 門 教 育 科 目	伝 送 線 路 工 学 (30)	通信ネットワーク (2)	30	必ず修得すること
	交 換 工 学 (30)	通信工学の基礎 (2)	30	
	電 気 通 信 シ ス テ ム (30)	通信システム (2)	30	

電子工学科（平成25年3月卒業者に適用）

認定基準に定められた科目 (必要時間数)		電子工学科対応科目 (単位数)	時間数	単位修得の要件
基礎専門教育科目	数 学 (60)	微分積分学および演習Ⅰ (4) 線形代数学Ⅰ (2) 線形代数学Ⅱ (2)	60 30 30	
	物 理 学 (60)	物理学ⅠA (2) 物理学ⅠB (2)	30 30	必ず修得すること
	電 磁 気 学 (60)	電磁気学Ⅰ (2) 電磁気学Ⅱ (2)	30 30	同 上
	電 気 回 路 (60)	電気回路Ⅰ (2) 電気回路Ⅱ (2)	30 30	同 上
	電 子 回 路 (60)	電子回路入門Ⅰ (2) 電子回路入門Ⅱ (2)	30 30	同 上
	デ ィ ジ タ ル 回 路 (30)	デジタル回路Ⅰ (2) デジタル回路Ⅱ (2)	30 30	
	情 報 工 学 (30)	情報理論 (2)	30	必ず修得すること
専門教育科目	電 気 計 測 (60)	電子計測 (2) 電子工学基礎実験Ⅰ (2.5) 電子工学基礎実験Ⅱ (2.5)	30 75 75	
	伝 送 線 路 工 学 (30)	電磁波工学 (2)	30	左記の科目の中から 区分ごとに30時間分 を修得すること
	交 換 工 学 (30)	高周波回路 (2) 無線機器学 (2)	30 30	
	電 気 通 信 シ ス テ ム (30)	通信方式 (2)	30	

情報通信工学科（平成25年3月卒業者に適用）

●印は必修科目

認定基準に定められた科目 (必要時間数)		情報通信工学科対応科目 (単位数)	時間数	単位修得の要件
基礎 専門 教育 科目	数 学 (60)	線形代数学Ⅰ (2) 線形代数学Ⅱ (2) 微分積分学および演習Ⅱ (4) 微分方程式Ⅰ (2)	30 30 60 30	
	物 理 学 (60)	物理学Ⅰ (2) 応用物理学 (2)	30 30	必ず修得すること
	電 磁 気 学 (60)	電磁気学の基礎および演習 (3) 電磁気学の応用 (2)	45 30	同上
	電 気 回 路 (60)	●電気回路の基礎および演習 (2) 回路網の基礎 (2)	30 30	同上
	電 子 回 路 (60)	エレクトロニクスの基礎 (2) エレクトロニクスの応用 (2)	30 30	同上
	デ ィ ジ タ ル 回 路 (30)	論理回路および論理設計 (2)	30	同上
	情 報 工 学 (30)	基礎情報数学B(確率と情報) (2)	30	同上
	電 気 計 測 (60)	計測と制御 (2) ●情報通信基礎実験 (4) ●情報通信工学実験 (4)	30 120 120	
専門 教育 科目	伝 送 線 路 工 学 (30)	通信ネットワーク (2)	30	必ず修得すること
	交 換 工 学 (30)	通信工学の基礎 (2)	30	
	電 気 通 信 シ ス テ ム (30)	通信システム (2)	30	

電気工事士（第2種）（電気電子工学科・電気工学科）

電気工事士

ビル、工場、商店、一般住宅などの電気設備の安全を守るために600ボルト以下で受電する工事を行う資格です。

筆記試験免除のために必要な修得科目

在学中に、科目ブロックごとの授業科目の一つを修得して、卒業した人が対象となります。

電気電子工学科（平成25年3月卒業者に適用）

●印は必修科目

科目ブロック	該 当 授 業 科 目
(1) 電 気 理 論	●電磁気学および演習Ⅰ 電磁気学および演習Ⅱ ●回路理論および演習Ⅰ ●回路理論および演習Ⅱ 回路理論および演習Ⅲ 回路理論および演習Ⅳ
(2) 電 気 計 測	電気電子計測Ⅰ 電気電子計測Ⅱ
(3) 電 気 機 器	電気機器Ⅰ 電気機器Ⅱ パワーエレクトロニクス
(4) 電 気 材 料	電気電子材料
(5) 送 配 電	電力系統工学Ⅰ 電力系統工学Ⅱ
(6) 製 図	電機設計および電気製図
(7) 電 気 法 規	電気法規

電気工学科（平成25年3月卒業者に適用）

●印は必修科目

科目ブロック	該 当 授 業 科 目
(1) 電 気 理 論	●電磁気学および演習Ⅰ 電磁気学および演習Ⅱ ●回路理論および演習Ⅰ ●回路理論および演習Ⅱ 回路理論および演習Ⅲ 回路理論および演習Ⅳ
(2) 電 気 計 測	電気計測Ⅰ 電気計測Ⅱ
(3) 電 気 機 器	電気機器Ⅰ 電気機器Ⅱ パワーエレクトロニクス
(4) 電 気 材 料	電気電子材料
(5) 送 配 電	電力系統工学Ⅰ 電力系統工学Ⅱ
(6) 製 図	電機設計および電気製図
(7) 電 気 法 規	電気法規

試験についての問合せ

(財)電気技術者試験センター（<http://www.shiken.or.jp/>）

〒104-8584 中央区八丁堀2-9-1 秀和東八重洲ビル8階 TEL. 03-3552-7691

索引（五十音順）

<p style="text-align: center;">か</p> <p>ガイダンス..... 66</p> <p style="text-align: center;">き</p> <p>休講..... 66 教職..... 97 共通教育..... 63</p> <p style="text-align: center;">こ</p> <p>公開科目..... 64</p> <p style="text-align: center;">さ</p> <p>再履修..... 75</p> <p style="text-align: center;">し</p> <p>資格・免許..... 93 試験..... 70 社会人コース..... 83 自由科目..... 63 授業..... 65 進級..... 75</p> <p style="text-align: center;">せ</p> <p>前期末..... 79 選択科目..... 63 専門教育..... 63</p> <p style="text-align: center;">そ</p> <p>卒業..... 77 卒業見込..... 79</p>	<p style="text-align: center;">た</p> <p>単位数..... 63</p> <p style="text-align: center;">つ</p> <p>追試験..... 72 通年..... 65</p> <p style="text-align: center;">て</p> <p>定期試験..... 70 転学部..... 80</p> <p style="text-align: center;">は</p> <p>配当期..... 64</p> <p style="text-align: center;">ひ</p> <p>必修科目..... 63</p> <p style="text-align: center;">ふ</p> <p>不正行為..... 72</p> <p style="text-align: center;">ほ</p> <p>補講..... 66</p> <p style="text-align: center;">り</p> <p>履修上の注意（開講科目対応表）..... 89 履修登録..... 68</p>
---	---

2012

東京電機大学